



平成 30 年度

学社融合推進協議会活動報告集



平成 31 年 3 月
田辺市教育委員会

はじめに

近年、社会情勢がめまぐるしく変化するなか、人と人とのつながりの希薄化や孤立化が進むとともに、子供たちや家庭、そして、学校を取り巻く環境が大きく変化してきております。

このような状況の中で、自らの力で未来を切り拓き、たくましく生き抜いていく子供たちを育てるために、学校・家庭・地域が連携・協働し、「地域の教育力」と「学校の教育力」を相互に活用しながら一体となって、子育てや地域づくりに取り組むことが非常に重要となってきます。

田辺市教育委員会では、平成 19 年度から田辺市教育行政基本方針の最重点項目のひとつとして「学社融合の推進」を位置づけ、学校と公民館が連携・協力し、それぞれの地域の特色を活かしながら地域全体で子供たちを育てる取組を 12 年間継続・拡充してきました。

今年度は、これまでの取組を踏まえながら、幼稚園・小・中学校を対象に「学社融合推進協議会（学校運営協議会）」を設置し、「地域とともにある学校づくり」を目指して、組織の充実と課題に迫るための仕組みづくりを進めているところであります。

そうしたなか、上秋津地域では、平成 28 年度から 3 年間、文部科学省並びに和歌山県教育委員会・田辺市教育委員会の指定を受け、「学社融合」をさらに充実・発展させるため研究を進め、平成 30 年 11 月 25 日に発表会を開催しました。

テーマを「未来へつなぐ ふるさと上秋津 ～世代を繋ぐ・学びを繋ぐ・心を繋ぐ～」とし、上秋津幼稚園・上秋津小学校・上秋津中学校・上秋津公民館そして、上秋津町内会や秋津野塾など、各種団体の皆様が中心となり、地域総掛かりで活動に取り組みました。

当日の「ふれあい音楽会」をご覧いただいてもお分かりのことと存じますが、本発表はまさしく学校教育と社会教育を融合させたものでした。子供たちが未来の創り手となるために求められている資質・能力を育み、子供にどのような力をつけるかという目標を、園・学校と地域社会が共有し、地域の力を活かしながら学校教育活動を展開しているものであります。

まさに、本市が目指している学社融合推進協議会（学校運営協議会）と地域学校協働本部が両輪となり、共に一体的・効果的に機能を発揮していく学社融合の姿であります。

今年度からの学社融合推進協議会活動報告は、こういった実践を活動の記録として集録しております。

今後も、全ての園・学校で、公民館や地域と連携・協働して、学社融合の推進教育活動の充実と、地域の活性化に努めてまいりたいと考えております。

平成 31 年 3 月

田辺市教育委員会 教育長 佐 武 正 章

目 次

[小学校]

田辺第一小学校	1
田辺第二小学校	3
田辺第三小学校	5
芳養小学校	7
大坊小学校	9
稻成小学校	11
会津小学校	13
新庄小学校	15
新庄第二小学校	17
三栖小学校	19
長野小学校	21
上秋津小学校	23
秋津川小学校	25
上芳養小学校	27
中芳養小学校	29
田辺東部小学校	31
龍神小学校	33
上山路小学校	35
中山路小学校	37
咲楽小学校	39
中辺路小学校	41
近野小学校	43
鮎川小学校	45
三里小学校	47
本宮小学校	49

[中学校]

東陽中学校	51
明洋中学校	53
高雄中学校	55
新庄中学校	57
衣笠中学校	59
上秋津中学校	61
秋津川中学校	63
上芳養中学校	65
中芳養中学校	67
龍神中学校	69
中辺路中学校	71
近野中学校	73
大塔中学校	75
本宮中学校	77

[幼稚園]

新庄幼稚園	79
三栖幼稚園	81
上秋津幼稚園	83
中芳養幼稚園	85

[学社融合推進協議会活動報告集]



平成 30 年 11 月 25 日 上秋津地域共育コミュニティ本部事業 研究発表会のようす

学校・園名	田辺市立田辺第一小学校	公民館名	中部公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校の校区は、城下町の名残が豊かで、その地名や産業などがそれを示している歴史と伝統にあふれる地域である。また、南方熊楠や片山哲などゆかりの偉人も多く、熱心に学校教育活動を支援してくれる人材に恵まれている。これらの地域の人材や資源を生かし本校では、従来から、教科・総合的な学習の時間・クラブ活動などに地域の方をゲストティーチャーとして招いた活動を取り入れている。			
目 標	学校・園・地域	【学校】 ・地域の方々と触れあいながら、活動を通して伝統芸能や文化にふれることができる。 ・より専門的で充実した活動によって、達成感や満足感を培い、自主的・実践的な態度を育てる。 ・学年や学級を越え、地域の方々と仲間との活動を通して、望ましい人間関係を築くことができる。 【地域】 ・地域と子供たちとの交流の中で、互いが学び合っていることを自覚し、大人と子供の双方からつながりを築く。 ・学校と地域が連携した活動を展開する中で、子供たちも自分たちが地域の一員である自覚を持たせる。	
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織	
		・熊楠学（地域学習コーディネーター） ・田辺観光ボランティアガイド ・地域の方々 ・保護者	
取組（活動内容・ねらい・日時等） * 5、6年生の主な取組 【5年】 ◎校区にゆかりのある先人を調べよう。 ・熊楠学（地域学習コーディネーター）の方々から先人について学び、学んだことを新聞にまとめる。 ◎熊野古道や校区にゆかりのある城を調べよう。 ・6月の合宿では熊野本宮を訪れ、熊野古道を歩き歴史に触れる。 ・一学期に見学した丹鶴城と錦水城を詳しく調べ、まとめる。 【6年】 ◎地域再発見！私たちの町の誇り～3つの祭りを調べて～ ・テーマを考える。 <田辺第一小学校校区の伝統的な3つの祭り（田辺祭・湊祭・弁慶まつり）について調べる。> ・熊楠学の方々と招いて座談会を行う。 ・3つの祭りについてパソコンや本で調べ、まとめていく。 ・蟻通神社へ出向き、湊祭に詳しい方や蟻通神社の方に話を聞く。 ・田辺商工会議所に出向き、弁慶まつりについて話を聞く。 ・熊楠学の方々に話を聞く。 ・調べたことをまとめ、発表原稿を作る。 ・保護者、地域の方に発表する。 ・5年生に発表する。 ・最終のまとめをする。			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に来ていただいたり、学校から地域へ出向いたりして学ぶことができた。 ・公民館の力をお借りして、新たな地域の人材を発掘することができた。 ・地域の方から学ぶというのは子供たちだけでなく職員にとっても未知のことを知ることができ、地域を見つめ直す機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域について職員も学び、知識を深めていかなければならない。 ・子供たちの中から課題を見つけ、それに対して地域の方から教えてもらうという方向も検討していきたい。 ・今までお願いしていた地域の方を大切にしつつ、新たな人材の輪を広げていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の生きた歴史を学べたことで、郷土に誇りをもつことができた。 ・地域の方から教えてもらう機会があるのは、より深まりのある広い学びに繋がった。 ・現地に出向き、地域の方からお話を聞かせていただくことで、興味をもって学習に臨むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず自分たちで調べ、地域の方に教えてもらい、まとめる形としたが、それを地域に発信していきたい。 ・お話を聞いてまとめ、発信するだけでなく、児童が地域に貢献できるような工夫を盛り込めるとおもしろい。 ・児童の学習意欲を継続させていく工夫や学習形態の工夫が必要である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーや地域住民など、学校教職員以外の方から自分たちが住む地域のことについて学ぶことにより、大人との接し方、礼儀について学ぶ機会を持つことができた。 ・6年生の地域のお祭りについての学習では、実際にお祭りの実施に取り組む方から貴重なお話を聞くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが、自らの興味・関心を持つことについて、今後も主体的に考え、取り組んでいける仕組みを構築する必要がある。 ・地域に住む方からのお話は今しか聞けないことであると認識する。
地域・保護者（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通じて、普段は接点の少ない地域住民と子供の間で交流が生まれ、ゲストティーチャーや参加者など、地域住民から子供たちに、自分たちが住む地域のことについて伝えられる機会を作り出すことができた。 ・地域の方々が学社融合事業に参加することにより、子供たちとともに学ぶ喜びを得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は、授業参加の呼びかけを行うと多くの地域住民が参加してくれているが、ゲストティーチャーを含めた地域住民の高齢化が進んでいることから、新たな指導者や参加者を確保していくことを検討する必要がある。 ・より多くの地域の方知ってもらえるよう、学習成果の発表方法・機会を工夫していく。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ○評価 ・職員と地域の方が協働して地域の教材開発や授業づくりに取り組めた。 ・職員だけではできない活動が展開でき、子供たちは専門的な知識や技能を習得できた。 ・地域の方とふれあうことで、子供たちのコミュニケーションの機会が増えるとともに、取組への意欲が高まった。 ・大人に対する話し方や礼儀について、子供たちの意識が高くなった。 ・学習してきたことや実際に見てきたものを他の人にも知ってもらうために、ポスター形式でまとめたり、発表したりすることを通して、学校の取組を発信することができた。 ・ゲストティーチャーの方々も、子供たちと同様に目標をもって活動に取り組んでいただけた。		
○次年度に向けての取組の方向 ・地域の方の出番や役割分担など、よりよい融合の在り方を今後も研究していく。 ・学校だよりや公民館だよりを通して活動の様子や学習の成果を発信し、学社融合の取組を引き続き地域・保護者に浸透させていく。 ・課題や実践に工夫・改善を加える。 ・地域の方の知識や技能等がより授業に生かされるように充実させていく。 ・児童の学びの充実に向け、引き続き地域の方々と共に深められるよう、つながりを保っていく。 ・学校と地域のつながりをより深めるよう、児童の地域貢献について考え、学社融合の取組をより一層高めていくようにする。		

学校・園名	田辺市立田辺第二小学校	公民館名	東部・南部公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は「地域活動に参加し、ふるさとを愛する子供を育てる」を教育目標のひとつに掲げ、本校区にある東部公民館と南部公民館との連携を図りながら学社融合の取組を進めている。 具体的には、第2土曜日に実施の「公民館いけばな子ども教室」への参加、公民館主催文化展示会への作品出品、幼・保・小・中学校及び地域との地震津波避難合同訓練の実施などに取り組んできた。また本年度も、6年生が総合的な学習の時間に公民館や地域の方々等のご協力を得ながら、地域に出掛けて歴史学習・語り部活動に取り組んだ。その後、現地報告会を開催した。			
目 標	学校・園・地域 ・昨年度に引き続き、自分たちが住む地域の良さを知り、愛着をもつ児童を育てる。 ・昨年度の資料や発表をもとにし、調べる力・協力する力・表現する力を育てていく。 ・自分たちでは、調べられないことをゲストティーチャーに教えていただき、聞く力・まとめる力を育てる。 ・子供たちと地域の方々の交流の橋渡し役となる。(公民館) ・地域の良さを伝えることによって、子供たちとの交流を楽しむとともに、子供たちに地域の良さを伝えることで、自分たちも再度地域について見直す機会とする。(地域)		
校(園)区の推進組織(組織体制図)		支援者及び支援組織 東部公民館 南部公民館 田辺市教育委員会文化振興課 田辺市社会福祉協議会 市立図書館(歴史民俗資料館) 闘鶏神社 神楽神社 覚照寺 地域にお住まいの皆様方	
取組(活動内容・ねらい・日時等) 【6年生の取組】 『再発見！ ふるさと「たなべ」ウォッチング』 10月～11月 学習計画・事前学習 ★調べ学習 ①岩陰遺跡・神楽神社についての学習(11/27 講師：田辺市文化振興課中川氏) ②日吉神社、砥石山、覚照寺についての学習(11/29 講師：田辺市文化振興課中川氏) ③闘鶏神社、文里引揚げ港についての学習(12/3 講師：田辺市文化振興課中川氏) ★保護者向け発表会 1月29日 参観日に実施 ★現地発表会 2月予定 5年生に向けて発表 【5年生の取組】 『福祉体験学習』 田辺市社会福祉協議会の協力により、「視覚障害」、「聴覚障害」等について学び、車いす体験や点字体験を行っている。			

	成 果	課 題
学校・園	・学校職員だけでは教えることができない地域の歴史を、地域の方に教えていただくことができた。職員にとっても初めて知ったことが多かった。 ・地域の文化遺産に対する地域の方々の思いを知ることができた。 ・打ち合わせを行うことで、計画的に取り組むことができた。	・調査に時間がかかるため、学習時間の確保が難しい。 ・教員も地域の歴史に詳しくないため、資料の収集に苦労した。今後も地域の歴史について、教員の研修を深めることが必要である。
*子供にとって	・地域の方々との交流の中で、目上の方に対してきちんと話そうとする姿勢が見られた。 ・昨年度までの情報を活かし、インターネットで調べる力やグループで協力する力など様々な面で成長することができた。	・収集できた資料の内容は比較的難しく、児童だけで内容を把握するのが難しかった。 ・地域の歴史について、さらに深く追究していきたいと思っている児童もいるので、継続して学習をしていく必要がある。(中学校との連携)
*子供にとって	・現地で居合わせた地域の方々に対して、実際に語り部を行い、地域の方々知らないことも語ることができた。児童はそれが自信に繋がり、語り部の意義を確認することができた。	・公民館や地域の方々との交流は必要になってから取り組むのではなく、普段から、公民館行事や地域活動等を通して交流を進めておくことが必要である。
・地域(公民館)保護者	・学校と地域の方との間の橋渡しとしての役割を十分に果たすことができた。 ・学習したことを発信することで、地域にお住まいの方にもふるさとの歴史について知ってもらえることができた。	・児童との関わり方や話し方を工夫することが必要である。 興味や関心の持たせ方 話すスピード 言葉の選び方 等々 ・ゲストティーチャーとの打ち合わせは、活動の詳細まで、事前に共通理解を図っておくことが必要である。

評価及び次年度に向けての取組の方向

- ・今まで教師も児童も知らなかった(気がついていなかった)地域教材を発掘することができた。何気なく通り過ぎていく地域の風景の中にある歴史的な場所や史跡について学ぶことができ、大変有意義であった。
- ・来年度以降、今年以上に綿密な計画を立て、さらに詳しい形で教育計画上に位置づけるようにしたい。また、時間確保にも取り組んでいきたい。
- ・学習に取り組む前の段階から、広く地域に呼びかけて情報提供者を求めていくようにしたい。
- ・地域の歴史について、教員自身が研修を深めていきたい。



学校・園名	田辺市立田辺第三小学校	公民館名	西部公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>○本校は、西部公民館・西部センターや天神児童館と共同・連携しながら、各種事業や行事に取り組んでいる。本校区内でも核家族化が進む中、地域社会との関わりを推進し、地域の一員であると自覚を持つ児童を育成していくことは、大きな課題である。そのため、地域を知り、地域に興味をもつ取組として地域に出かけ、体験的な活動を通して積極的に地域との交流を図るようにしている。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <p>①子供の教育をよりよいものとする。 ②地域の教育力を向上させ、郷土愛を育てる。 ③学社融合（生涯学習）を推進し、更に充実する。 ④「地域の子供は、地域の中で育てていく。」という意識を更に高める。 ⑤学社融合事業をもっと地域に浸透させていく。</p>		
<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p>		<p>支援者及び支援組織</p> <ul style="list-style-type: none"> 西部公民館 西部地区自主防災連絡協議会 西部町内会連絡協議会 西部老人クラブ連合会 校区協議会 天神児童館 西部子どもエンパワーメント支援事業 西部センター 各保育所（子ども園） 	
<p>取組（活動内容・ねらい・日時等）</p> <p>4月 3年 天神崎の生き物観察(27日) 4年 天神崎クリーン作戦(27日)</p> <p>5月 3年 町探検(18日)</p> <p>6月 1年 児童館訪問(13日) 2年 町探検(14日)</p> <p>5年 西部花いっぱい運動・土作り(21日)</p> <p>7月 5年 西部花いっぱい運動・花植え(2日) 4年 俳句をつくろう(13日)</p> <p>9月 2年 月見団子作り(13日)</p> <p>10月 4年 天神崎クリーン作戦(16日)</p> <p>5年 天神崎学習、日和山観察(10日)</p> <p>6年 ミシン学習(23日)</p> <p>11月 1年 手作り遊び(5日)、昔遊び(20日)</p> <p>2年 児童館探検(13日) 3年 昔のくらし体験(30日)</p> <p>4年 グランドゴルフ体験(5日)</p> <p>5年 西部花いっぱい運動(13日)(27日) 4・5・6年 クラブ活動 学校開放週間(5日～11日)</p> <p>6年 児童館祭り参加(5日)、防災学習・タウンウォッチング(27日)</p> <p>12月 4年 俳句をつくろう(14日)</p> <p>2月 3年 そろばん学習 5年 ミシン学習</p> <p>3月 4年 俳句をつくろう</p>			
<p>(2018年)西部地域学社融合推進協議会の事業として(学習支援)の取組の様子</p> <p>4年 俳句をつくろう 5年 花いっぱい運動 6年 ミシン学習 メルヘンさん(読み聞かせ)</p>			

	成 果	課 題
学校・園	どの学年においても、学習支援ボランティアの方々といっしょに交流する活動や、寄り添って学習する活動が定着してきており、安心してのびのびとした授業展開ができています。今までの経験を生かしたアドバイスをしてもらうことで、意欲的に取り組める児童が増え、学習活動も広がりが見られている。	地域コーディネーター・学習支援ボランティア（OK先生）の新たな人材については、常にアンテナを高くし、協力を求めていく必要がある。効果的な活動になるように、事業の精選と新しいことにチャレンジする意欲を持ち続けていくことが、今後も大切になると考える。
*子供にとって	地域の方を交えて、専門的な知識に触れることにより、知識が深まり、学習に対する意欲の向上につながることができている。学習支援ボランティアの励ましや支援により、学習する喜びを味わい、地域の方々と触れ合うことの良さを感じることができている。大人の方との接し方を学ぶこともでき、社会性も育っている。	学社融合の取組を通して、地域の中で生きる力を育むと共に、全体の児童に主体性をもって学習に取り組む姿勢を定着させる必要がある。地域を大切に、その中の一員であることを自覚して、これからの生活を、よりよいものにするためのことを想像して生きていく力を育てたい。
*子供にとって	授業を通して地域住民と交流することで、普段の生活においても、自ら地域と交流しようとする気持ちを持ち、地域の一員であるという自覚が芽生えてきている。	これらの活動を通して、自分自身が今の段階でできることや、しなくてはならないことに気づき、実際の社会で求められる行動を自ら考えられるようにすることが課題である。
地域・保護者(公民館)	地域から選出したコーディネーター自らが、学習支援ボランティアに対し、直接連絡・調整を行っており、地域主導型の学社融合が着実に浸透している。また、地域主催の事業に職員・児童が参加することで、地域との親密な繋がりが持つことができています。	学習支援ボランティアの固定化や高齢化が進んでいる。今後も、地域コーディネーターとの協力を密にし、既存の学習支援ボランティアに協力してもらうほか、新たな人材発掘にも取り組んでいかなければいけない。
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向</p> <p>各学年の授業にあわせて、学習ボランティアの方々が協力してくださることにより、児童が生き生きと学習に取り組んでいる。手作り遊びや昔の遊び道具を使った学習では、多くの学習ボランティアに協力してもらうことができ、今まで経験したことがないことにも、進んで取り組もうとする児童の様子が見られている。優しく接していただけるので、子供も安心して学習に取り組むことができている。学習したことを、公民館便りや学校便り等で、多くの方々に知らせることにより、町内会や老人会、各種団体と地域全体にも伝えることができた。その結果、関係団体や学習ボランティアの方々に快く協力をしていただけるようになってきている。また、初めてのことや難しそうなおことには、あまり積極的でない児童でも、普段馴染みのない体験や学習の場面などで、やさしく丁寧に接してもらうことで、自分からチャレンジしてみようとする姿が見られている。生活してきた時代や年齢の違いがあっても、授業を通してふれあったり会話したりすることにより、温かな人間関係が築けるようになってきている。学習や交流を通して、親睦を深められるようになり、何らかの形で関わってもらえたり、わからないことを教えてもらえたりしたときの、感謝の気持ちも持てるようになってきている。お年寄りからも、交流した喜びの気持ちを伝えてくれるようになり、児童も安心して活動することができ、お年寄りを大切にする心も育ってきている。次年度に向けて、現在行っている活動を充実させ、地域の方々とつながりを大切にし、地域の一員であることを自覚しつつ、行動できる児童を育てていきたい。</p>		

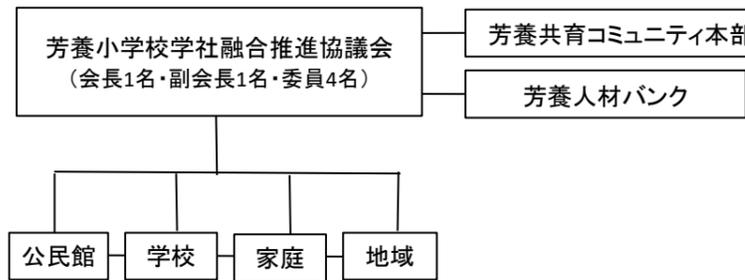
学校・園名	田辺市立芳養小学校	公民館名	芳養公民館
-------	-----------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子

芳養小学校では、「芳養共育コミュニティ本部」を学社融合の基盤とし、児童の健全育成を図る取組を行っている。その内容は、地域と学校が連携したもの、育友会・家庭と学校が連携したもの、公民館と学校が連携したもの、地域の教育力を生かした授業、芳養ふれあい教室など、いずれも話し合いを大切にしながら、学校・地域・家庭・公民館が一体となって進めている。また、地域の教育力を学校の授業に生かす上では、「芳養地域人材バンク」を活用している。これは、芳養公民館と学校とが共に募集をしているもので、登録していただいた方には、スクールパートナーとして生活科や書写、総合的な学習の時間などの授業に参加していただいている。

目 標	学校・園・地域	<ul style="list-style-type: none"> 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上を図るとともに、児童の健全育成を目指す。 保護者や地域の方々との触れ合いを通して、児童のコミュニケーション能力を育むとともに、地域を大切にすることを育てる。 地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで、地域活性へと繋げる。 地域の方々为学校や子供たちの様子を知ること、今後の地域づくりに生かす。
--------	---------	--

校（園）区の推進組織（組織体制図）



支援者及び支援組織
「芳養共育コミュニティ本部」

- 芳養公民館
- 芳養地域人材バンク登録者
- 育友会
- 地域の人々

取組(活動内容・ねらい・日時等)

「芳養ふれあい教室」
今年で12年目となる芳養ふれあい教室は、子どもたちが安全に過ごせる居場所づくりのために、人材バンクに登録してくれている方々が個々の特技を生かして放課後に教室を開いてくれている。

今年度は9つの教室
(英語・中国語・キンボール・茶道・花アレンジ・俳句・読み聞かせ・かき方・囲碁)
前期【5月～10月】後期【11月～3月】

- 芳養ふれあい教室実行委員・講師合同会議（4月、10月実施）
- 運動会においてふれあい教室の活動紹介（9月）
- 参加児童の感想文やお礼文を講師先生に渡す（10月、3月）
- 1年生ふれあい親子体験教室（11月）
- 公民館展への作品出品（11月）
- 「ようこそ先輩」（12月）
- ふれあい教室の大掃除（12月）
- 6年生を送る会にふれあい教室の先生方を招待（3月）



◎平成30年度
芳養ふれあい教室への子供の参加人数 前期141名 後期149名



	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 地域と共に取組を進める中で、地域の方々に児童や学校の様子を知ってもらうことができた。また、地域と学校の距離を縮めることができた。 参観日に合わせて、ふれあい親子体験教室を開き、1年生とその保護者にふれあい教室の内容や活動の様子を知ってもらうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい教室に参加する児童が増え、協力者を必要としているが、新たな協力者をなかなか増やしていくことができていない。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 講師先生方に、挨拶をしたり感謝の気持ちを伝えたりすることができる児童が増えた。 ふれあい教室での学びが、児童自身の自信につながり、生き生きと活動する児童が増えた。また、低学年の頃から習い続け、スキルアップを図る児童も増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室の予定表を配り、各学級でも声かけを行っているが、参加を忘れる児童がいる。 学年が上がるにつれ参加人数が低くなる傾向がある。 講師先生方に対する児童の言葉遣いにまだまだ課題がある。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 放課後に学校で「ふれあい教室」を実施することで、学童以外での居場所作りにもなり、子供たちにとっても保護者にとっても安心・安全な場ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 高学年になるにつれ参加者の減少傾向がみられることから、子供たちがどういった活動に興味があるのかを把握する必要があります。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> 活動を通して、指導者同士の交流も深まり、コミュニティづくりの活性化につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動して頂いている講師・協力者が固定化している傾向にあり、また保護者の参加も少ないため、今後、後継者となる地域の人材を発掘し、活躍できる場を提供することで、地域全体の教育力の向上を図る。

評価及び次年度に向けての取組の方向

・ふれあい教室の講師先生方のアイデアと工夫により、内容がとても充実したものとなっている。児童は、毎回の教室をとっても楽しみに参加することができた。

・ふれあい教室の作品を公民館作品展と校内作品展に展示することで、多くの方に活動を知ってもらうことができた。

・今年度、ふれあい親子教室を1年生対象に行い、保護者の方にふれあい教室の内容や活動の様子を知ってもらうことができた。この活動を来年度も開き、保護者の方に協力者としてふれあい教室に参加してもらえよう呼びかけていきたい。

・課題にある児童の言葉遣いを改善するためにも、各職員がふれあい教室に顔を出し、ふれあい教室での児童の様子を見たり、一緒に活動したりする機会を増やしていきたい。

・「ようこそ先輩」では、5・6年生が、芳養小学校の卒業生から地域の方々をつながり合うことの必要性についてお話を聞くことができた。芳養ふれあい教室の活動を広めていく上でも、このような機会を今後も続けていきたい。

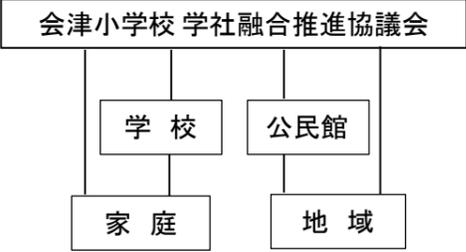


学校・園名	田辺市立大坊小学校	公民館名	芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校区は大坊・団栗の2地区に大別され、その住民の多くは柑橘・梅栽培を中心とした専業農家である。平成29年度より地域住民の長年の願いであった新校舎建設工事が始まり、まもなく校舎の完成を迎える。芳養分校時代からの独立の歴史を経て今回の新校舎完成は、大坊小学校新時代のスタートであるとも言える。今、地域は学校を核としてこれまで以上に繋がりを深めようとしている。			
目 標	大坊小学校学社融合推進協議会は「地域とともにある学校」を目指し、「学校は地域の未来」となれるよう取組を進める。 具体的目標 目標1：地域人材を生かした「学校力の向上」 目標2：地域人材を生かした「学校環境の向上」 目標3：小学校を活用した「地域力の向上」		
	校（園）区の推進組織（組織体制図） 会長・副会長・委員4名（事務局） 大坊小学校学社融合推進協議会	支援者及び支援組織 <ul style="list-style-type: none"> ・大坊小学校育友会 ・大坊小中学校校区協議会 ・大坊区 ・団栗区 ・地域老人会（白楽会） ・両区青年団 ・大坊女性会 ・大坊実行組合 	
	学習支援部 目標1：地域人材を生かした「学校力の向上」 ○取組の柱 ①学習支援 ②家庭教育の支援		
	環境整備部 目標2：地域人材を生かした「学校環境の向上」 ○取組の柱 ①新校舎の環境整備 ②登下校の安全対策		
	地域活性化部 目標3：小学校を活用した「地域力の向上」 ○取組の柱 ①学校行事への参画 ②学校施設の地域への開放		
取組（活動内容・ねらい・日時等） 上記のような目標で取組を進めている。特に今年度は目標1の学校力の向上をめざす【学習支援部】の活動が中心であった。第3回目の学社融合推進協議会では、いよいよ新校舎完成後の組織を強化すべく【環境整備部】【地域活性化部】が活発に動き出すこととなっている。 今回は「学校力の向上」を目指した【学習支援部】の地域の人・もの・資源を活用した取組を報告する。「ふるさと学習」以外にも今年は、クラブ活動において地域の新しい人材を招くことができた。 【学習支援部】の活動			
低学年 校区を知る学習		中学年 大坊みかんの学習	
高学年 大坊祇園神社を学習			
 大坊・団栗の豊かな自然を改めて実感！癒されます。		 美味しい大坊みかんが出来上がるまでには、多くの作業があることを知りました。	
 大坊に伝わる「きゅうり伝説」の由来はとってもおもしろかった。			
クラブ活動 フラワーアレンジメント		クラブ活動 絵手紙	
			

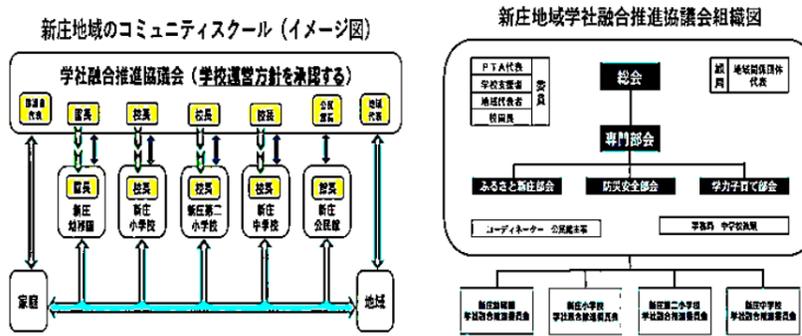
	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度は地域の願いの上に新校舎での新たな学校生活がスタートする。このような節目の時に本地区の学社融合推進協議会において、学校、保護者、地域の3者が一体となって大坊小学校の目指す方向を協議し運営していったことは大きな成果であったと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、学社融合推進協議会の活動をより発展させるために、その下部組織である各専門部会をスムーズに運営させることが大切だと考えている。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと学習」においては、低・中・高学年別に地域のいろんな方々にお話を聞きながら深く学ぶことができた。このことは学習者の児童にとってはもちろんのこと、開校記念行事の学習発表会で地域に発信できたことは大変意義深く、より大きな成果だったと考える。またクラブ活動に新たな「地域の先生」に来て頂けたことは大変良かった。「地域の先生」からも「子供たちの感性の素晴らしさに元気をもらった」という感想も頂けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新校舎完成の節目に、これまで以上に「自分たちの学校」に誇りを持ち、様々な場面で持てる力を発揮出来るよう、より力を注いでいく必要がある。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年「大坊・団栗たんけん！」中学年「大坊・団栗のみかん調べ」高学年「大坊祇園さんをさぐる」と題して学んだことは、自分たちの地域の歴史を知り、同時に父母・祖父母たちの生きてきた道を知ることとなり、我がふるさとに愛着を持つことに繋がった。またこれまで知らなかった「地域の方々」との繋がりができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、子供たちが学習したことを生かし、将来的には地域の後継者として活躍していけるよう、人材育成に努めていく必要がある。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域の双方が積極的に関わっていくことで、児童が地域に見守られる環境を作ることが出来ている。 ・「ふるさと学習」と称し、地域の基幹産業や伝統文化を学習することで、自身が生まれ育った地域に対し、愛郷心を育むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、学校と地域が密に連携を取り合い、新校舎内で児童と地域住民が関わり合えるような取り組みを展開し、子供たちの学校への愛着、また健全育成を図ることが必要である。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、学社融合推進協議会の初年度ということで、会の委員の選出、会議の持ち方、組織作りを中心に話し合いを持った。学社融合推進協議会から「ふるさと学習」「クラブ活動」に協力して頂ける地域の方を紹介してもらったり、講師先生への依頼をして頂けたので活動をスムーズに行うことができた。 ・学校運営への関わりとして学社融合推進協議会の下部組織として「学習支援部」「環境整備部」「地域活性化部」の三つの専門部会を編成した。各部会の活動については、活動内容を計画し親組織ともなる学社融合推進協議会に随時報告をすることとした。また、三つの専門部会には、それぞれ学校職員や青年団、白楽会、大坊女性会、実行組合等の各団体の長も加わることで、より地域と密着した多彩な活動が行えるような組織編成とした。 ・来年度は、新校舎での運営が本格的になるため環境整備や施設活用等について、今年度中に充分話し合っておく必要があると考えている。 		
 2019年 5月26日には落成式を迎える。地域の念願だった校舎が完成し、大坊小学校の新時代が始まろうとしている。		

学校・園名	田辺市立稲成小学校	公民館名	稲成公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>平成27年度から三年間共育コミュニティ本部事業の指定を受け、学校・地域・家庭が一丸となって本校の教育活動を推進してきた。この事業に取り組む中で地域の学校教育に対する関心が高まり、授業支援や各種のボランティア活動にも積極的な支援をしてくれている。</p>			
目 標	学校・園	<p><学校の目標></p> <p>① 学習支援ボランティアを学校教育に定着させ、地域と共に学校教育を充実する。 ② 図書ボランティア活動を活発にし、図書室を地域コミュニティの場に活用する。 ③ 交通安全ボランティアを充実させ、安全な登下校を構築する。</p>	
	地域	<p><地域の目標></p> <p>① 学校教育に係ることで、地域の子どもたちとの良好な信頼関係を結ぶ。 ② ふるさと学習を支援することで、地域の歴史や文化を語り継ぐ。 ③ 地区別の「共育ミニ集会」に参加することで、地域コミュニティの機会とする。</p>	
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
<p>稲成小学校学社融合推進協議会 ↔ 校長</p> <p>育友会、公民館、稲成・むつみ町内会、稲成愛郷会、稲小いわき会</p> <p>田辺市教育委員会</p> <p>学習支援ボランティア、図書ボランティア、交通安全ボランティア、環境整備ボランティア</p>		<ul style="list-style-type: none"> 稲成校区協議会 稲成公民館運営協力委員会 稲成町内会 むつみ町内会 稲成愛郷会 稲小いわき会 稲成小学校育友会 民生児童委員会 	
<p>取組(活動内容・ねらい・日時等)</p> <p>① 4月18日(金) 第一回稲成小学校学社融合推進協議会 活動内容：委嘱状の配布 授業参観 協議会の趣旨及び本年度の基本方針説明 承認</p> <p>② 6月5日(火) 下村地区共育ミニ集会を下村会館で開催 活動内容：地区に住む委員が参加し、地区住民及び地区保護者と熟議</p> <p>③ 6月7日(木) 谷地区共育ミニ集会を稲成町民センターで開催 活動内容：地区に住む委員が参加し、地区住民及び地区保護者と熟議</p> <p>④ 6月14日(木) 糸田地区共育ミニ集会を糸田会館で開催 活動内容：地区に住む委員が参加し、地区住民及び地区保護者と熟議</p> <p>⑤ 6月19日(火) 谷中・谷上地区共育ミニ集会を谷下会館で開催 活動内容：地区に住む委員が参加し、地区住民及び地区保護者と熟議</p> <p>⑥ 6月21日(木) 馬場平地区共育ミニ集会を馬場平会館で開催 活動内容：地区に住む委員が参加し、地区住民及び地区保護者と熟議</p> <p>⑦ 6月26日(火) むつみ地区共育ミニ集会をむつみ会館で開催 活動内容：地区に住む委員が参加し、地区住民及び地区保護者と熟議</p> <p>⑧ 6月28日(木) 荒光地区共育ミニ集会を荒光会館で開催 活動内容：地区に住む委員が参加し、地区住民及び地区保護者と熟議</p> <p>⑨ 7月18日(水) 臨時学社融合推進協議会を開催 活動内容：7地区に分かれて実施した共育ミニ集会で熟議した内容を共有</p> <p>⑩ 9月23日(日) 小学校と公民館が共催する「稲成コミュニティ運動会」に参加</p> <p>⑪ 11月18日(日) 小学校と公民館が共催する「稲成・むつみ ふれあい文化祭」に参加</p> <p>⑫ 2月28日(木) 第二回稲成小学校学社融合推進協議会を開催(予定) 活動内容：授業参観 本年度の取組報告と協議 次年度の委員委嘱について等</p>			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 多くの地域の方が学校支援をしてくれていることで、子供たちの学校生活に変化を持たせることができています。 多くの地域の方が、様々なボランティア活動に積極的に参加していただいている。 学校が地域にお願いする様々な要望を公民館長や主事が地域の様々な団体や委員会との連絡調整をしてくれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育は教師が主体となって進めることが大切であるが、地域の方の力に頼り過ぎている場面も見られる。そのため、職員は地域の方には無理のない範囲で有効に支援をしようという認識を持つことが大切である。 公民館主事との綿密な打合せを行いながら地域の方と共有した取組が必要である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 図書ボランティアの方が季節ごとに図書室の掲示や飾りを変えてくれるので、いつもきれいで居心地の良い図書室となった。 図書の廃棄作業が進んだため、新刊図書が入りやすくなった。 図書の貸出しシステムを改善したことで、貸出し業務がとてもスムーズになり、貸出し冊数も増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年、図書ボランティアの募集をしているが、新しい人材が増えていない。 図書ボランティアの活動を継続していくための対策を考える必要がある。 図書担当職員が図書ボランティアの方とうまくコミュニケーションをとりながら良好な信頼関係を構築していくことが大切。 学校司書の配置が必要。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 5年生の「ふるさと学習」では地域の方から稲荷神社について学び、獅子舞の指導を受けて文化祭で発表した。 6年生の「ふるさと学習」では、高山寺の多宝塔にまつわる史実を調べ、演劇にして発表した。 地域の協力で完成した「杉の子ランド」を遊びや野外学習で活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生では文化祭で獅子舞を披露するために二学期に入ると運動会の練習と並行して練習をしている。このため、児童や担任の負担が大きくなっている。しかし、児童や地域の期待も大きく定着しているため継続しながら取組の改善が必要である。 「杉の子ランド」の有効活用と徹底した安全管理と整備の継続。
地域(保護者)・公民館	<ul style="list-style-type: none"> 7地区で開催した「共育ミニ集会」では、本年度より各地域に住む稲成学社融合推進委員が参加することで熟議が活発に行われるようになった。 公民館と共催する「コミュニティ運動会」と「稲成・むつみ ふれあい文化祭」への参加人数が増加し、盛大に開催されるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 共育ミニ集会では、地区により参加人数の少ないところがあるため、保護者への参加呼びかけを充実させるとともに、地区長や稲成小学校学社融合推進委員以外の方にも参加してもらえるような対策を講じる必要がある。 共催する運動会と文化祭は地域に定着してきたが、さらに改善充実の必要がある。
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度～平成29年度に文部科学省・県教育委員会・市教育委員会の補助事業「共育コミュニティ推進本部事業」の指定を受け、「稲成共育コミュニティ推進本部」を組織し三年間の取組を進めた。本年度は事業終了とともにこの推進本部を解散した。また、これまでの「学校評議委員会」の制度が廃止され、この二つの組織の解消を受けて新たに「稲成小学校学社融合推進協議会」を組織した。 委員の選出では、充て職で選出するのではなく、日頃より学校教育に関心があり積極的な支援を継続していただいている方の中から選出した。そうすることで全ての委員が教職員や児童の事をよく理解されていて、また、教職員や児童も厚い信頼を寄せているので熟議が活発に行われた。 委員の中には、在籍児童の祖父母である方も多数いて、委員になっているおかげでこれまでよりとても学校に来やすくなり孫の様子も見ることができると言って、逆にとても感謝してくれている方も見受けられる。 次年度に向けては、継続していただける委員に加えて新たに委員を選出することになるが、次年度の委員の選出においてもこれまでと同じ基本線を守り選出したい。 次年度は、事務局として教頭とともに公民館主事も加わってもらい、予算の執行等の補佐や地域とのコーディネーター的な役割を担っていただこうと考えている。 今後は、学社融合推進協議会の意義をまず教職員が理解し、積極的な地域人材の活用を意識的に取り組み、人事異動により職員が変わっても地域人材からの支援を継続させていく必要がある。そのためには、年度当初に作成する年間教育計画の中に明記して確実に実施していくことが重要である。 		

学校・園名	田辺市立会津小学校	公民館名	秋津公民館・万呂公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校では、「会津さわやかコンサート」や「合同作品展」「獅子舞鑑賞」「昔の遊び体験」など、保護者や校区協議会、公民館、敬老会等、地域の各種団体との連携・協力を得ながら、様々な教育活動に取り組んでいる。現在510名の児童が通学しており、校区協議会シニアパトロールの登下校の見守り活動や、公民館での「町民運動会」、町内会の「防災訓練」など、地域で積極的に子供たちを見守り、育む活動が展開されている。また、総合型地域スポーツクラブ「会津スポーツクラブ」の活動は、所属している子供たちにスポーツに親しむ多くの機会を提供してくれているとともに、多くの子供たちにスポーツに対する興味・関心を高める役割を担っている。			
目 標	学校・園・地域	【学校】 様々な世代の、多くの地域の人々との交流を通して ・地域の伝統や文化とその地域に住まう人々を大切に、感謝する心を養う。 ・言葉や行動によって進んで表現しようとする意欲を養う。 ・発表や作品の鑑賞を通して相手の気持ちや思いを感じられる心を育てる。 【地域】 ・公民館活動を通じて学習した成果発表の場を提供する。 ・地域の人々や子供たちに見ていただくことで、達成感を得たり、今後も活動を継続する意欲を養ったりする。	
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織 会津小育友会 会津小校区協議会 秋津公民館 万呂公民館 会津スポーツクラブ	
取組（活動内容・ねらい・日時等） ○会津さわやかコンサート【11月10日（土）】 ・会津校区協議会主催、会津小学校・会津小学校育友会共催のもと、秋津・万呂両公民館の協力を得て開催する。学校・家庭・地域が一つになって、お互いの心が触れ合う時間を持ちたいという願いのもとで開かれ、今回で第11回を迎えた。参加者は小学校の児童を入れてのべ約1200名。 ・内容…会津小学校1年生から5年生による学年別合唱、6年生による合唱・合奏、会津小学校合唱部による合唱・重唱、高雄中学校吹奏楽部による演奏、高雄中学校吹奏楽部と会津小学校合唱部の共演、高雄中学校吹奏楽部による伴奏で全員合唱（ふるさと） ○秋の合同作品展【11月27日（火）～29日（木）】 ・会津小学校、秋津公民館、万呂公民館が合同で学校開放期間に合わせ、作品展を開催している。子供たちの学習の成果とともに、公民館活動の成果を見ていただく機会を提供している。 ・内容…子供たちの絵画の展示、公民館サークル「秋津パッチワークサークル」「万呂パッチワークサークル」の文化作品展を実施 ○ふれあい交流（昔の遊び体験）【12月3日（月）】 ・1、2年生が秋寿会、万呂寿会の方々に昔の遊びを教わりながら、交流を深めている。 ・内容…秋寿会・万呂寿会の方々が、竹馬・こま・お手玉・竹とんぼ・ぶんぶんごま等の約20種類のブースを作り、子供たちが各自それぞれのブースを回り、遊び方を教えてもらいながら交流する。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>会津小学校 学社融合推進協議会</p> <p>学校 公民館</p> <p>家庭 地域</p> </div> </div>			

	成 果	課 題
学校・園	行事を通して発表の練習や作品づくりに、主体的・意欲的に取り組むことができた。学社融合の取り組みでは、子供たちも、それに関わる保護者や地域住民も、それぞれの目的意識を持ち、取り組んできた。当日までの練習や作品づくりの過程だけでなく、当日の他の出演者の発表や作品を楽しむとともに、自分を表現することに達成感や充足感を得ることができた。	「さわやかコンサート」の運営には、育友会本部役員と常任委員の保護者が中心的となり、全員が協力し合って行事を支えてくれた。終了後は皆さん充実した表情で、成功の喜びを分かち合っている。委員は毎年交代するが、校区協議会の常任委員と協力して取り組むことで、行事の良さを実感するとともに、お互いが知り合うきっかけとなり、日頃の生活にもつながる関係ができることを期待している。
*子供にとって	学校・公民館・地域の行事を通して、地域の方と交流し、触れ合う機会を得た。一方的に作品や発表を見るだけでなく、互いに発表し合う、作品を鑑賞し合うことでより充実した時間を過ごすことができた。時間・場所・目的の共有が、今後、子供と地域住民の絆を、さらに深めるきっかけとなることを期待している。	保護者・地域の方など、日頃から自分たちを見守ってくれている身の回りの人に対して、感謝の気持ちを持ち、その気持ちを、自分の言葉や行動で素直に表現できるよう引き続き取り組んでいきたい。また、行事での交流を通して相手を大切に、思いやる気持ち、マナーや作法を身につけさせていきたい。
*子供にとって	地域の方々とのふれあい。公民館活動がどのようなことをしているのかを知らせることができた。また、学習の大切さや、継続することの大切さを考える機会を担うことができた。	地域の方々の作品や発表にふれることで、自分が住んでいる地域に誇りを持てるようにしたい。また、世代を超えた地域間の繋がりを期待している。
地域（保護者）・公民館	地域の方々の発表の場を設けることで、達成感を与えることができた。会津小学校で開催することは、子供だけでなく、保護者にも活動を周知することができ、サークル活動の宣伝となり、交流の促進に繋がることができた。	各団体の状況を理解した上で、無理なく展開する必要があるが、何を目的として実施しているかということ、周知しきれていない部分がある。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・各行事では、子供たちや出演者だけでなく、参加者・運営に携わった保護者にも充実した笑顔が多く見られた。この笑顔には、行事に向けた取組の過程とその結果において、学校と公民館が設定した目標が達成され、やりがいを感じるということができたという意味が含まれている。今後も、目標の達成のために行事の工夫・改善に努めていきたい。 ・学社融合の取組が無理なく持続的に発展するためには、子供と教職員、公民館職員と公民館サークル、保護者と地域住民のそれぞれにメリットがあることが重要である。そのためには、今年度の取組を評価し、来年度に向けて改善すべき点がないか検討する必要がある。また、学校での限られた授業時間内での取組という観点からは、特に取組の効率化が必要である。他の多くの行事との兼ね合いを考慮し、各行事の実施時期や実施内容等についても検討し、計画的に行うことが大切である。		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>さわやかコンサート</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>合同作品展</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>昔の遊び体験</p> </div> </div>		

学校・園名	田辺市立新庄小学校	公民館名	新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子 新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきました。そして、本年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めています。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取組も進めています。			
目 標	学校・園・地域	田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条（目的） 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。 本校における学社融合の目標 地域の祭りや行事等への参加と、地域の伝統産業の調べ学習、地域の福祉施設との交流等を通して、伝統文化を継承するとともに、地域を愛する心を育てる。	
	校（園）区	校（園）区の推進組織（組織体制図） 	
支援者及び支援組織 学社融合推進協議会 ○ 幼稚園・小中学校教育友会 ○ 学校支援者・地域代表者 ○ 地域関係団体 ○ 公民館運営委員会 ○ 新庄地区校区協議会 ○ 新庄共育コミュニティ本部 その他関係機関 ○ 新庄地区老人会 ○ 真寿会 ○ ふたば福祉会 ○ 南紀のぞみ会 ○ 社会福祉協議会			
取組（活動内容・ねらい・日時等） 「福祉体験学習」 ○運動会敬老種目 2年生（2学期） * 運動会の敬老種目に参加する地域の方と交流する。 ○真寿苑訪問 3年生（2学期） * 新庄地区には、様々な公共施設があることを知り、体験活動を通して自分たちの住む地区を理解する。 ○視覚聴覚障害者理解学習 4年生（2学期） * アイマスク体験や無音体験、福祉の話などを通して、障害者の気持ちを理解し、バリアフリーな社会に向けて自分たちにできることを話し合う。 ○肢体不自由者理解学習 5年生（2学期） * 障害者の方の気持ちや思いを理解し、バリアフリーな社会が大切であることに気付く。 ○高齢者・障害者理解学習 社会福祉施設訪問 6年生（2学期） * 高齢者が、今までの社会に貢献してきたことに対して尊敬や感謝の気持ちを持ち、温かい心で接する態度を養う。また、知的障害者に対する理解を深め、温かい心で接する態度を養う。 * 福祉施設を訪問し、利用している人、介護している人のことを理解し、「ともに生きる」について考える。 「公民館・地域・サークル活動などと連携した各学年の取組」 ○昔の遊びについて 1年生（3学期） * 地域の高齢者の方に教えてもらい素朴な道具での遊びのよさと、ふれ合う楽しさを知る。 ○コーラス交流 2年生（1学期） * サークルの方に歌を聴かせてもらい、音楽の楽しさや共に活動する喜びを知る。 ○ぎおんさん 3年生（1学期） * 地域の方に「ぎおんさん」のいわれや作品の作り方を教えてもらう。 ○グランドゴルフ体験 4年生（3学期） * サークルの方と一緒に運動し、体を動かす楽しさと共に活動することの喜びを知る。 ○箏・尺八体験 5年生（3学期） * サークルの方に演奏を聴かせてもらい、伝統文化のよさを学ぶ。 ○地震津波の話 6年生（2学期） * 地域の方から地震や津波の体験談を聞かせてもらい、命を守る方法と心構えを学ぶ。			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に、学校や子供たちの様子を知ってもらうことができた。 ・専門的な技術や知識をもっておられる方々をお招きすることで、教室だけでは教えられないことを学ばせることができた。 ・地域の方との交流を通して、地域でどのような活動が行われているかを知ることができ、地域理解に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ボランティアの活用を工夫し、地域の方に関わっていただく活動内容を広げていきたい。 ・その日限りでなく、子供と地域の方との関係が続くようにふれあう時間を工夫する。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に参加したり、地域の方々とともに活動したりすることで、地域の文化や伝統を身近に感じることができた。 ・地域の方から直接、専門的な知識等にふれることで学習をより深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで挨拶をしたり、関わったりできるよう、コミュニケーション能力を高める。 ・子供たちが、地域の一員として主体的に活動できるような取組を行う。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色を感じる事ができた。 ・地域の方のことや、伝統文化を知ることができ、地域への関心が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より積極的に地域と関わろうとする気持ちを育てる。
・地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通じて、地域やサークルに活気が生まれた。また、学校や公民館に対する理解が深まった。 ・地域の伝統文化を次世代へ継承できるいい機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、地域行事を通じてできた繋がりをさらに深め、地域力を高めていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向
 評価
 ・各学年に応じて、系統立った取組ができている。
 ・地域の伝統的な祭りである「ぎおんさん」の作品作りには保護者も参加し、いわれや作り方を児童だけでなく、保護者の方にも知っていただくことができた。
 ・地域と連携した行事には、多くの児童が興味をもって積極的に活動することができた。地域の方々とふれ合う機会が増え、地域を想う心も育ってきている。

 次年度に向けての取組の方向
 ・学習ボランティアとして、地域の方に関わっていただける活動を考え取り入れていきたい。
 ・今後も、学校と地域双方がプラスになる取組を継続し、地域の活性化に努めていく。



学校・園名	田辺市立新庄第二小学校	公民館名	新庄公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきました。そして、本年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めています。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取組も進めています。</p>			
目 標	学校・園・地域	<p>田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条(目的) 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。</p> <p>新庄第二小学校教育目標 自ら学び、人に優しく自分に厳しく、心豊かにたくましく生きる児童の育成をはかる。</p>	
	校(園)区の推進組織(組織体制図)	<p>支援者及び支援組織</p> <p>学社融合推進協議会 ○ 幼稚園・小中学校育友会 ○ 学校支援者・地域代表者 ○ 地域関係団体 ○ 公民館運営委員会 ○ 新庄地区校区協議会 ○ 新庄共育コミュニティ本部</p> <p>新庄第二小学校学社融合推進委員会 ○ 育友会本部役員 ○ 主任児童委員 ○ 元学校評議員 ○ 校長・教頭・学社融合担当</p>	
<p>取組(活動内容・ねらい・日時等)</p> <p>[年間を通して]</p> <p>4～6年生 サークル活動(年6回) 公民館・地域の講師先生を招いて料理・琴・茶道・スポーツ・グランドゴルフ・将棋・手芸</p> <p>5.6年生 家庭科「ミシンを使おう」 地域の講師先生を招いて読み聞かせ活動 図書ボランティア</p> <p>[各学年の取り組み]</p> <p>5月2日 3年生 総合 「ぼくらの町 たんけんたい」 「ぎおんさんに使う野菜を育てよう」JA紀南・新庄地域学社融合推進協議会</p> <p>7月5日 3年生 総合 「ぎおんさんの作品づくり」 公民館・地域の講師先生</p> <p>7月5日 4年生 総合 福祉学習 「私たちの優しい町づくり」 「盲導犬について」 田辺市社会福祉協議会・公民館</p> <p>9月11日 6年生 総合 「新二の魅力を伝えよう」 「ひとはめわかめについて」 新庄漁港</p> <p>10月10日 2年生 生活 「町たんけん」 花重・福田屋・美術館・新庄総合公園訪問</p> <p>10月25日 5年生 総合 「新庄の伝統文化を調べよう」 内之浦獅子舞保存会</p> <p>10月26日 5年生 総合 「新庄の伝統文化を調べよう」 内之浦獅子舞保存会</p> <p>10～11月 4年生 総合 福祉学習 「私たちの優しい町づくり」 田辺市社会福祉協議会</p> <p>11月11日 全学年 新二まつり「出会い・ふれあい・深め合い」 育友会・公民館・防災まちづくり課・地域の講師先生</p> <p>11月23日 地域の祭りに参加</p> <p>12月6日 2年生 生活 「おじいさん、おばあさんと交流しよう」 たきの里訪問</p> <p>12月10日 1年生 生活 「おじいさん、おばあさんとあそぼう」 真寿苑訪問</p> <p>3学期 1年生 生活 「昔あそびをしよう」 長生会のみなさんを招いて</p> <p>2年生 生活 「みんな大きくなったよね」 幼稚園訪問</p> <p>3年生 社会 「昔のくらし・七輪体験」 公民館</p> <p>5年生 音楽 「昔の楽器に親しもう・琴・尺八体験」 公民館</p>			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 学校の中だけでは経験できないことを体験させたり、地域の方が知る地域のよさを発表させたりすることができた。 開かれた学校として、地域ぐるみで子供を育てていく取組を実践することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> より多くの一般の地域の方を巻き込むための手だてを考える。 普段の授業から地域の方に来ていただけるように努めていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動やサークル活動では、普段の生活では体験できないことを、地域の方々に教えてもらいながら楽しく活動することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちが礼儀やマナーをしっかり身につけられるように取り組む。 保護者や地域の人たちとともに自分たちも協力していかなければいけないという姿勢をもつ。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方とふれ合うことで、地域の方との繋がりが、地域の中で大事にされているという実感を深めることができた。 普段とは違う雰囲気の中で様々な体験をすることは、子供にとって良い刺激になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域を繋ぐ子供たちに取組の趣旨が伝わるよう工夫をしていく。
地域(公民館)保護者	<ul style="list-style-type: none"> 特技や昔の知恵を伝える場となり、知識を再認識する場にできたとともに児童とふれ合うことで生きがいにも繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> たくさんの方に参加してもらえよう、広報活動や人材発掘に努める。

評価及び次年度に向けての取組の方向

- 評価
- すべての学年で、地域の方から学んだり、交流したりすることができ、地域を知るよいきっかけとなった。
 - 地域の人々のふるさとによせる思いが実感でき、地域について深く知ることができた。
 - 高学年では、新二まつりの発表で、学んだことを地域に返すことができた。
- 課題
- 公民館と連携し、地域の方が気軽に来校できるように学校を開放していく。
 - 関係者との事前の打合せを早めにしておき、よりよい交流ができるようにしておく。



3年生野菜作り



サークル活動



1年生真寿苑訪問

学校・園名	田辺市立三栖小学校	公民館名	三栖公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校区は、梅を中心とする農村地域である。しかしながら、宅地造成や集合住宅の建設が進み、近年は専業農家数が減少傾向にある。また、他の地域からの転入数も多くなってきている。このような状況の影響により、昔と比べ、人と人の繋がりが難しくなっている。子供たちは、温厚で誠実な性格の子が多い。本校PTA組織は「育宝会」と名付けられており、子供は地域の宝という意識が地域全体にある。地域は学校に協力的で、運動会等の学校行事やクラブ活動、教科学習でも各種団体に協力をいただきながら取り組んでいる。			
目 標	学校・園・地域 ・地域の人々の知識や経験を生かし、積極的に他者に関わろうとする態度を育てる。 ・体験を通して、コミュニケーションを図るとともに、自他に関心を持つ。 ・地域の人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員として自覚をもたせ、ふるさとを愛する心を育てる。 ・子供と地域への愛着、地域貢献の心を育む。 ・地域住民が子供たちとのふれあいから、子供たちの様子を知り、教育活動への関心を高める。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
学社融合推進協議会	三栖幼稚園	三栖小学校	三栖公民館
会長（公民館長）	副会長（町内会長）	委員	・地域関係者 ・保護者 ・校園長
		事務局	・公民館主事 ・小学校教頭 ・小学校学社融合担当職員
		支援者及び支援組織 ・三栖公民館文化委員 ・クラブ活動外部講師 ・交通安全指導員 ・交通安全協会 ・衣笠中学校 ・三栖幼稚園 ・保護者	
取組（活動内容・ねらい・日時等） 三栖の史跡めぐり（第5・6学年） 活動のねらい ・地域を歩き、そこにある史跡を見たり、それにまつわる説明を聞いたりすることで三栖地域の歴史への理解を深め、今後の学びに生かすことができるようにする。 ・地域の方から直接お話を聞く中で、交流を深め、地域の方々の見識にふれることで、地域に対する愛着と誇りを持たせる。 ・発表会を設定し「語り部」をする中で、さらに理解を深めるとともに、下級生・保護者・地域の方々にも三栖の史跡や歴史を伝え広める。			
第1回三栖公民館文化委員会 9月18日（火）19：00～21：00 ◎学校から文化委員の方々へ、史跡めぐりへの協力をお願い 参加者・・・公民館文化委員の方々、学社融合担当（1名）			
公民館文化委員学習会・打合せ 10月3日（水）19：00～21：00 ◎三栖風土記の読み合わせ・確認・修正と打合せ 参加者・・・公民館文化委員（約10名）、公民館主事、5・6年担任（3名）、学社融合担当			
5年生史跡めぐり 10月12日（金）9：30～15：00 中三栖、上三栖方面 尋声寺・三栖村方文書庫・旧一里塚・妙見宮・伝馬所・長尾坂・珠簾神社・稲荷神社・大剎寺跡			
6年生史跡めぐり 10月19日（金）9：00～14：30 下三栖方面 一里塚・高坊遺跡・五郎地蔵寺・三栖廃寺・善光寺・岩屋谷岩陰遺跡・三栖王子・八上王子			
史跡めぐり発表会（語り部活動） 参観日（11月） 全校集会（2月） 三栖公民館文化展（2月）			

	成 果	課 題
学校・園	・三栖地域の史跡や歴史について詳しく学ぶことができた。また、教員自身が三栖地域に関心を持ち、今まで以上に誇りと愛着を持てるようになった。 ・史跡めぐりを通して、公民館文化委員の方々と交流する中で、顔見知りになり、地域との繋がりをもつことができた。	・他学年の学習にも、地域の方々に積極的に関わってもらえるような取り組みや呼びかけを計画していきたい。
*子供にとって	・公民館の文化委員の方々に案内していただき説明を聞く中で、三栖の歴史を知ることができ、地域に対する誇りと愛着を高めることができた。 ・語り部活動を通じ、相手意識を持った資料作成・発表原稿作成をする力を高めることができた。また、発表の仕方を工夫することができた。	・今回の学習によって高まった、地域に対する思いをさらに深めていけるよう、取り組みの検討と改善を重ねていく必要がある。 ・相手に分かりやすく伝えるための内容や方法をさらに追究していく必要がある。
*子供にとって	・地域の歴史、文化を知ることで、地域への愛着や誇りを持つことができた。また、地域の一員としての意識が高まってきている。	・地域の一員として、地域に貢献していくという心を育てるよう、今後も継続して活動をつなげていく。
地域（公民館）保護者	・史跡めぐりを行うにあたり、事前に勉強会を開くなど、改めて地域について知る機会となった。また、児童の成果発表を聞くことで、活動の成果や改善点を知ることができ、今後の活動への意欲にもつながった。 ・公民館主催の文化展にて、子供が学習発表を行い、多くの地域の人にも活動の成果を知ってもらうことで、活動を広げるきっかけとなる。	・学校と地域、子供と地域の間関係を構築するために、様々な機会を作り、継続的に子供たちと関わっていく。また、その中で協力していただける地域の人材を発掘し、活動の充実を展開していきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

評価

・公民館文化委員の方々が、三栖地域の歴史について多くの情報を教えてくれるので、児童は興味深く活動に取り組み、積極的に質問し、学びを深めることができた。
 ・学校職員と公民館文化委員の方々が一緒に学習会・打ち合わせを行うことによって、史跡めぐり当日はスムーズに活動の運営を行うことができた。

取組の方向

・今後も地域の方々と共に、三栖地域の歴史についての学びを深めていけるように、活動を継続していく。
 ・より多くの方々に来校してもらえよう、参加者の募り方を考えていく必要がある。



学校・園名	田辺市立長野小学校	公民館名	長野公民館
学社融合における学校・地域の様子 本年度、本校は旧伏菟野小学校との統合2年目を迎えた。校区は広がったが、地域の方々は協力的で子供たちを温かく見守り関わりをもってくださる。公民館や郷明会等の諸団体、地域の方々の協力を得て子供たちは地域の自然、産業、歴史や伝統を学び、地域のよさについて知ることができた。また、学校の行事に参加いただくことで地域の方々が交流する機会にもなっている。			
目 標	学校と共にある学校づくり ～学校・家庭・地域のみんで自立・共生・健康をめざして～ 学校・家庭・地域の三者の力を集め、「自立」「共生」「健康」という長野小学校の教育目標を地域住民の目標としつつ、三者が知恵を出し合い、当面する教育諸課題克服のための諸取り組みを模索し、展開していく。		
	校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 長野公民館 長野郷明会 長野校区協議会 長野町内会 JA紀南長野店 光福寺 不動寺 長野小学校育友会 長野・伏菟野地域の方々
取組（活動内容・ねらい・日時等） 【ほたる学習】（4/26 7/12 8/9 10/19） 長野郷明会の方々に御協力をいただきながら学習に取り組んだ。ほたるを守り育てる活動は環境保全につながるだけでなく、そこには地域の方々の絶え間ない努力のあることを知ることができた。ほたるの飼育・研究を長年続けている広川町津木中学校の取り組みにも接することができた。 【プール掃除と盆のプール一般開放】（掃除6/1 開放8/15） 中野公民館主事さんにもお手伝いいただき、全校でプール掃除を実施した。このプールは授業で使うだけでなく、盆には一般開放して地域の方々にも楽しんでいただいている。 【草刈りボランティアの実施と区民運動会の開催】（5/1 6/1 7/2 8/18） 5月から9月までの月はじめ、地域、保護者、学校が協力して運動場の整備作業を行った。9月の区民運動会では整備された運動場で盛大に区民運動会を開催することができた。事前に代表者会議を行い、運動会の運営について話し合い、運動会当日は地域と学校が協力して運動会を開催した。 【学習発表会と文化展】（11/16～17） 地域の産業や歴史について地域の方々から学んだこと、体験したことを学年ごとに学習発表会で発表した。地域の人々の足跡や苦勞、大切に考えていることなどを学び、自分たちにできることについて考える機会となっている。同時に、学校の取組について地域に知らせる場ともなっている。地域の方々の絵や書などの作品も同じ会場で展示していただいた。 【地区内ハイキング】（11/2） 長野西原地区から高尾山の山頂を目指すハイキングコースを地域の方々と共に歩いた。頂上からは長野・伏菟野地域を見晴らすことができ、自分たちの住む地域の特徴について知るよい機会となった。 【持久走大会の指導】（12/3） 推進協議会委員でスポーツ指導員である那須健人さんから持久走の走り方を教えていただいた。腕の振り方やリズムのとり方など丁寧に説明いただいた。 【絵本の読み聞かせ】（12/6） 推進協議会委員の那須幸代さんに絵本の読み聞かせをしていただいた。気持ちのこもった読み聞かせに子供たちは引き込まれ、豊かな物語の世界にひたることができた。 【凧・紙飛行機づくり】（12/16） 保護者にも参加いただき、昨年に引き続き、公民館から紹介いただいた元中学校長の井瀬敦司さんに連凧作りと紙飛行機作りを教えていただいた。午後は運動場で連凧や大凧を揚げ、手作りの自分だけの紙飛行機を飛ばして楽しんだ。親子がふれ合うよい機会となった。			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 地域の産業や歴史、課題を学び、地域の方々の協力を得ながら活動を進めることで、子供たちにふるさと長野への関心、愛着、誇りを育てるよい機会となった。 多くの地域の方々に学校へ来ていただく機会となり、学校の取組や子供たちの様子などを知っていただくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域を知るだけでなく、地域の一員としてできることを子供たちなりに考える機会をもち、行動できる子供を育てたい。 地域の方々との交流の範囲を広げ、また、信頼関係も深め、地域学習や体験活動を進めていきたい。一方で児童数が減少傾向にあり、行事精選などの検討も必要。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 身近にいる地域の方々の生き方や地域に対する思いを学ぶことにより、地域の方々の苦勞や努力、さらに地域の課題についても知ることができた。 地域の自然、歴史や伝統文化にふれることにより、地域に対して関心をもつことにつながり、地域を大切にしたいという意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> お世話になっている地域の方々へ感謝の気持ちを持ち、どの子供も自分の言葉や行動で表現できるようにしたい。 地域の方々から学んだことを活かし、これからの地域の担い手であることを意識した活動が展開できるようにしたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 各種地域行事への参加や地域の方に講師をしていただくことで、地域の方々との交流の機会が増え地域の一員としての意識を強く持つことができた。 地域について学ぶことで、自分たちの住む地域を知り、愛着を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習や地域行事を通じて地域の現状や将来について考え、さらに地域への関心が持てるような活動を展開していきたい。
・地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちと共に活動し、学ぶ機会を持つことで、地域の現状や課題について改めて考えることができた。 外部講師の紹介など、地域や公民館が持つネットワークを生かすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方と子供たちの交流する機会は多く、今後もこのような機会を引き継いでいく。またそれらを発展させるために、地域人材の発掘、育成に取り組んでいきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

【評価】
 ○公民館や学社融合推進協議会にお世話になり、学校の活動（生活科・総合的な学習の時間・行事等）に多くの地域の方のご協力をいただいた。児童は地域の特色やそこに住む人々の願いを知ることができ、地域の方々には学校の取組や児童の様子を理解していただくよい機会となった。
 ○運動会や文化展、学習発表会などでは、地域の方々子供だけではなく、地域の方々が互いに交流できる機会となり有意義であった。
 【次年度に向けての取組の方向】
 ○学社融合推進協議会、公民館、学校が連携し、地域の方々の協力を得ながらさらに交流や体験活動を深めていく。
 ○地域の課題等に児童にも目を向けさせながら地域と共に学び、同時に地域への貢献も図れるように活動を今後もさらに進めていく。

			
ほたる学習 ～地域の方から学ぶ～	区民運動会	絵本・紙芝居 読み聞かせ	連凧・紙飛行機作り

学校・園名	田辺市立上秋津小学校	公民館名	上秋津公民館
-------	------------	------	--------

学社融合における学校・地域の様子

上秋津地区は、古くから梅・柑橘類を中心とした農業の盛んな地域である。しかし、近年、近郊からも多くの方が家を建てて移り住むようになってきたり、農業従事者の高齢化が進んだりし、農業と関わりのない家庭も多くなった。そこで、改めて長年にわたり行われてきた農事体験に着目し、地域の方々の協力の下、子どもたち自らが、栽培の苦労や収穫の喜び等を体験することにより、地域のすばらしさに気づかせたいと考えた。

目 標	学校・園・地域	<ul style="list-style-type: none"> 農業体験を中心とした活動を行い、ふるさとを大切に育てる。 地域の産業や文化を学習の中に取り入れ、学力の向上を図る。 防災、福祉活動を中心とした人を大切にする教育をすすめる。 幼・小・中の連携を図る。
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	<p>上秋津地域共育コミュニティ本部 (公民館・上秋津幼稚園・上秋津小学校・上秋津中学校・PTA・町内会・老人会等)</p> <p>役員・コーディネーター・事務局</p> <p>※役員＝本部長・副本部長・本部員</p> <p>ふるさとを誇りに思う 学力の向上を図る 人を大切にする</p>

支援者及び支援組織

- 共育コミュニティコーディネーター
- 農業体験支援委員会 (JA紀南、JA紀南青年部、上秋津公民館、老人会、西牟婁振興局農業振興課)
- 上秋津町内会
- 秋津野塾

取組(活動内容・ねらい・日時等)

事例①
農業体験学習、5・6年生のみかん・梅の体験学習〔年間を通して計画している〕
1～4年生では、野菜の栽培体験を学校園で行う。5・6年生では、年間を通して上秋津の農業の中心となっているみかん・梅学習を行う。学習を通して、農家の方々の努力や工夫、収穫の喜びを体験し、ふるさと上秋津を誇りに思う心を育てる。



みかん座学



みかん収穫体験



梅採り体験



梅ジュース作り

事例②
地域の良さを取り入れて学力の向上を図る。〔11/25共育コミュニティ本部事業発表会より〕
様々な教科の中に地域の文化活動や産業を教材化し、学習したことを活用していく力を養う。児童は身近な教材に接することにより、より自主的な学習を行う。



1年生生活科



4年生国語科



5年生社会科



6年生国語科

※実践記録を残し、今後も継続して行うことができるようにしておく。

	成 果	課 題
学校・園	「共育コミュニティ本部事業」の発表に向けて幼・小・中が連携して活動し、「読み聞かせ」や「外国語活動」等を実践した。また、発表当日には、多くの方々に参観していただき、授業や音楽会に多くの良い評価をいただいた。	幼・小・中の連携を今後も継続していくには、今後も連携会議のような話し合いの場の設定が必要である。
*子供にとって	教科学習の中に地域の教材を取り入れることにより、子供たちは学習をより身近に感じ、高い学習意欲をもつことができた。	教材作りに時間がかかるため実践したものを記録に残し、改善しながら継続的に実践していく。
*子供にとって	農業体験を通して地域に親しみを持ち、自分たちの住む地域の文化や仕事についてより詳しく知ることができた。また地域の方々と接する機会を多くもち、あいさつを進んで行うなど交流が深まっている。	子供たちはこの活動を楽しみにしているが、農業体験が全くない教諭も増えてきている。土づくりや日頃の農作物の世話の仕方などについて学ぶ必要があるが、多忙の中、担任に負担をかけられない面がある。
地域・保護者(公民館)	共育コミュニティ本部事業の指定を受けたことで、地域住民の学校に対する関心がより強くなった。また、さまざまな取組の中で、成果と課題が出てきたので、今後の取組みに生かしていきたい。	3年間で取り組んできたことを今後も継続していくため、幼・小・中との学社融合会議を継続して開催していきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

◎本年度は3年にわたる「共育コミュニティ本部事業」の発表もあり、今までの取り組みの総括と今後の見通しをもつ機会を持った。

- 1) 農事体験においては、20年にわたり、生活科・総合的な学習の中で、継続されてきたものである。上秋津に住む人々の営みにふれ、努力や工夫を知る機会を今後も大切にしていきたい。
※人材の新たな発掘をコーディネーター等と相談しながら行っていく。
- 2) 学力の向上を図るについて、3年間にわたり地域を教科学習の中に取り入れ、単元のめあてを明確にした学習を行うことを試み、成果も出てきている。
※新しい指導要領に向けての取組の1つとして継続していきたい。
- 3) 人を大切にする活動については、各学年においてこれまでの取組を継続して行っていきたい。
- 4) 幼・小・中の連携については、本年度も幼・小の「読みきかせ」の活動、小・中の「英語活動」などで新たな取組を行い、授業を通じた連携を行うことができた。

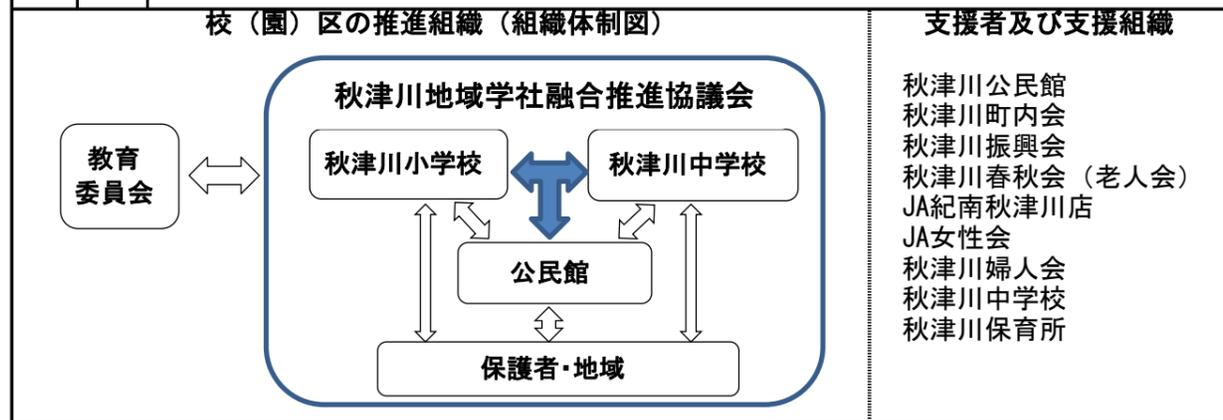
※今後も、これまでのような幼・小・中が交流を持ち、計画できるような場を設定していきたい。

学校・園名	田辺市立秋津川小学校	公民館名	秋津川公民館
-------	------------	------	--------

学社融合における学校・地域の様子

本校は年々児童数が減少し、本年度は20名が在籍している。地域の方々は協力的で子供たちと関わることを楽しみにしてくださっている。公民館や秋津川振興会等の諸団体、地域の方々の協力を得ることで地域の産業や伝統などを学び、地域の良さを知り、地域を大切にする心が育っている。
また、秋津川中学校とは、児童・生徒及び職員の交流もある。そのため、運動会や避難訓練をはじめ、さまざまな行事・活動で小中連携を図っている。

目 標	学校・園・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流を通して、秋津川の先人の知恵と文化を受け継ぎ、地域の良さを再確認し、地域や学校を大切にする心を育てる。 ・地域の方との交流を通して、コミュニケーション能力を高める。 ・子供たちに、地域の人たちとの交流の中で伝統文化等の様々な知識を教えて貰うことで、地域への愛郷心を養う。 ・普段子供たちと接する機会の少ない保護者以外の人たちに、公民館主催のイベントを通して交流を持って貰うことで、地域の活性化に繋げていく。
--------	---------	--



取組（活動内容・ねらい・日時等）

今年度の重点項目 **防災教育と情報モラル教育**

<防災教育>
 【防災教室】8月22日（水）10:00～11:00
 【講師】防災まちづくり課 田中啓行氏 『防災に備えて』
 【参加者】小学生、中学生、保護者、地域の方
 【ねらい】自然災害に備えることの大切さを学び、秋津川地区全体の防災意識を高めていく。
 【内容】田辺周辺で実際に起こった災害の画像などを提示しながら、自然災害の怖さやそれに対する備えなどを、子供達に向けてわかりやすく説明していただいた。特に、非常持ち出し袋としてリュックが利用しやすいこと、その中に入れておく便利な物について、さらに非常食としてコンパクトで食べやすいようかんがむいていることなど、具体物を取り出しながら説明していただいた。

<情報モラル教育>
 【情報モラル教室】12月13日（木）19:00～20:30
 【講師】和歌山IT教育機構 佐々木 哲氏 『スマホ、携帯、SNS等によるトラブルについて』
 【参加者】小学校高学年、中学生、保護者、校区協議会、地域の方
 【ねらい】SNS等の危険性を知り、情報機器の適切な使い方ができるようになる。
 【内容】最近のSNSの動向及び危険性について事例を交えて具体的に説明していただいた。特に、今年になって危険性が問われているTikTokについて詳しく教えていただいた。また、大人の感覚と子供の感覚が違うことや、リアル（現実）が充実していない子の方がトラブルに陥りやすいことなど教えていただいた。

その他の主な活動

<保小中合同の避難訓練（地震）・防災教室> 6月4日（月）
 南海地震を想定し、避難をした。防災教室では、煙や消火訓練、応急手当などを体験した。

<町民運動会> 9月23日（日）
 たくさんの地域の方が参加してくれた。ダンスや組体操、南中ソーランを披露した。

<敬老会> 10月7日（日）
 地域のお年寄りの方に、ダンスやお祭り音頭（地域の踊り）を披露した。

<ふるさとまつり> 11月18日（日）
 たくさんのお客様の前で、合奏と合唱を披露した。

<餅つき・秋小発表会> 11月29日（木）
 地域の方に来ていただき、数種類の餅をついてもらい、丸めてバックに詰めた。各学級で学習したことをたくさんの方に伝えた。また、感謝の気持ちを込めて、餅を振る舞った。

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校が連携して防災教育や情報モラル教育に取り組むことができた。 ・地域の方にも参加してもらうことで、地域の方に学校で取り組んでいることについて知ってもらうことができた。地域の課題を共有できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に、学社融合推進協議会の活動をさらに知ってもらえるような手立てを考えていきたい。 ・学校に関わっていただいている方が高齢化してきているので、こういう機会を捉えながら、学校の活動を知ってもらい、学校の活動に関わってもらえる人を増やしていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことをよく知っている方に教えていただき、地域の防災についてより意識するきっかけになった。 ・中学生と一緒に学習することで、中学校への接続を円滑にすることが期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災とともに地域の良さについても触れ、地域を大切にする心を育てていきたい。 ・低年齢の段階から情報モラルについて学習することで、情報機器の正しい使い方を知らせ、トラブルに巻き込まれないようにしていきたい。
*子供にとって	<p>地域の人たちが観ている前での発表の場を設けることで、自信を持つことができ、子供たちの成長に繋げることができた。</p>	<p>地域の一員であることの自覚と誇りを持ち、地域の後継者として活躍していけるよう自覚を促していきたい。</p>
地域（公民館）	<p>地域事業の際に学校に協力していただき、子供たちが発表をしてくれることで、地域の活性化に繋がっている。</p>	<p>事業や取組を継続していくことができるよう、今後も地域全体で協力し合いながら展開していきたい。</p>

評価及び次年度に向けての取組の方向

<評価>

- ・今年度、学社融合推進協議会が発足し、基本的には今までの活動を継承する方向で計画を立てた。そして、今年度の重点項目として「防災教育」「情報モラル教育」に取り組んだ。今後の学社融合推進協議会の活動の基本的な形を作ることができた。
- ・防災教室は、大人にとっても、田辺市の過去の災害の映像を示し解説いただいたことで、災害は身近な問題であることを再認識することができた。
- ・情報モラル教室は、各家庭でルールを作ったりアプリに利用制限をかけたりするなど、SNS等の適切な使い方について考える機会となった。

<次年度に向けて取組の方向>

- ・子供たちが地域を大切に思い、社会に貢献できる人材に育つよう、公民館をはじめ各種団体と協力・連携しながら、学社融合を進めていきたい。
- ・来年度は、「障害者理解」を重点項目として取り組んでいく。



学校・園名	田辺市立上芳養小学校	公民館名	上芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 自然豊かな環境の中で、児童生徒は地域や保護者に大切に見守られながら学校生活を送っている。 小学校・中学校は、地域のサークルや地域の方々の協力を得たり福祉施設など地域にある施設や事業所の方々と交流を行ったりして教育活動を進めている。地域全体が「地域で上芳養の子供を育てる」という意識が高く、学校の教育活動には協力的である。 公民館は子供対象の行事を実施したり住民参加のスポーツ大会、文化祭を開催し地域の交流を図っている。			
目 標	学校	学校 ○地域の自然や人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていきこうとする児童生徒を育成する。 ○地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図る。	
	地域	地域（公民館） ○児童生徒と地域住民との交流を深めることにより、子供たちの地域理解を深める。 ○学校と地域との連携を密にして子供たちの健全育成を図る。 ○地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで地域の活性化へと繋げる。	
校区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
上芳養地域学社融合推進協議会 委員15人 （学校関係者、各種団体代表及び学識経験者） 事務局4人（上芳養小・中、公民館）		校区協議会 育友会 上芳養小学校育友会 上芳養中学校育友会 上芳養公民館 日向保育所 各種団体 ・上芳養町内会 ・交通安全協会上芳養分会 ・上芳養消防団 上芳養校区協議会 学識経験者 地域の事業所・地域の先生	
各種団体・地域住民等		小学校、中学校及び育友会	
連携・協力		意見・協働	
連携・協力		支援	
取組（活動内容・ねらい・日時等） *今年度の様々な取組の中から「上芳養地域学社融合推進協議会」の研修会と「上芳養地域の取組」の紹介についてまとめています。 <上芳養地域学社融合推進協議会について> 5月28日（月）第1回上芳養地域学社融合推進協議会「今年度の活動計画について」 8月9日（木）第2回上芳養地域学社融合推進協議会 報告①「上芳養小中学校児童生徒の家庭における情報機器等の使用状況」 報告②「きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会の報告」 研修「パソコン・スマートフォン等の消費者トラブルについて」講師：県消費者生活相談員 1月30日（水）第3回上芳養地域学社融合推進協議会「今年度の取組報告・次年度に向けての意見交換」 <上芳養地域の取組内容> 8月17日（金）カヌー教室（雨天順延になったため、上芳養小学校プールで実施） 講師：丸山誓子氏（上芳養公民館体育委員）対象者：小学校（4～6年） 10月13日（土）乗馬体験教室（白浜町きのくに乗馬倶楽部） 指導者：きのくに乗馬倶楽部インストラクター 対象者：小学校（4～6年） 10月18日（木）第38回上芳養公民館卓球大会（上芳養小学校体育館） 参加者：地域住民・小中学生・第二のぞみ園職員・学校職員（合計29名） 11月8日（木）第21回上芳養ファミリーバドミントン大会（上芳養中学校体育館） 参加者：地域住民・小中学生・第二のぞみ園職員・学校職員（合計60名） 12月25日（火）焦がし絵体験教室（上芳養小学校図工室） 講師：宮本秋子氏（元上芳養公民館文化委員） 対象者：小学校（4～6年） 1月17日（木）第26回上芳養ソフトバレーボール大会（上芳養小学校体育館） 2月16日（土）17日（日）第21回上芳養手づくり作品展（上芳養小学校体育館） 2月17日（日）田辺梅林へ歩かんか（田辺梅林：石神地域）参加者：地域住民			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 児童の情報機器の使用頻度や活用方法をアンケートで把握し、課題を明らかにすることによって、今後家庭や地域との連携方法を考える機会が持てた。 学校では体験できない教室があるのでありがたい。「卓球大会」や「ファミリーバドミントン大会」などは、地域住民のみなさんとの交流ができる貴重な機会であり、地域で継続的に実施されている意義は大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果で明らかになった課題を解決するため、学校・家庭・地域が今後どのように連携を深めていくか。 公民館との連携を密にし、児童生徒が今後も楽しく良い体験ができる機会を作っていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 公民館行事は、子供たちが楽しみにしているものが多く、「カヌー体験」「乗馬体験」「焦がし絵体験」は、それぞれ人気があって充実した時間を過ごすことができた。 「卓球大会」「ファミリーバドミントン大会」などは、小中学生も参加できるので地域の色々な人との触れ合いができる良い機会になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器やゲーム等の使用頻度が多く家庭学習や生活習慣の乱れが課題となる児童に対する支援が必要になる。 多くの児童が参加しやすい行事ができるといい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 各体験教室は、毎年、子供たちが楽しみにし、興味や関心を持って参加してくれている。 体験の中で、子供たちが、試行錯誤して取り組む姿が見られ、自ら考える力が少しずつ身につけているのではないかと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器やゲーム等の使用頻度を少しでも低くできるように、体験教室に参加し、実生活の中で、自らが体験・経験することの大切さを学んでほしい。 参加してくれる子供たちが固定化する傾向があるので、さらに多くの子供たちにも参加してもらえるよう取り組んでいきたい。
地域・保護者（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> 地域の子供たちの様子がよく分かり、地域の方々が学校教育に対する関心をさらに高めることができた。 地域の方々の知識や技能を発揮できる場を提供することができた。 公民館の活動について、興味・関心を持ってもらうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器等の取り扱いについて、保護者の方々がさらに深い知識を持ち、子供たちを見守っていく必要がある。 各体験教室において、地域の方をはじめ、保護者の方にも講師やお手伝いをしていただけるよう協力を呼び掛けていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
○上芳養学社融合推進協議会では、学校と地域が連携し、児童の生活をよりよくするための手立てを考えるきっかけとなる研修ができた。今後さらに児童の家庭や社会生活に目を向け、学校生活とリンクさせ、互いに相乗効果が出るような取組を考えていきたい。		
○上芳養公民館では、夏休みや冬休みの期間を活用し、楽しい教室を開催した。そのお陰で、子供たちは有意義な体験ができたので今後も継続していきたい。		
○「卓球大会」「ファミリーバドミントン大会」「ソフトバレーボール大会」「手づくり作品展」などの体育・文化行事は、今後も地域全体のよい交流の場として継続していきたい。		
<カヌー教室> <乗馬体験教室> <卓球大会> <ファミリーバドミントン大会>		

学校・園名	田辺市中芳養小学校	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校の児童は明るく、上級生が下級生の世話をすすんでしようとするなど優しい雰囲気がある。地域住民も学校の教育活動に協力的である。今年度より学社融合推進協議会が設置され、28年度までの「共育コミュニティ本部事業」の三つの柱「子供の育成」「文化の伝承」「交流の推進」を大切にしながら、地域の教育資源を有効に活かした教育活動の充実に今後も努めていきたいと考えている。			
目 標	学校・園	・子供たちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。 ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。	
	学校・園・地域		
校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 ・PTA ・町内会 ・老人会 ・消防団 ・JA ・地域の農家 ・地域の寺院・神社	
取組（活動内容・ねらい・日時等） （学校・地域全体での取組） 中芳養夏祭り（8月）…盆踊りや夜店・花火など地域を挙げて盛大に行われた。 敬老会への参加（9月）…3～6年が手紙を贈り、1・2年は音楽発表をした。 中芳養コミュニティ運動会（9月）…一般参加種目に多数の参加を得た。 中芳養合同作品展（12月）…児童や地域の人、教職員の作品を多数展示した。 （学年ごとの取組…年間を通してふるさと学習） 1年 中芳養の自然博士になろう 2年 中芳養のすてきな人・すてきな場所博士になろう 3年 中芳養の梅博士になろう 4年 中芳養の防災・安全博士になろう 5年 中芳養の歴史博士になろう 6年 中芳養の未来博士になろう （実践例「3年 中芳養の梅博士になろう」） ①梅の収穫体験をしよう（6月） 地元の梅農家の畑で梅の実を拾う体験をさせていただいた。 ②梅干しとシロップを作ろう（6月） 収穫した梅は、JAの皆さんに教えていただきながら、梅干しやシロップにした。 ③梅農家の人に質問しよう（10月） 地域で梅を栽培している農家の方を招き、グループに分かれて質問した。 ④梅加工施設を見学しよう（10月） 校区内にある梅の加工施設を見学し、梅を使った商品が作られる様子を見学した。 ⑤学習の成果を発表しよう（11月） 参観日や全校集会で、梅について学んだことを発表した。 保護者や協力して下さった皆さんも発表を聞き、感想を述べてくれた。			

	成 果	課 題
学校・園	・地域の自然や産業、歴史を学習テーマとすることで、目標に沿った学習を年間を通して展開することができた。	・教職員が異動しても学習をスムーズに進められるように、活動の様子や協力者の連絡先を記録し、引き継いでいく。
*子供にとって	・調べ、体験し、発表する学習活動を通して、課題を追求する力や表現力、協力する態度などを育成することができた。	・体験や活動のみにならないように、指導者が学習のねらいを明確に持ち、児童にも意識させて取り組むようにする。
*子供にとって	・地域の産業や文化について学ぶ中で、様々な方々と関わり、交流を深めることができた。	・様々な体験や学習を通して、感じたことや考えたことを活かしながら、地域に対しての愛着や関心をさらに深めてほしい。
地域（保護者） 公民館	・子供たちの学習の成果を知り、保護者や地域の方々は、地域全体で子供たちを育てていこうという意識を高めることができた。	・子供たちの学習に繋がる様々な体験や活動が、今後も継続して実施することができるよう、地域全体がさらに連携し、活動を進めていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向
 今年度から学社融合推進協議会が設置されたが、今までの成果を継承しつつ、さらに充実した取組をすすめることができた。多岐にわたる学社融合の取組の中で、例えば3学年では、ふるさと学習として、梅学習に取り組んだ。
 中芳養地域は梅の産地であり、本校では以前から「梅」をテーマにした学習に取り組んでいる。今年度も地域の多くの方の協力を得て、豊かな学びを実現することができた。実際に体験し、実物に触れ、人と関わることで、教科書だけでは学べないことを学ぶことができる。これからも地域との連携を図り、学びを深めていくことで学力向上や自己肯定感、愛郷心の育成を目指していきたい。

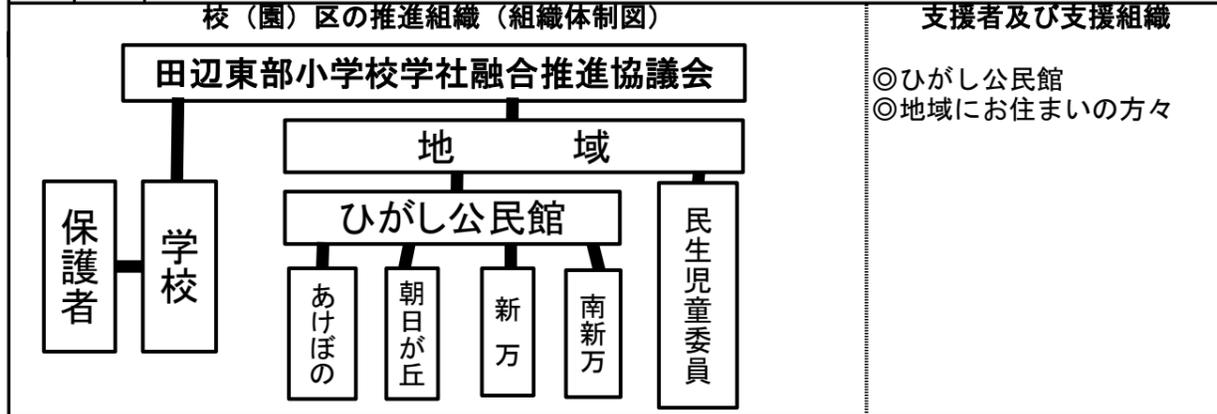
（梅学習の様子）



学校・園名	田辺市立田辺東部小学校	公民館名	ひがし公民館
-------	-------------	------	--------

学社融合における学校・地域の様子
 平成7年に「ひがしコミュニティーセンター」が建設されてから、学校と地域公民館が連携した取組も充実してきた。今年で11回目を迎えた「ひがしふれあい秋祭り」がその代表的なものである。4町内会・地域の各種団体・学校・公民館が合同で、幅広い世代の方々がふれあえるきっかけを作り、地域住民の交流を図るとともに、地域の連帯感を深めることができています。今回も昨年度に引き続き、その場で6年生が「よりよい未来の東部地区」の学習発表をした。語り部学習の取組も4年目になり、学習を進めていく中で、児童は地域の方々から、地域の歴史や文化、町作りをどのような願いで進めてきたのか、またその時の苦労や喜び等を学ぶことができた。

目 標	学校・園・地域	○田辺東部小学校区の今と昔を調べ、語り部活動として下級生や保護者・地域の方々に発表することを通して、自分たちの町の良さを再認識し、地域に誇りと愛着を持つ。 ○子どもたちと地域の方々の交流の橋渡し役となる。 ○地域の良さを伝えることによって、自分たちも地域について再認識する機会とする。
--------	---------	--



取組（活動内容・ねらい・日時等）

- ①導入・学習計画を立てる（6月）
自分たちの住む地域は、新しい住宅地であり、田辺市の中でも新しくできた町であるという特色がある。そこで、地域の今と昔を調べて、新しい町づくりに取り組んだ人々の思いや、今現在の地域の様子などを発表するという計画を立てた。
- ②インタビューの準備（9月）
各地区をよく知る方々に質問したい事を考え、インタビューの計画を立てた。お招きするゲストは公民館主事に紹介していただいた。
- ③地域の方々にインタビュー（10月）
各地区のゲストティーチャーを招いて、昔の町の様子や、新しい町作りへの願いや苦労などについて教えていただいた。
- ④調べた事をまとめる（10月）
インタビューや調査で分かった事を、各地区別のグループでまとめた。地域の方々の熱い思いや願いをたくさん知り、地域の魅力を「ひがしふれあい秋祭り」で多くの方々に伝えたいとの思いで、発表原稿作りに取り組んだ。
- ⑤「ひがしふれあい秋祭り」で発表（11月）
これまで学習してきた地域の魅力について大勢の人の前で発表した。



	成 果	課 題
学校・園	○語り部学習は6年生による取組であったが、地域の特色や歴史、施設、住民の願い等を調べ、下級生にも発表することで、全校児童にふるさとに誇りと愛着を持たせるよい機会となった。 ○地域の方々から学んだことを、地域に発信することで、地域と学校が連携して、さらによりよい地域にしたいとの思いを共有する事ができた。	○限られた時間の中で、より効果的に「ねらい」を達成できるように計画的に学習を進める必要がある。
*子供にとって	○自分の身近な地域をテーマとした学習であったため、子供たちの興味関心が高く、意欲的に学習をすすめることができた。	○児童一人一人の興味・関心に沿った学習を支援できるように、十分な時間を確保する必要がある。
*子供にとって	○地域の方にインタビューを行う事で、コミュニケーション能力を高める事ができた。ふれあい秋祭りや校内の発表を通して、自身の表現力を高め、達成感を味わう事ができた。	○地域に対する誇りや愛着を忘れず、地域貢献にさらに取り組んでいけるようにしたい。
地域（保護者）	○子供たちに、地域の歴史や施設、住民の願い等を伝える事に喜びを感じている。自分たちにとっても、地域を再認識できる活動となった。	○今後も公民館と学校が連携を密にして計画的に活動を進めていくことが大切である。

評価及び次年度に向けての取組の方向
 ◎4年目を迎えた語り部学習であったが、学校・公民館・地域が連携して取り組み、充実した学習となった。

今年度も、児童に故郷を愛する心の芽を育み、また、地域に貢献する活動に取り組もうとする意欲を喚起することができた。内容や方法を工夫しながら、次年度以降も地域学習に取り組んでいきたいと考えている。
 本校では6年生の語り部学習を紹介したが、言うまでもなく、学社融合の取組は6年間を通じて行われるものであり、低・中・高それぞれの学年で様々な実践に取り組んできている。6年生が語り部学習で成果を上げることができたのは、それらの積み重ねによるものが大きいと思う。また、本校の学社融合の中心的な行事として「ひがしふれあい秋祭り」があり、その内容をさらに充実したものとしていくことが重要である。今後も学校・公民館・地域が協力し、一体となった取組を続けていきたい。

学校・園名	田辺市立龍神小学校	公民館名	龍神公民館 龍神分館
学社融合における学校・地域の様子 本年度も龍人学の礎である「龍神の元気の素は人にあり」を旗印にして学社融合を推進することにより、龍神小学校区の人を元気にすることを目標に取り組みました。児童が地域で生活する様々な方々と触れ合い、ともに活動することで、児童も地域の方々も元気になっています。保護者や地域の方々も、学校の教育活動に大変協力的です。			
目 標	学校・園・地域 <ul style="list-style-type: none"> 災害時の避難所として指定されている学校での宿泊体験を通して、集団の中で自分の役割を自覚し主体的に行動する態度を身につけるとともに、地域の方々を協力しながら避難生活を送ることができる。 保存食や防災用品の活用体験を通して、防災意識の向上を図る。 		
校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 田辺市役所総務部 防災まちづくり課 田辺市役所龍神行政局 田辺市立龍神小学校PTA 田辺市龍神公民館龍神分館	
取組（活動内容・ねらい・日時等） 本校は地域の避難所に指定されていることから、4年前から「地域の方と協力しながら主体的に避難生活を送ることができる児童を育てる」ことを目的として、3年生以上で1泊2日の防災キャンプを実施している。1月に開催していた学校・PTA・龍神公民館龍神分館共催の防災学習会を平成29年度よりこの防災キャンプの中に組み入れて行っている。本年度は7月25日・26日に実施した。 防災キャンプ日程 25日（水） 16:15 スケジュール確認・班会議 17:00 食事準備（配給制） 18:30 防災学習会 21:30 就寝 26日（木） 6:00 起床 6:30 学校周辺散歩 8:00 朝食 9:30 下校 防災学習会は田辺市役所防災まちづくり課の方を講師にお迎えし、「土砂災害について」を演題として講演会を開いた。周りを山に囲まれた自分たちの地域で、過去に実際に起こったこともある災害であるため、そのメカニズムを知り、早めに避難することが大切であることを学習した。 また、防災キャンプでは避難所になったときを想定し、食料や飲料水、寝るためのシートなどを配給した。食料は水でもお湯でもお米にもどすことのできるアルファ米と、缶詰を食べる体験をしたが抵抗なく食べられていた。その後できるだけゴミを減らすことも考えながら後片付けを行った。避難所での生活は、集団生活であるため秩序を守り、児童一人一人ができることを自分で考え行動するように指導した。 2日目の朝は、昨年度とは違うコースを散歩し、学校の周りの自然に触れると共に防災の視点から危険箇所の確認を行った。			



	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 児童の防災意識の向上を図ることができた。 保護者や地域の方に龍神小学校の教育活動を知ってもらうことができた。 防災まちづくり課の方に来て頂き、いろいろな角度から防災学習について教えていただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の防災組織との連携を深めていく取組を考えていく必要がある。 地域人材の活用を教育活動の中に組み入れていく。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害のメカニズムや恐ろしさ、早めの避難が大切であることを知ることができた。 避難所生活になったとき、自分たちがどのような行動をとればよいかを考え、自分たちで協力できるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の防災意識の変容について実態を把握する必要がある。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害のメカニズムや恐ろしさ、早めの避難が大切であることを知ることができた。 避難所生活になったとき、自分たちがどのような行動をとればよいかを考え、自分たちで協力できるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> より多くの方と共に防災について考え、地域の方と交流できるようにしていく必要がある。
地域（保護者） 公民館	<ul style="list-style-type: none"> 公民館と学校が防災学習会を共催することによって、地域住民、児童共に防災について考えることができ、防災意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館として、学校主催の「防災キャンプ」にどのように関わっていくかを検討していく必要がある。 この防災学習を地域の高齢者の方にもっと知ってもらう取組を考えていく。

評価及び次年度に向けての取組の方向

・防災学習会では、防災まちづくり課の方を講師に招き「土砂災害について」の話をしていただいた。地域を山に囲まれたこの地域にとっては、自分事として考えることができた。
 ・次年度は学社融合推進会議で、防災学習会の内容について協議していく。また、児童と地域、保護者の方々がともに活動し交流できる学習内容を早めに決定し、広報できるようにしていく。
 ・本年度は台風21号通過後4日間停電が続いた。調理員さんの尽力により何とか給食を作っていた。今後のことを考えて今まで3年以上が防災キャンプで食べていたアルファ米を低学年の児童も体験することが大切であろうと考え、来年のキャンプでは低学年の児童も夕食に参加する予定である。
 ・例年7月に実施しているが、大変暑い時期でお風呂に入ることができないので、6月頃の実施を考えている。
 ・田辺市役所総務部防災まちづくり課と連携を図りながら防災学習を進めてきたが、地元の防災組織との連携を進めていく必要がある。



学校・園名	田辺市立上山路小学校	公民館名	龍神公民館・殿原分館・東西分館・宮代分館
学社融合における学校・地域の様子 本校は平成21年度に3校が統合し10年目を迎えた。統合前の3地域の想いを大切にしながら平成24年度から3年間、田辺市学社融合の研究指定を受け、平成26年には研究発表会をもった。龍神上山路出身でない職員がほとんどの中、地域教材を開発したり、ゲストティーチャーを捜して何度も打合せをしたりしながら地域と学校が一つになる取組を進めている。			
目 標	学校・園・地域 ・地域を知り、昔からの知恵に学び、ふるさとを大切に思う児童の育成。 ・地域と保護者・児童の交流の場を設け、お互いを知ることで地域の活性化をはかる。		
校（園）区の推進組織（組織体制図） 		支援者及び支援組織 ・丹生ノ川区 ・殿原区 ・上宮代区、下宮代区 ・東区 ・西区 ・丹生ノ川果無クラブ ・殿原老人クラブ ・ピンコロ会 ・上宮代ふれあいクラブ ・せいじゅ学級 ・あけぼの学級 ・殿原婦人会 ・宮代婦人会 ・東西婦人会	
取組（活動内容・ねらい・日時等） ①クリーン大作戦（全校） 日時・・・平成30年6月3日（日） ねらい・・・○地域の方・保護者・児童と一緒に自分たちの住む地域をきれいにし、ふるさとを愛する心を育てると共に交流を深める。 ○ゴミの分別の仕方を知ること、環境を大切にする態度を育てる。 活動内容・開会（校長挨拶・児童会より・場所説明・道具配布・諸注意） ・移動→清掃活動 ・学校到着→ゴミ分別・道具の片付け ・ゴミの量の計測→発表 ・閉会（児童会より・校長挨拶） 			
②丹生ノ川交流授業（6年） 日時・・・平成30年7月6日（金） ねらい・・・○校区内の丹生ノ川地区を訪ねて、学習したことを発表し、かつて学校があった頃のことを学ぶ中で生活を見直すきっかけとする。 ○祖父母、親、児童の三世代が集い、「修学旅行」や「方言」を通して昔の生活についてお話を聞きながら受け継いで行かなければならないものについて学ぶとともに、コミュニケーション能力の向上を図る。 活動内容・丹生ノ川小学校校歌斉唱 1時間目・・・発表「ぼくの私の修学旅行」 昔の修学旅行（地域の方のお話） 2時間目・・・国語 「龍神の方言」 （グループ学習） 			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 学社融合推進協議会、学校地域連絡協議会の協力を得て年間計画を立てることができた。 授業のゲストティーチャーについての意見をいただくことができた。 学校からの投げかけと一緒に考え意見をくださった。 創立10周年の記念行事に運動会での餅つきをするを提案すると、前日餅つき櫓の組立てに協力くださった。 	<ul style="list-style-type: none"> ここ数年で職員の入れ替わりもあり、地域の人に馴染みが薄い職員が多くなってきた。 ゲストティーチャーとの打合せの時間がなかなかもてない。 行事の精選、学社融合計画の更なる見直しが必要である。
*子供にとって	①・ゴミの量を量ることによって自分たちの校区がきれいになったことを実感できた。 ・ゴミの分別の仕方が分かった。 ・ゴミのポイ捨てをしてはいけないという意識が育った。 ・地域の人と交流できた。 ②・自分たちと昔の修学旅行の違いについて知り、自分たちがいかに恵まれているか感じることができた。 ・グループ学習では地域の方と交流できた。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方と積極的にコミュニケーションをとれるような児童に育てる。 取り組んだことをいかに学力や生きる力に結びつけていくか、その手立てを考えていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 1年間に何回か交流を持つことで、地域の方の顔やお名前を覚えることができた。 交流する事前に話す内容などを考えておくことができた。 地域行事にも積極的に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の一員としてふるさとに誇りを持ち、ふるさとを大切に思う気持ちを培うためにも学社融合を続け、人と交流することの好きな児童を育てる。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域、地域の人と人の結びつきを深めることができた。 行事や授業を行う前に、関係団体で打合せをもつことができた。 保護者はいろいろな行事に参加することにより授業以外での児童の様子をみることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校のいろいろな行事を通して保護者や地域の方の力を集め、ふるさとを大切に育てる児童を育成する。

評価及び次年度に向けての取組の方向
【評価】
 龍神村には、市町村合併以前から「龍人学」というものがある。当時の教育長が「大人になって龍神を離れても、ふるさと龍神のことを胸を張って誇れる子供を育てる教育が必要だ。」という想いからふるさと学習を提言された。地域のことを教材化するには当然教科書もなく、教師にとっては労力のいることである。しかしながら、それをするのは子供のみならず、教師にとっても何にも代え難い財産となる。また、教師が学ぶ姿は、子供の学びをより深めることにつながる。ここには紹介していないが、このような取組がなされ学習発表会で保護者や地域の方々に発表できたことは成果としてあげられる。将来大人になると多くの児童は龍神を離れることとなるであろう。しかしこれからの将来、どこにいてもふるさと龍神を盛り上げようと思えることはできると思う。そんな児童を学校と地域と一緒に育てていく取組をこれからも続けていくことが必要であると思える。

【次年度の方向】
 学社融合推進協議会、学校地域連絡協議会とともに協力して今年度の反省を生かした次年度の計画を立て、持続可能な取組をしていく。



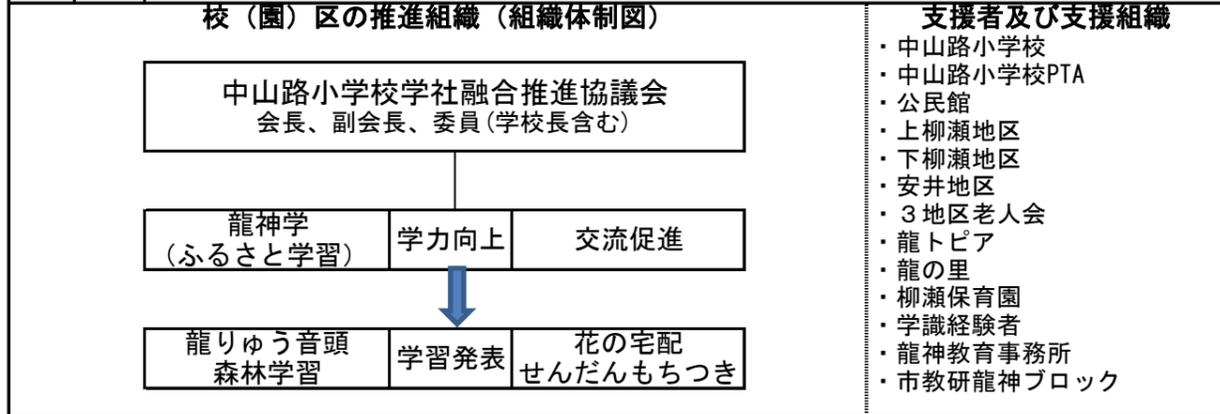
学社融合推進協議会活動報告 協議会名：中山路小学校地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立中山路小学校	公民館名	龍神公民館中山路分館
-------	------------	------	------------

学社融合における学校・地域の様子

本校では平成11年より龍神学（ふるさと教育）として、地域に根ざした教育活動を広く行い、その基盤を生かしたキャリア教育・食育等の実践と共に「地域の学校」としての活動を展開してきた。特に平成19年度からは、学校が持つ役割や責任を自覚し、それを果たしていく中で地域に何らかの貢献が出来るのではないかと考え、家庭・地域・関係機関との連携の在り方を「相互保管型から協働機能型への発展をめざす」取り組みを図ってきた。

目 標	学校・園・地域	<ul style="list-style-type: none"> 学校・保護者・地域が一体となって学校・家庭・地域の教育力を高め、児童の学力向上と健全育成を図るように努める。 学校・公民館・地域の連携を蜜にし、相互にその教育力を活用し合い、協力して子供たちの健全育成と地域の教育力向上に努める。
--------	---------	---



取組(活動内容・ねらい・日時等)		
〈主な取り組み〉		
5月 高学年	龍トピア訪問	高齢者福祉施設「龍トピア」訪問 高学年が歌で入所者の方との交流を深めた。
6月 5年生 高学年	田植え体験 花の移植作業	地域の方に田植の体験をさせていただく。 地域の方と一緒に花の宅配のためにポットに植え替え作業する。
7月 高学年	花の宅配	高学年が中山路地区全戸に花の宅配をする。
8月 保護者・児童全員	愛校作業	
9月 全校児童	龍りゅう音頭指導	龍舞会の方に龍りゅう音頭の指導をしていただき、運動会で地域の方々と一緒に踊った。
10月 5年生 1年生	稲刈り体験 どんぐり拾い体験	田植をさせていただいた田で稲刈り体験をさせていただいた。 秋さがし体験で大きなどんぐりを拾わせていただいた。
11月 全校児童	せんだんもちつき交流会	保護者・地域の皆様と臼と杵を使いお餅つきをした。体育館で会食を行い楽しい交流を持った。地域の方からいただいたお米で作ったおにぎりもいっしょにいただいた。
12月 全校児童	学習発表会	保護者・地域の皆様に学習発表会を開く。「中山路防災マップ」「昔の遊び」「索道と築根」「和楽器の演奏」は地域の方に指導していただいた。
1年生	龍の里訪問	歌とダンス、ゲームで入所者の皆様と交流を深めた。
1月 3～6年	森林学習	学遊林で森林（人工林 雑木林）について森林組合の方にお話していただいた。拾ってきた木切れでびゅんびゅんごまを作り楽しんだ。
2月 高学年	森林組合見学	森林組合の製材所・競りを見学し、競り体験も行った。

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々に教えていただいた事を学習発表会で発表することにより、学校に対する親近感を持っていただく事が出来た。 来校していただくことにより地域の方々に学校や児童の様子について知ってもらうことが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々に協力をお願いするにあたり綿密な計画・打ち合わせをして行事に取り組んでいく。 人材確保（専門的な知識を持った方を含む）が必要である。 公開授業に参観していただけるように呼びかけの工夫をしていく。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 発表することで、地域の方からお褒めの言葉をいただき、自己有用感や地域に親しむ気持ちが育ってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだ事を発表し、地域の方から評価されたことで芽生えた自己有用感と地域に親しむ気持ちや学習意欲を継続する取り組みを展開する。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々と交流を持つことにより、人と人との結びつきをより深いものにするために適切な礼儀や正しい行いをする事が大切であることに気づくことが出来た。また相手に対する思いやりの心を持ち親切にする気持ちが育ちつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 来校していただいた時や行事の時だけでなく、常に地域の方々に温かい心で接したり感謝の気持ちを持って挨拶できるたりするように継続指導をしていきたい。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> 児童と交流することで、地域全体で児童を見守り育てていく意識がさらに深まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のことをよく知っている方や幅広い年代の方との交流を深められるようにしていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

【評価】

- 今年度もどの学年でも地域の方から教えていただいたり、共に活動をする機会を持つことが出来た。
- 学校開放月間中に開催した学習発表会では、地域の方々に教えていただいたことをもとに「中山路防災マップ」「昔の遊び」「索道と築根」「和楽器の演奏」について発表することが出来た。地域の方々からもたくさんのお褒めの言葉をいただくことが出来た。
- 花の宅配では、花の移植に地域の方々にお手伝いしていただいた。その後育てた花を中山路地区全戸に配布することが出来た。「大切に育てます。ありがとう。」とお礼の言葉をいただくことが出来た。児童は地域に花を宅配することで地域の様子や地域の方々のお名前やお顔を知ることが出来、より地域に対しての親しむ気持ちが育ってきた。

【次年度にむけての取組】

今年度の取組を継続し、学習したことを地域の方々に発信していく。中山路についての文化と生活に親しみ愛着を持つようにさらに地域の方々との交流を深めていく。

学校・園名	田辺市立咲楽小学校	公民館名	龍神公民館福井分館・甲斐ノ川分館
学社融合における学校・地域の様子 地域の学校や教育に対する関心は高い。ほとんどの家庭がPTA準会員として協力してくれており、運動会や学習発表会等にも大勢の参加がある。また、学校便りを楽しみにしてくださっている方もいるので毎月発行し全戸配布に心がけている。本校では創立時から、各地区長、老人会長、女性会代表や公民館、PTA、学校職員等で組織する学校地域連携推進会議が学校と地域を結ぶ中心的な役割を果たしてきた。地域の祭礼では、児童も事前に笛や太鼓、獅子舞等を習い、祭りに積極的に参加するとともに、会場には児童会で作ったゴミ箱を設置するなど、学校と地域との結びつきは強く、地域ぐるみで子どもを育てていこうという土壌がある。			
目 標	○咲楽小学校と学区民が連携を図り、地域全体で子どもの健やかな成長を担う環境づくりに寄与する。 ・咲楽小学校の教育発展のため広く意見を聞き、学校運営に反映できるよう努める。 ・学校を開き、地域住民との連携を図って行く中で、学校教育方針の周知に努める。 【咲楽小学校地域連携推進会議《規約第3条》等より】		
	校（園）区の推進組織（組織体制図） 	支援者及び支援組織 ・咲楽小PTA ・校区会（4地区） ・龍神教育事務所 ・市教研龍神ブロック ・柳瀬保育園 ・学識経験者 等	
取組（活動内容・ねらい・日時等） ◇11月12日～16日「学校に行こう」（学校開放週間） 学校の様子を知ってもらい、地域の方から学んだり地域の方と共に学んだりする活動を通して地域住民との交流を深めるため、「学校に行こう！（学校開放週間）」を設定した。校区全戸に「学校開放月間全体行事予定案内」を、さらに保護者には各行事前に案内チラシをそれぞれ配布すると共に、保護者と老人会には重ねて出席を呼びかけた。当日は、多数の保護者や地域住民の参加があった。 ①収穫祭 13日（火） 全校で育てたさつまいもを11月1日（木）に収穫した。13日当日、1～4年生が、学級毎に収穫した芋を使って調理し、5・6年生は自分たちで育てたもち米でお餅を作り、保護者や地域の方に来ていただいてみんなで収穫を祝う食事会を行った。 ②給食試食会 14日（水） 前もって希望者を募り、普段児童が食べている給食を試食し担当者との意見交流を行った。 ③公開授業 14日（水） 各学級で、国語、算数、理科、社会、生活科、体育、音楽等の授業を公開し、保護者や地域の方々に参観していただいた。 ④花の苗植え 15日（木） 地域の方の指導により全校児童で学校の花壇やプランターに苗の植え替え作業を行った。 ⑤あかりのエコ教室 16日（金） 3～6年生児童の活動。講師を招いて、紀州材と龍神の山地和紙を使ってLED行灯を作ったり電球やあかりの省エネ等についての学習を行った。保護者や地域の方々も参加して児童と一緒に学習したり作業等を行った。 ⑥昔の遊び体験 16日（金） 1～2年生児童の活動。地域の方や福井分館長さん等に紙玉鉄砲の製作と遊び方（使い方）について教えていただいた。 ◇学社融合推進協議会・学校地域連携推進会議・咲楽小学校が中心となって企画及び活動を行った主な行事 ①通学路危険箇所確認 6月19日（火） 安全対策部会（学校地域連携推進会議）による、通学路における危険箇所の確認作業。 ②運動場の草引き（3回） 7月6日（金） 7月12日（木） 9月12日（水） 環境整備部（学校地域連携推進会議）が企画。雨で中止になった日もあったが、主に地域のお年寄りが参加してくださった。 ③愛校作業 8月19日（日） 小学校、PTA、環境整備部が企画。夏休みの登校日に位置づけており、児童と保護者、地域の方々が一緒になって校内の整備作業を行った。 ④合同防災訓練 10月25日（木） 学社融合推進協議会、安全対策部会、小学校が中心となって企画。県危機管理局「出張！減災教室」と兼ねて学校と地域が合同で地震の防災訓練を行った。			

等々

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 昔の遊び、苗植え等、地域の方の技術があつてこそその学習や、大勢の大人の助けなしにはできない学習や活動を行うことができた。 大勢の方に学校に来てもらい、学校や児童の様子を知っていただくことができた。地域との一体感が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校開放週間中の行事は、同日開催を可能な限り増やす。 やはり公開授業を参観して下さる方が少ない。学校は授業こそが本文なので、その授業を観て下さる方を増やす工夫をもっと考えていかなければならない。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで育てたお芋を使って、自分たちで調理した食べ物を参加して下さった地域の方に振る舞うことで充実感を味わうとともに地域との距離がより近くなった。 保護者や地域の方々の助けやアドバイスをすることで作業がよりスムーズになった。 地域のお年寄りに紙玉鉄砲の製作に携わっていただき完成後はみんなで楽しく遊ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「敬老の日」にあわせて敬老の方に手紙を書いて届ける活動のような子どもから地域に発信したり働きかけたりする、子供が主体となる活動をもっと増やしていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ともに活動してくれる大人がいることで、地域に見守られ支えられていることを実感し、同時に安心感を得ることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学社融合推進協議会や学校地域連携推進会議の積極的な活動により、昨年度より大人と子供が触れ合う機会が増えたが、子供の方からもっと主体的に働きかけるような工夫も必要である。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> 教えたり共に活動したりすることが、大人の側にとっても楽しみであり、学校と地域がつながるきっかけにもなっている。 学社融合推進協議会や学校地域連携推進会議が積極的に活動してくれるので学校との関わりが深くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 少しずつ年を追うごとに参加者が増えているので嬉しいことだが、同じような顔ぶれになりがちである。参加者の幅を広げる工夫を考えたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

「学校開放週間」は学校や地域の年間行事として定着した。しかし、参加者が年々増えているとはいえ固定化しつつあるので、より多くの方に参加していただき学校の様子を知ってもらうために、日程を知らせる機会を増やす等、さらに工夫していかなければならない。特に授業参観については、公開授業時はもちろんのことその日以外でも参観していただけるような手立てを講じる必要がある。今後も学校と地域双方にとって無理のない形で、互いのプラスになるような「学校開放月間（学校開放週間）」の取組を続け、さらに学校と地域の結びつきを強めていきたい。

学社融合推進協議会発足1年目だが大きな混乱はなくスタートできた。これは、昨年度から校長が中心となって案を練り話し合いを通して準備をしてきたからであるが、加えて、本校では創立当時から「地域全体で子供の健やかな成長を担う環境づくり」を目的として『咲楽小学校地域連携推進会議』があった。これが基盤となっている事は言うまでもない。

細やかに組織を整えたおかげで、これまで以上に責任感が芽生え様々な新たな活動へとつながっている。「無理をしないのでできることからぼちぼちとやりましょう。」と肩肘張らずに始めたことが現在功を奏しているように思う。

次年度に向けては、まずは1年間の活動の振り返りを充分に行うことである。そこから新たな方向性を見出していこうと考えている。

学校・園名	田辺市立中辺路小学校	公民館名	中辺路公民館
学社融合における学校・地域の様子 地域の方々や保護者に見守られ子供たちは明るくのびのびした学校生活を送っています。地域の方々に訪れていただける様々な行事を計画し、子供たちが頑張っている姿を見ていただけるようにしています。また、共に活動したり、現地に出むいて指導していただいたりする中で、ふれあいや協働の機会を持てるように努めています。町内会・公民館・社会福祉協議会・女性会等の関係機関にも協力いただきながら取組を進めています。			
目 標	学校・園・地域 子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・困難化しており、教育改革、地方創生等の動向からも、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘される中、学校や地域が抱える課題を解決するとともに、地域を担う人材を育成するため、これまでの「学社融合の取組」を生かして、学校と地域が当事者意識をもって子供の成長を支えていく学校づくりを進める。		
校（園）区の推進組織（組織体制図） 田辺市学社融合推進協議会規則(H30.4.1施行)に基づき設置		支援者及び支援組織	
<p>中辺路学社融合推進協議会 事務局：教頭（教務）</p> <p>学習支援部 環境・安全・行事部</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・公民館 ・町内会 ・老人会 ・社会福祉協議会 ・JA女性会 	
取組(活動内容・ねらい・日時等) ○収穫祭までの取組			
<ul style="list-style-type: none"> ・4月26日 下芝老人会の方々にサツマイモの苗の植え方を教えていただき、一緒に植える。 ・随 時 縦割り班ごとに水やり、草引きを行う。 ・10月9日 下芝老人会の方々と一緒にサツマイモ掘りをする。班ごとに一番重いお芋を選び、重さ比べをする。 ・11月7日 収穫祭（焼き芋・グラウンドゴルフ大会・チューリップ球根植え） <ul style="list-style-type: none"> ・焼き芋…6年生が洗って切った芋を、全校児童でキッチンペーパーとアルミホイルで包む。昼から火を入れて6年生が火の番をする。焼きあがった芋は来ていただいた老人会の方々やお世話になっている地域の方々に配布し食べていただく。 ・グラウンドゴルフ大会 中辺路社会福祉協議会の協力を得て、老人会の方々と4・5年生でグラウンドゴルフを行い交流する。 ・チューリップの球根植え 1～3年生は、プランターにチューリップの球根を植える。学社融合推進協議会の委員の方々にも参加していただき一緒に活動する。 			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々とともに活動する中で、教室だけでは教えられないことを学ばせることができ、地域の方々との信頼関係づくりにもつながった。 ・子供たちが、地域の方々と触れ合い交流することで、コミュニケーション能力の高場につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と交流したり、体験をしたりすることには大きな意義があるが、限られた時間の中で学力につながる学社融合を進めるための手立てや内容の精選も考えていく必要がある。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々から学ぶことにより、地域で働く人々の苦労や努力を知るとともに、収穫の喜びも体験することができた。 ・活動を通して、地域の方々と交流することができた。また、場に応じた言葉遣いやマナーについて考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が課題を持ち、主体的に学習できるようにしていく。 ・学校で取り組んだことや交流したことを地域や将来に生かしていけるようにする。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流の場を持つことができ、地域の方々の教えにより、自分たちの住んでいる地域の良さを再確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校外での地域の方々との交流が少なくなっている。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に協力することで、学校の取組を理解し、心豊かな子供たちの育成に関わることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の支援者の高齢化により、今後の様々な事業を継続させるためにも新たな支援者の発掘が必要である。

評価及び次年度に向けての取組の方向

・年間を通して「ふるさと学習」を計画し、農作業体験から収穫、現地学習、体育祭、ふるさと（熊野古道）遠足、学習発表会、福祉学習、家庭科の調理実習、ミシンへの支援など様々な形で地域の方々に関わってもらうことができ、地域の方々の故郷に対する思いや自分たちに込められた期待に気づかせることができた。

・サツマイモの苗植えから収穫祭に至るまでの取組では、地域の方々の農作業に関する知恵や働くことの大切さについても教わることができた。

・チューリップの球根植えには、学社融合推進協議会の委員の方々にも参加していただき、子供たちの様子も見ていただけて良かった。

・今後、地域の方々に教えていただいたことや各活動の様子を子供たちの手で地域に発信していけるような取組に発展できればよいのではないかと。



学社融合推進協議会活動報告

協議会名：近野地域学社融合推進協議会

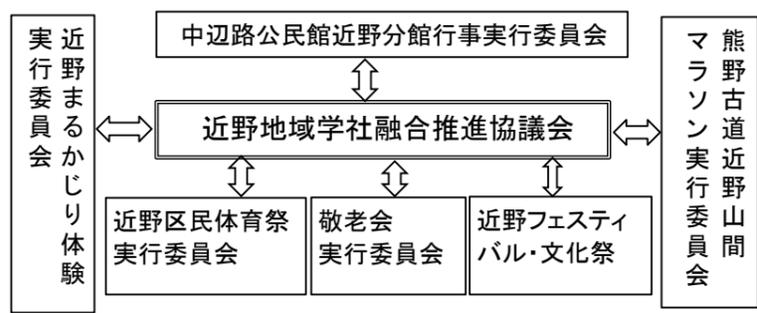
学校・園名	田辺市立近野小学校	公民館名	中辺路公民館近野分館
-------	-----------	------	------------

学社融合における学校・地域の様子

近野地域は、歴史遺跡や伝統文化、自然環境に恵まれており、また地域社会の学校教育への協力体制も手厚い。
 本校では、学社融合を通して地域の豊かな文化・伝統・自然に学び、郷土への誇りと愛情をもつ子供を育てることをねらい、取組を進めている。基盤の一つである「実行委員会」は、公民館、地域の諸団体、保育園、小中学校の代表者で構成されており、諸行事（近野区民体育祭、近野まるかじり体験、近野フェスティバル・文化祭、近野山間マラソン等）の運営の柱となっている。また、学校行事やクラブ活動、各教科の授業場面など、さまざまな教育活動において、地域の方々が積極的に参画してくださっていることが、多くの教育的効果につながっている。

目 標	学校・園・地域	学校を含めた地域の教育・文化の振興、児童生徒と地域住民の活力・健康の増進、高齢者福祉の増進等に関わる行事等を通して、教育上の諸課題解決に寄与するための取り組みを行う。 (学校) ・地域での活動を通して地域を知る。・共同作業を通して協調性を養い、共に助け合うことの大切さを学ぶとともに、地域の住民や伝統・文化を大切に、尊敬する気持ちを育てる。 ・地域の一員として地域のイベントに参加し、地域に対する感謝の気持ちを表すとともに、地域の振興に貢献することで達成感を味わわせ、郷土愛を培う。 (地域) ・児童生徒と地域住民との交流を通して、児童生徒・保護者・地域住民の相互理解を深める。 ・学校と保護者、地域の連携を密にして児童生徒の健全育成を図る。
--------	---------	---

校(園)区の推進組織(組織体制図)



支援者及び支援組織

- ・森氏・前氏・岡上氏
- ・九乗氏・岡上氏・大野氏
- ・尾中氏・久保氏・伊藤氏
- ・大野氏・田中氏・古久保氏
- ・小門氏・中村氏・柳川氏
- ・中辺路公民館近野分館行事実行委員会
- ・近野まるかじり体験実行委員会
- ・J A女性会・近野振興会
- ・森林組合・獅子舞団
- ・熊野百間溪谷自然学校
- ・奥ジャパン 等

取組(活動内容・ねらい・時期等)

近野の宝『野中の獅子舞を伝える』全学年(4月～11月)

県指定無形文化財『野中の獅子舞』の歴史やお囃子等を地域の獅子舞団の方々から学んだ。この活動は、今年度で10年目となっている。地域の方から学ぶ中で、伝統文化を大切に継承していかうとする態度を養うこと、地域行事に参加し感謝の気持ちを表すとともに地域の振興に貢献することで達成感を味わわせること、ひいては郷土愛の醸成につなげることをねらいとして取り組んでいる。
 この取組の中で、高学年の子供たちが自主的に「地域の先輩」として下学年の子供たちを教え始めた。地域の方と同じように優しく、そして継承への熱意をもって伝えようとしている。



獅子舞団の方から地域の伝統文化を受け継ぐ。
 地域の方から学んだことを、高学年の子供たちが日常的に下学年の子供たちに伝える。

地域の特徴『中辺路の林業』5・6年生(10月・11月)

地域の林業の歴史によって森や熊野古道が保たれてきたこと地域では無花粉杉植林の推奨など新たな課題に対応していること等を学んだ。また、森林が山崩れ防止等の防災の基盤となっていることも学んだ。



地域の林業について一人一人が学習課題を持って探究的に学ぶ。
 近野の山に入り、共同作業で下草刈りを行う。

近野たんけん『木ってなあに』1・2年生(10月)

様々な木に実際にふれながら木工をおこなった。木にも様々な種類があること、私達にとってなくてはならないものであることなどを活動を通して学んだ。



木工教室で、木と人のぬくもりにふれながら学ぶ。

	成 果	課 題
学校・園	・地域の方々とふれあいながら学ぶことにより、子供たちの学習への関心・意欲が高まり、自分たちの地域についてより深く考えようとする意欲の高まりがみられた。 ・取組の中で、地域の特徴を再発見するとともに、自分たちの暮らしが地域の人々の努力や工夫によって支えられていることに気付き、地域への愛着をより高める機会となった。	・新学習指導要領全面実施に向け、小学校と中学校の学習活動とを相互に関連付け、連続的・発展的に展開できるように、年間指導計画等を作成する。
*子供にとって	・地域の方から教わることで、敬愛の念や感謝の思いが育まれている。同時に地域を誇りに思う気持ちが醸成され、主体的に近野の伝統や文化を継承し発信しようとする行動できるようになっている。	・地域の一員として地域の人々の願いを知り、主体的にその具現化に向けて取り組むための学習を今後も展開していく。
*子供にとって	・郷土の特徴を地域の方々とふれあいながら学ぶことによって、地域の方々への尊敬と感謝の気持ちが高まるとともに、地域社会に参画しようとする意識も高まった。	・学社融合の取組を通して、地域への思いを深めるとともに地域の一員としての意識を高め、近野のよさをさらに見出してほしい。
地域(保護者)	・地域の歴史や文化、自然等に関わる学習を継続することによって、ふるさと近野を誇りに思う気持ちや郷土愛が育まれている。 ・地域と学校が一体となった様々な取組が、世代を超えた心の交流、ひいては地域の活性化にもつながっている。	・以前より、本地域においても人口減少や高齢化の状況がみられる。今後とも学社融合の取組が継続、発展していけるよう、今あるつながりや組織の継承を大切にしたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

【評価】
 ・本地域の学社融合の取組は、今回の報告の他にも多岐にわたる。地域の方々には、それぞれの専門性や知識、経験を熱意をもって伝えてくださっている。地域の方々とのふれあいながら学ぶことにより、学習への関心・意欲が高まり、自分たちの地域についてより深く考えたり、下学年に積極的に継承したりすることができている。また、取組の中で、地域の特徴を再発見するとともに、自分たちの暮らしが地域の人々によって支えられていることに気付き、地域への愛着をより高める機会となった。



地域の行事において獅子舞とお囃子を披露した。地域の獅子舞団とのコラボレーションの場もあり、地域内外の方々から大きな拍手をいただいた。

・一人では難しかったことも地域の方から学んだり、友達と力を合わせたりすることで成し遂げられるということを実感できる機会となった。子供たちは一連の活動を通して共に助け合うことの大切さや地域社会に関わる喜びを実感できたと考える。

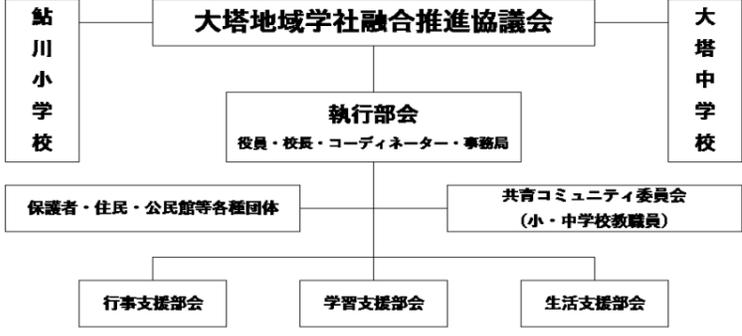
【次年度に向けての取組の方向】
 ・小中学校で連携しながら、地域の方々の専門性を活かす場を学校教育活動の中に今後も組み込み、子供たちの教育の充実を図るとともに、地域にも貢献できる学校となるよう取組を進めていく。
 ・地域の人々の願いを知り、その具現化に向けて主体的に取り組むために、課題意識をもち、他者と協働して主体的に取り組む学習活動を展開していく。



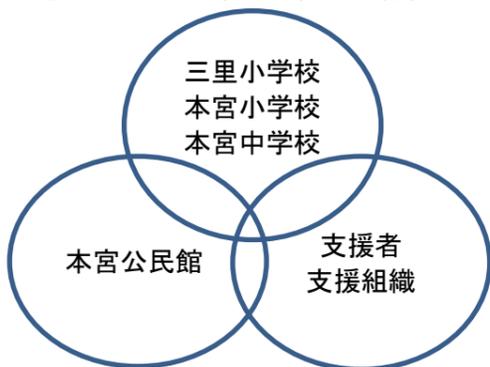
学んだことを友達とまとめ、近野フェスティバル・文化祭において発表した。



近野の山に入り、協力して植樹をおこなった。

学校・園名	田辺市立鮎川小学校	公民館名	大塔公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>旧大塔村時代より、地域連携教育や小中一貫教育を推進してきた背景もあり、保護者及び地域住民は学校教育に協力的であり、PTA活動や学校行事への参加は積極的である。しかし一方では、共働きや一人親家庭の増加に伴い、平日行われる参観日等の出席率は低い傾向にある。また、昼間はほとんどの成人が旧田辺市など近郊に働きに出るため、大きな災害が発生した時など、地域で活動できる人材が特に不足することも想定できる。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大塔地域において、学校と家庭と地域が連携・協働し、子供たちの成長を支える学校づくりを進める。 ○鮎川小学校と大塔中学校の9年間を見通した学校運営を行う。 ○今まで培ってきた「大塔地域共育コミュニティ」の力を活用し、学校や地域の抱える課題を解決するとともに、これからの大塔地域を担う人材を育成する。 ○学校・家庭・地域それぞれが成長することを目指す。 		
<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p> 		<p>支援者及び支援組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大塔公民館、各分館 ○田辺市自治会連絡協議会大塔支部 ○大塔女性会 ○大塔老人クラブ ○社会教育委員会 ○子供クラブ ○放課後ふれあいスクール ○民生児童委員 ○田辺市保護司会大塔支部 ○社会福祉協議会 ○田辺市消防署大塔分署 ○青少年健全育成市民会議 ○大塔地区協議会 	
<p>取組（活動内容・ねらい・日時等）</p> <p>行事支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学5年生～中学1年生が対象の「選択交流学习」でGTとして地域人材の活用。6月13日、10月10日に実施。 ・地域イベントでの子供たちの活躍の場づくり（大塔地球元気村への参画）。 ・運動会、体育祭で実施する大塔音頭の振り付けを地域の方より教師が指導を受け、児童へ伝達講習した。 ・小中合同での清掃作業「大塔リフレッシュ大作戦」（11月7日）への区長を中心に地域の方の協力。 ・地域の方々への学校行事（運動会、学習発表会、公開授業等）への参加啓発。 <p>生活支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校指導の拡大 宇立地区での取組が他の地区へも広がった。 ・緊急時、委員がぐるりんメールで情報を受け取り、下校指導などの見守り活動を行う。 ・家庭のしつけ 子供たちの見本となるよう大人もあいさつ。 ・防災教育では、ふれあいスクール、防災出前授業で災害発生時等を想定した学習ができた。 ・防犯カメラ設置の検討。 <p>学習支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の運営に図書ボランティアを組織し、その活動を進める。 ・家庭学習の手引きを活用し、小中で家庭学習の充実を図り学力向上を図る。 ・学校の要望に応じた地域の人材や教育資源の紹介をもらい、授業への協力、参観等を進めた。 			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間の縦のつながりを考えながら連携することができた。選択交流学习・リフレッシュ大作戦では、中学生をリーダーと意識して活動し、小・中学校、大塔CS、地域と連携して取り組むことができた。また、消防署と連携した防災訓練の実施により、災害時の対応について体験的に学ぶとともに、社会福祉協議会の協力による、点字・手話の体験学習を通して障がい者への理解と思いやりの態度を養う機会を設けられた。大塔地球元気村では「緑の少年団」活動やリフレッシュ大作戦の様子を児童会役員が代表して発表し、地域の一員としての役割を担った。さらに、大塔音頭講習会、伝達会を通して、伝統である大塔音頭の正しい踊り方を学び、図書ボランティアさんのサポートにより、図書の整理が進むとともに、大塔CSを中心とした朝のあいさつ運動により、児童生徒の安全が確保されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択交流学习では、児童生徒の減少に伴う講座数の検討が必要である。 ・リフレッシュ大作戦では、児童生徒の減少による清掃地域の検討が必要である。 ・ふるさと大塔を誇りに思っている児童は多いが、地域の担い手を育てるために、改めてふるさとを見つめ直し、考える「ふるさと学習」等の取組も必要である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・これらの活動は、ふるさとの文化や伝統を地域の中で体験する貴重な機会となっている。地域への関心や地域をよりよくしようという思いが高まり、ふるさとの良さを守り続けたいという思いを育むことができた。 ・地域の方々や自分たちへの期待、願いについて知ることができ、地域の担い手としての自覚が芽生えた。 ・大塔に住む子供としての自覚を持ち、役割を担うことができた。また、それにより、充実感や達成感を味わえる児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を離れても、地域の行事に参加したり、自分たちから何か地域に発言したり、積極的に地域に参画していける児童の育成が課題である。また、地域の担い手としての自覚を持った児童が、将来も大塔で暮らしたいと願ったとき、それが実現できる条件が整備されていることが望まれる。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との交流が深まっている。 ・地域の歴史、伝統文化や偉人の生き方などを学ぶことで、ふるさとへの愛着が湧き、関心を持つようになってきている。 ・地域に知り合いの大人が増えてきて、日常的な交流にもつながってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域の方とのつながりを大切に、ふるさとを大切にすることを育んでいってほしい。 ・今回、授業で学習した内容以外の地域資源にも興味を持ち、広く目を向けていってほしい。 ・大塔地域における小学校は鮎川小学校だけとなったが、三川や富里にも興味や関心を持ってもらいたい。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・学校へ顔を出す機会が増えていることから、子供たちとの距離も近くなっている。 ・授業への協力を通して、住民自身も地域の新たな魅力に気付いたり、地域について学び直す良い機会となっている。 ・ふれあいスクールをはじめとする様々な活動を通じて、子供たちだけではなく地域住民同士の交流もあり、相互の安心や信頼が培われている。 ・学校図書館におけるボランティア活動の推進によって、地域住民が中心となり、子供たちが安心できる校内の居場所づくりを進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も活動を継続していくための人材（協力者）の確保、育成が課題である。 ・地域行事等を通して、子供たちが地域の方と学んだ学習内容を多くの住民に広報していきたい。 ・鮎川小学校と富里小学校の統合により、鮎川小学校の校区が大塔地域全域となったので、学校と連携し、三川地区や富里地区にも目を向け、両地区との交流を深めていきたい。
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向</p> <p>〔評価〕</p> <p>それぞれの活動において、これまでの学社融合の取組の良さを引き継ぎつつ、改善に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択交流学习では、地域の方を指導者として、中学1年生が小学7年生として年間2回（6・10月）実施することができ、自己評価、地域の方からの評価ともに高まった。 ・リフレッシュ大作戦は、これからもふるさとの良さを守り続けたいという思いを持って実施することができた。このような取組により、地域の方々にも、小中学生の様子を知ってもらうまたない機会となった。 ・地域イベント「大塔地球元気村」では、小学6年生が「川と自然について考えるフォーラム」に参加し、本校の取組（緑の少年団活動やリフレッシュ大作戦等）について意見発表を行った。今回、参観者からの反応や評価、激励により、改めて環境美化活動に関わるこのやりがいを実感することができた。 ・防災学習では、『防災の手引き』、ふれあいスクール、防災出前授業等で災害発生時の対応、防災行動力について学び、小学生として何をすることが大切かを考えることができた。 <p>〔来年度に向けて〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大塔地域学社融合推進協議会の取組を引き続き進めながら、日常の学校生活、教科学習、図書館運営等への地域人材の活用、または小中一貫した9年間のカリキュラムづくりに取り組む等、学校課題の解決に生かせるよう研究していきたい。 		

学校・園名	田辺市立三里小学校	公民館名	本宮公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>共育コミュニティといわれる以前から、本宮地域では地域人材交流を各校において実施し定着していた。平成23年から「音無の里共育コミュニティ事業」として地域を生かした「学社融合」の取組を行っており、現在も継続している。</p>			
目 標	学校・園・地域	<p>平成30年度に本宮ブロック学社融合推進協議会が発足されたことにより、これまで本宮独自で発生した取り組みである主な3項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き続いていく。</p> <p>また、本宮独自で取り組んできた学校支援本部事業の郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの取り組みを再度見つめなおし、新たに選任された協議会の委員さんからの意見をいただきながら磨きをかけていく。</p>	
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	<p>支援者及び支援組織</p> <p>育友会 熊野本宮語り部の会 本宮プロバスクラブ 田辺市女性会連絡協議会本宮支部 本宮町自治会連絡協議会 本宮町林業研究グループ</p>	
			
<p>取組（活動内容・ねらい・日時等）</p> <p>今年度から本宮地域学社融合推進協議会が発足したことから、これまでの取組や今後の方針をコミュニティ通信創刊号を編集し町内に全戸配布を行った。</p> <p>また、積極的な学校開放を広く発信し通常の授業参観、外部支援の入った活動を公開することにより子供たちの姿を見守る活動を推進することにした。そのため、11月の学校開放月間に併せて各学校の行事予定を協議会役員に送付するなどして、開かれた学校と地域の連携づくりを図るべく活動を行った。</p> <p>熊野古道道普請 世界遺産熊野古道の景観保全を図るべく、本宮中学校、熊野本宮語り部の会、世界遺産センター、本宮プロバスクラブ、田辺市が協力して実施。毎年12月の恒例行事として実施している。</p> <p>熊野古道ジュニア語り部 世界遺産熊野古道を三里小学生と本宮小学校の児童が熊野本宮語り部の会の協力を得て地元の名所を学習し、語り部として各所の説明をはじめ、歩行の安全を確認しながら古道を紹介。本宮中学校は、小学校の語り部ルートの英語版を習得し引き継いでいる。町外からの学校交流の場で年数回活動しており、8月2日には「黄金平泉情報発信プロジェクト」でも小学生が語り部として活躍している。</p> <p>郷土芸能伝承 伝統芸能を継承するため小学生を対象とした教室を毎週土曜日に開催。平成30年度は8月13日に開催された「新成人を祝う会」において先輩方に「平治川の長刀踊り」を披露。また3月7日に開催予定の「女性会福祉祭」においても披露を予定している。</p>			

	成 果	課 題
学校・園	<p><ありがとう大作戦(地域の老人会との花植え)></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の老人会の方々と交流することで、地域の方が学校を思う気持ちを感じ取ることができた。 今まで見守り続けてくれた救地区(学校近辺の地区)の方々と今年学習でお世話になった地域の方々に、花のプレゼントを贈り、感謝の思いを伝えることができた。 この活動を通して、ふるさとに親しみを持ち、豊かな心情を育む機会となった 	<ul style="list-style-type: none"> 本宮町社会福祉協議会の協力により、プランターや花の苗等の準備をしていただいた。また子供たちは、花の植え方をNPO法人の花つぼみ会：古守理事長に教えていただきながら行うことで、スムーズに取り組むことができた。次年度に取り組む場合は、さらに子供たちの主体的な活動となるよう企画し、計画の段階から子供たちに関わりのある取組としたい。 コミュニケーション能力を高めて、地域の方との関わりをさらに深めていきたい。
* 子供にとって	<p><読み聞かせ会></p> <ul style="list-style-type: none"> 読書は、次の5つの取組を大切に指導している。①朝の読書活動②各教科での指導③各学級での読書奨励④読書好きが増える図書室の運営⑤読み聞かせ会。中でも⑤読み聞かせ会は、地域の読み聞かせグループ『練るル読み聞かせ隊』が、低・中・高学年の発達段階に合わせた内容で実施してくれ、地域の方とのつながりの中で、本に親しみ本に興味関心をもつ子供が増えた。市の移動図書(やまびこ号)来校時には、ほぼ全員が本を借りる様子が見られた。また、昼休みに図書委員会が、他の子供たちに読み聞かせを行うようになるなど、読み聞かせは子供たち自身の活動となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせによって本に親しむきっかけとなり、家庭での読書活動が深まるよう学校からの手立てを講じていきたい。 読み聞かせが、自分たちの音読活動の向上に生かせる授業づくりを考えていきたい。 図書委員会が、委員会活動として昼休みに行っている読み聞かせを、今後も継続できるよう取り組んでいきたい。
* 子供にとって	<p><熊野古道ジュニア語り部></p> <ul style="list-style-type: none"> 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の基礎知識について、「世界遺産熊野本宮館」の指導員の方に学び、自分たちの住んでいる地域が、世界に誇れる「文化的景観」としての気持ちを持つことができた。 現地学習や自主教材を使って学習を進め、語り部活動に携わることができた。 本宮町の文化的景観を守っている人々の苦労や工夫を知ることができた。 南山大学附属小学校や岩手県平泉市の子供たちに、語り部活動を行い、互いに交流することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容を精査したり、発表力や表現力を向上させていきたい。 王子跡や古道についての説明だけでなく、相手に配慮(挨拶や表現、山道での注意等に至るまで)したガイドができるよう語り部としての質を高めていきたい。 ジュニアガイドとして、子供の目線で見て考えた文化的景観を、本宮町に来てくれた人々に伝えることができるように学習する。
地域(公民館)保護者	<p><三里運動会></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域や保育園と実行委員会を組織した。種目や内容、準備や当日の役割等について打ち合わせを行うことからすすめ、当日は、天候不良による会場準備の遅れを、保護者や地域の多くの方々の協力でカバーしていただくことから始まり、みんなで運動会を成功させようとする『地域と共につくる心あたたまる運動会』を開催することができた。また、新校舎建築に伴い、この校舎での運動会は最後ということもあり、『この場所での思い出』を大切にしようとする姿が、児童や保護者、地域の方々からうかがわれた。参加者全員による記念写真の撮影も行い、この場所での最後の運動会を思い出深いものにすることができた。この思い出は、子供たちの次へのエネルギーとなるものであると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も今までのような種目や内容で取り組むのであれば、1学期から計画的に練習を行う必要があるものもある。 円滑な運営を目指す上で、職員数が少ないことは大きな課題となる。 来年度は、新校舎(新たな場所)での開催ということで、実行委員会の編成と打合せを綿密に行う必要がある。
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> 三里小学校での学社融合の取組は多岐にわたっているため、毎回紹介はその一部になっている。来年度は、学校行事の精選に加え新しい教科が増えるため、本校の教育課程を十分練り直し、子供たちにとってよりよい学社融合の取組をめざしていきたい。また、地域を活性化するための力にもなるよう育友会活動や公民館活動の充実を図れるよう連携を深めていきたい。 		
<p><読み聞かせ会> <熊野古道ジュニア語り部> <クラブ活動> ～ペーパークラフトかごづくり～ ～デザートづくり～</p>		
		
<p><ありがとう大作戦(地域の老人会との花植え)></p>		<p><漁協組合の方との鮎のつかみどり体験></p>
		
		

学校・園名	田辺市立本宮小学校	公民館名	本宮公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>共育コミュニティといわれる以前から、本宮地域では地域人材交流を各校において実施し定着していた。平成23年から「音無の里共育コミュニティ事業」として地域を生かした「学社融合」の取組を行っており、現在も継続している。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <p>平成30年度に本宮地域学社融合推進協議会が発足したことにより、これまで本宮独自で発生した取組である主な3項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き続いていく。 また、本宮独自で取り組んできた学校支援本部事業の郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの取組を再度見つめなおし、新たに選任された協議会の委員さんからの意見をいただきながら磨きをかけていく。</p>		
<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p>		<p>支援者及び支援組織</p> <p>育友会 熊野本宮語り部の会 本宮プロバスクラブ 田辺市女性会連絡協議会本宮支部 本宮町自治会連絡協議会 本宮町林業研究グループ</p>	
<p>取組（活動内容・ねらい・日時等）</p> <p>今年度から本宮地域学社融合推進協議会が発足したことから、これまでの取組や今後の方針をコミュニティ通信創刊号を編集し町内に全戸配布を行った。 また、積極的な学校開放を広く発信し通常の授業参観、外部支援の入った活動を公開することにより子供たちの姿を見守る活動を推進することにした。そのため、11月の学校開放月間に併せて各学校の行事予定を協議会役員に送付するなどして、開かれた学校と地域の連携づくりを図るべく活動を行った。</p> <p>熊野古道道普請 世界遺産熊野古道の景観保全を図るべく、本宮中学校、熊野本宮語り部の会、世界遺産センター、本宮プロバスクラブ、田辺市が協力して実施。毎年12月の恒例行事として実施している。</p> <p>熊野古道ジュニア語り部 世界遺産熊野古道を三里小学生と本宮小学校の児童が熊野本宮語り部の会の協力を得て地元の名所を学習し、語り部として各所の説明をはじめ、歩行の安全を確認しながら古道を紹介。本宮中学校は、小学校の語り部ルート英語版を習得し引き継いでいる。町外からの学校交流の場で年数回活動しており、8月2日には「黄金平泉情報発信プロジェクト」でも小学生が語り部として活躍している。</p> <p>郷土芸能伝承 伝統芸能を継承するため小学生を対象とした教室を毎週土曜日に開催。平成30年度は8月13日に開催された「新成人を祝う会」において先輩方に「平治川の長刀踊り」を披露。また3月7日に開催予定の「女性会福祉祭」においても披露を予定している。</p>			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 歴史や文化、自然豊かな本宮町について各学年の活動を通して理解を深め、地域に対してどのように貢献できるのかを発達段階に応じて考えさせることができた。 保護者、地域の方々で専門性をもった学習パートナーが学習に参画していただいたことで、学習効率が上がり、興味・関心を持ちながら、主体的な学びにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業でのよりよい支援方法のために、学習パートナーとの打ち合わせには、授業内容、時間設定について細かく打ち合わせる必要がある。 本校の特色をさらに生かすために学社融合推進協議会の協力を得ながら、新たな人的資源の開発の必要がある。 学習パートナーの高齢化により新たな人材確保が必要となってきている。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> 熊野本宮伝統芸能子ども教室の先生方に平治川の長刀踊りを習い、運動会で披露することができた。 伝統芸能に興味を持つことができた。 関係機関の協力のもと、紙すき体験や工場、牧場見学をさせてもらい、本宮町の産業について理解し、意欲的に学ぶことができた。 キャンプでのもらい風呂を通して、地域の方の優しさを感じ、礼儀やマナーを身につける機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに、地域の文化的・歴史的資源や人的資源を発掘、活用して、郷土愛や郷土に誇りをもち、郷土に貢献する人材の育成を目指す。 どんな場においても、自分の考えや思いを生き生きと表現できるよう機会を増やし、表現力を伸ばしていく。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々との交流する機会を多く取り入れることで、コミュニケーション能力を高め、人との接し方が身についた。 地域の方々に支えられていることを実感し、感謝の気持ちをもつことができた。 地域の方々が学校に来ていただけのことで今まで以上に挨拶を進んでするようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事や活動にも意欲的に参加することで、それぞれの地域の一員として活動に参加するよう期待している。
地域・保護者（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育に参画することで、学校が身近な存在に感じられるようになってきた。 学校の教育活動に参画することでサークル活動等で取得した知識や経験を生かせる場となり、指導する喜びや生きがいを感じられる機会の一つとなった。 子供たちと接することにより、子供たちから元気をもらい、子供たちの成長を温かく見守ろうという意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育に参画していただける方の発掘と今までに参画していただいた方々を人材バンクとして取りまとめ、充実させていく。 学習パートナーの高齢化に伴い、新たな人材を探す必要がある。そのために、地域住民に学校教育に参画していただけるよう啓発活動を工夫していく。
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向</p> <p><u>評価</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校、保護者、地域が学教教育目標のもと、一体となって子供を育てていこうという意識が高まってきている。 学校開放月間の一環である日曜参観（授業、クラブ、読み聞かせ）では、地域の方々が学校教育に参画していただいていることを保護者にも参観・参加してもらい、学校の取組を知っていただく良い機会となった。 子供たちは、たくさんの地域の方々に関わることで、学びの楽しさや地域の方々の優しさに触れることができた。 お世話になった学習パートナーの方々を招待した焼き芋パーティーは、学習パートナーの方々に大変喜んでいただくことができ、学校教育活動への参画意欲にもつながった。 <p><u>次年度に向けての取組の方向</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 学社融合推進協議会とともに学校教育の充実に向けて、学校運営に参画できるような環境を整えていく。 今年度の学社融合に関する取組について、検証し修正を重ね、子供たちの深い学びにつなげていく。 		

学校・園名		田辺市立東陽中学校		公民館名		東部公民館・中部公民館・南部公民館・ひがし公民館	
学社融合における学校・地域の様子 公民館施設を併設した中学校として、公民館と学校が連携を深め、地域の教育力を生かした様々な取組を実施している。「東融会」（東部・中部・南部・ひがしの各公民館主事と連携を図り、東陽中学校区の学社融合を推進するための会）を通じて管内公民館と情報を交換し、共有している。地域の方々も公民館の働きかけに協力的で、東部・南部公民館を通して学校支援サポーターを募集し、学校の教育活動に協力をいただく等、本校生徒の健全育成に尽力していただける体制ができています。防災学習や避難訓練なども地域の方々と一緒に進めて行っています。公民館の掲示板にはそうした学社融合行事の様子や教科の作品等を掲示し、公民館を訪れる地域の方々にも紹介している。また、地域にある田辺第一、田辺第二、田辺東部各小学校との連携を深めた学社融合の取組も推進してきた。今年度より発足した学社融合推進協議会では、現在の東陽の地域の実情に合った取組の方向を探りながら議論を進めている。							
目 標	学校・園・地域	・公民館施設を併設した学校として、地域の教育力を生かした学校支援サポーター等を活用した学社融合の取組を推進する。 ・校区の小学校と連携を深め、児童と生徒が交流できる企画を進める。 ・学校と地域が、共に取り組み、学び合う機会を増やし、「社会に開かれた教育課程」を推進する。 ・幅広く地域の方に呼びかけ、学社融合活動に携わっていただく。 ・生徒たちと共に、当地域の課題である「防災」について学んだり、活動したりする機会を持つ。					
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織 ○人材バンク（学校支援サポーター） ・図書・バラ園整備 ・調理実習 ・写真教室 ・各種授業講師					
取組（活動内容・ねらい・日時等） 【バラ園整備ボランティア活動】 例年1年生で行っていた春のバラ園整備作業を、今年度は全校からボランティアを募って行った。地域の方に教えていただきながらバラ園の草引きや剪定作業をした。							
【バラと音楽にあふれるひととき】 ソプラノ歌手の楠本未来さんとエレクトーン奏者の森松慶子さんを迎えて、公民館で演奏会を行った。合唱部も参加し共演するなど、美しい歌声を響かせた。昨年以上の観客で会場が溢れ、大変喜んでいただいた。							
【調理実習】 今年も湊浦漁協女性部の方々に教えていただきながら、2年生が「東陽バーガー」作りに挑戦した。魚の捌き方や、地産地消を意識したレシピなど、生徒にも大変好評であった。							
【合同演奏会】 3年前から合唱部と吹奏楽部が合同でコンサートを開催し、地域の多くの方々に楽しんでいただいている。また近隣の小学校の合唱部をゲストとして招待し（今年度は会津小学校）、小中の交流を図っている。							
【防災学習】 昨年度の取組を引き継ぎ、生徒と地域の方々と共に防災について考えるクロスロード授業を行った。今後も継続して取組を実施していただけるよう授業は教師と公民館主事が共同で行うことにした。生徒たちも地域の大人の方と共に考える良い機会になり、好評であった。							

	成 果	課 題
学校・園	昨年度までの活動を継承、発展させる形で様々な取組を行えたこと、また、生徒たちの中に自発的なボランティアに対する意識が芽生えてきていることが、今年度の大きな成果である、と考えている。	今後は生徒からの積極的なボランティア活動への取組を、日常的な状態として定着させることができるか、そして、地域と一体となった防災学習についても、単発的な取組でなく、今後も継続してやっていけるような形にうまくシフトしていけるか、ということが課題であると考えている。
* 子供にとって	地域の方々のサポートによって、よりよい環境の中で、力をつけることができている。また、自発的に地域の方々と共に取り組んだ経験は、「自分も地域の役に立っている」という有用感につながり、今後に生きていこうと考えている。	もっと気軽な形でボランティア活動に参加できるような受け入れ体制を校内に作れるか、そして、地域と関わる取り組みが、主体的かつ日常的なものであるような状態を生徒の中に醸成することができるか、ということが今後の課題である。
* 子供にとって	世代の違う地域の異年齢の方々とのふれ合うことは、生徒たちにとってよい経験となっている。	さらに生徒の主体性を高めるために、今後どのように中学生が地域の取組に参画し、積極的に関わっていくかが課題である。
地域（保護者）	各種事業を通じて、地域の方々や生徒による世代を越えた交流ができている。昨年度から実施している防災学習では、生徒と地域の方々、一つの課題について共に考えることで、相互の意見の違いも知り、お互いに考えを深め合うことができた。	防災学習については、単年度の授業で終わりではなく、当地域における防災力の向上につながる第一歩として捉え、今後も継続していかなければならない。

評価及び次年度に向けての取組の方向
 昨年度までの研究指定を終えた今年度は、研究の成果や積み上げを生かしつつ、今後の継続的な取組の方向性を見据えていく一年目となった。地域の方々による学校への支援は手厚く、学校に対する期待も高い。学校支援サポーターやゲストティーチャー、各種機関、地域の方々から有形無形に受けている支援は、生徒にとって大きな教育力となっている。また、生徒が地域に出て行う活動（音楽演奏、ソーラン披露、各種教室や行事への手伝い等々）が、地域に好評をもって迎え入れられている。こうした良好な地域との関係を保ちつつ、さらに一歩進んだ融合の形を探るために、今年度はいくつかの取組で生徒からのボランティアを募る、という形をとってみた。幸いなことに、そうしたボランティアの応募に応じてくれる生徒も出てきており、今年度は行事を行うことができたが、まだまだそうした動きや生徒の認識が全校的なものになっていないという課題もある。今後は、生徒が地域に貢献し、逆に地域からいろいろなものを学び、共に高め合う、ということが、特に構えずとも日常的にできる、そういった学社融合の形を普遍化できるよう、取組を進めていきたいと考えている。



バラ園整備ボランティア活動



バラと音楽にあふれるひととき



防災学習

学校・園名		田辺市立明洋中学校	公民館名	中部・西部・芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>◎本校での学社融合の取組は、公民館主事と学社融合推進教員で組織する明融会を中心に進めており、大きく分けて2パターンある。1つは、学校に講師等を招いて行う授業や活動、もう1つは、地域に本校の生徒が出向いて行う活動である。</p> <p>1) 地域から講師を招いて授業や活動(生け花教室・郷土料理授業・浴衣着付け教室・茶道教室・紀州てまりなど)。ここ数年は夏休み中に地域の方々の協力のもと補習授業なども行っている。</p> <p>2) 地域に出向いての活動(吹奏楽部の芳養潮騒祭り演奏会(4月)こいのぼりの会演奏会(5月)保育所演奏会(8月)益穂町内会演奏会(11月)定期演奏会[プロムナードコンサート](11月)など)。他にも、天神児童館が主催する道普請に、野球部・ソフト部・剣道部が参加したり、花植えボランティアにテニス部・吹奏楽部が参加したりと、地域の行事にクラブ単位で積極的に参加している。今年度は、今までの取組に加え芳養小学校の参観授業に合わせて吹奏楽部が演奏会を行ったり、西部公民館主催の西部ふれあい祭りに体操競技部が演技会を行ったりと積極的に地域とのかかわりを持った。また、授業に関しても1年生は地域での保育実習、2年生では、地域の事業所での職場体験など、様々な機会をとらえ地域に出向いての取組を行っている。</p>				
目	学校	◎地域の方々との交流を深めることにより、自分たちも地域の一員であるということを実感し、故郷を愛する気持ちを育成する。 ◎地域での活動を通して、多くの方々に関わることによりコミュニケーション能力を育成する。 ◎地域での発表の場を設け、地域に貢献する態度を育てる。		
	地域	◎地域住民との関わりを通して、子供たちのコミュニケーション能力の向上と、伝統文化や技術の取得を図る。 ◎学校授業への適切な地域人材の提供により、子供たちの愛郷心を育みながら、健全な育成を目指す。 ◎子供たちとの関わりの中で、地域住民に学校の取組を知ってもらい、子供たちに対する意識のさらなる向上を目指す。		
校(園)区の推進組織(組織体制図)		支援者及び支援組織		
		芳養地域人材バンク登録者及び各地域の方々 公民館		
取組(活動内容・ねらい・日時等)				
明融会(学社融合推進教員と公民館主事の会議)				
第一回 4月18日(水) 内容: 本年度のテーマ・今後の予定について 第二回 6月26日(火) 内容: 学校訪問について・今後の予定について 第三回 10月11日(木) 内容: 生涯学習フェスティバル・今後の予定について 第四回 12月26日(水) 内容: 学校・各公民館の取組みと今後の予定について 第五回 3月13日(水) 内容: 本年度の取組みの総括と反省				
地域から学校へ				
◎鯨の三枚おろし(芳養公民館) 芳養婦人会の6名にご協力いただき、鯨の三枚おろしの授業を行った。安全面でも大変助かっている。 ◎紀州てまり(中部公民館) 9月に紀州てまりの会の方にご協力いただき、紀州てまりを作成し、展示会に出品した。 ◎茶道教室(西部公民館) 月に一度程度、家庭科クラブが茶道のマナー等を教えてもらった。 (今年度、5回実施 1回は警報発令の為、中止) ◎生け花教室(中部公民館) 家庭科クラブが、講師先生の指導を受け生け花を活けた。その生け花を文化発表会で展示 ◎道普請(西部公民館) 2月2日(土) 野球部・剣道部 参加予定				
学校から地域へ				
◎プロムナードコンサート 吹奏楽部が定期演奏会を開き、600名以上の方に来場していただいた。多くの地域の方々が聴いてくれ、好評を得た。 ◎保育所との交流 家庭科の授業で1年生が、地域の保育所に行き、園児たちと交流を図った。 お兄さん・お姉さんたちとの交流を園児たちは喜んでいた。 ◎地域の作品展 美術作品や手芸作品を、公民館主催の作品展に出品した。 ◎職場体験 2年生(約100名)が3日間、地域の事業所(39か所)に2、3人ずつに分かれ、職場体験を行った。大変充実した取組になった。				

	成 果	課 題
学校・園	◎吹奏楽部の定期コンサート(プロムナードコンサート)は、21回目を迎えた。今年度は、和歌山県吹奏楽コンクールにて金賞ゴールド・県知事賞を獲得し、関西吹奏楽コンクールに県代表として出場した。惜しくも金賞は逃したが銀賞を獲得し大変高い評価をいただいた。また、第24回日本管楽合奏コンテスト中学校A部門にて優秀賞を受賞するなど、例年になくレベルの高い演奏となり観客の心を魅了した。 ◎鯨の三枚おろしの学習では、地域の方々各班に分かれて指導してくれた。安全かつ効果的に学習が行えた。 ◎地域の保育所や幼稚園、小学校との交流は、生徒たちに「お兄さん・お姉さん」であるという自覚を持たせることが出来、生徒たちにとって良い経験になった。	◎吹奏楽部の定期コンサートは、学校にとっても地域にとっても今や一大イベントになっている。このコンサートを企画運営するのは吹奏楽部の顧問が一手に担っている現状がある。このコンサートを継続していくには、学校・地域あげてのバックアップ体制が必要であると感ずる。 ◎本校は3つの小学校から進学してくる。また、校区には3つの公民館がある。9年間の視点を持って推進する場合、3つの小学校・公民館と、どのように連携し取り組むかが学社融合を推進する上で課題である。 ◎家庭学習の定着や学力の向上を図っていくために、家庭との連携、地域との連携が必要になる。学校として地域の教育力を向上させるためにどのような取組が必要か検討しなければいけない。
*子供にとって	◎地域の保育所や幼稚園、小学校との交流は、生徒たちに「お兄さん・お姉さん」であるという自覚を持たせることが出来、生徒たちにとって良い経験になった。 ◎地域の様々な年齢・立場の方々との交流することでコミュニケーション力の育成につながっている。 ◎自分たちの日頃の取り組みを、地域の方々に見てもらい評価してもらうことで自尊心が高まっている。 ◎地域行事に参加することで、自分たちも地域の一員であるという自覚が芽生えてきている。	◎クラブ活動等での交流はたくさんできているが、通常の授業での交流があまりできていない。通常の授業は平日になるため、地域の方々との交流が難しい面もある。 ◎地域行事などに参加するクラブが限定されてしまう傾向があるので、できるだけ多くの生徒に、機会を与え、地域に貢献できることは何かないかを自ら考えさせたい。
*子供にとって	◎地域の方々から、様々な専門的な技術を学ぶ機会を得ることができた。 ◎地域の方々に来てもらうだけでなく、生徒自身が地域へ出向くことで、自分たちも地域の一員である自覚ができ、地域を大切にすることが芽生えてきている。	◎生徒が地域の方々から習得した知識や技術を日常生活に生かしていけるような取り組みを進めていきたい。 ◎学社融合の取り組みで芽生えてきている、自分が住んでいる地域に対する愛着や誇りを、大人になって持ち続けることが出来るか。また、今後、一人一人の生徒が具体的な行動として表していけるかが課題である。
地域・保護者(公民館)	◎地域からの講師と生徒との交流を通して、地域に伝わる伝統文化に親しむ機会を作ることや技術を伝えることが出来たことにより生徒たちの成長につながった。 ◎地元の郷土料理を子供たちと地域住民と一緒に作る中で子供たちに地域に関心を持たせることが出来た。 ◎地域行事の実施の際に生徒が参加してくれることにより、保護者以外の方々も地域の子供たちの成長を知ることができ、また地域の活性化につながった。	◎今後も取組を継続しながら内容の更なる充実を図ること。また、専門的な技術を伝えられる人材の確保に努め、生徒たちとの交流を続けていくこと。 ◎既存の事業の充実を図りつつ、今後も地域と子供たちの関係をより深く繋いでいかなければならない。 ◎現在の体制を維持しつつ、より一層地域と学校の繋がりを深めていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

◎本年度の取組
 本年度は、郷土料理授業や浴衣着付け教室、紀州手まり教室、生け花教室、茶道教室を行った。地域の婦人会などから多くの方々から講師として学校に来ていただき、充実した取組ができた。本年度は、西部公民館のご協力のもと西部ふれあい祭りの中で体操競技部の演技会を行った。3つの公民館と連携した取組が出来たのでよかった。

◎次年度の取組の方向
 来年度は、新しい行事や取組を取り入れるのではなく、今まで行っている郷土料理授業や長期休業中の補習授業など、今までの取組を更に充実したものになるよう取り組んでいきたい。また、積極的に地域の行事にも参加し、「地域と共に」を合言葉に取組を進めていきたい。そのために定期的に関いている明融会を大切にきめ細かな情報交換をしていきたい。



学校・園名	田辺市立高雄中学校	公民館名	秋津・万呂・稲成・ひがし・中部・南部公民館
学社融合における学校・地域の様子 家庭科、社会科、保健体育科などの授業で、また文化部などの部活動指導、総合的な学習における進路学習など、さまざまな形でゲストティーチャーを快く引き受けていただいている。さらに吹奏楽部が地域のイベントに積極的にかかわったり、2年生の職場体験では地域におもむき学習させていただいている。			
目 標	学校・園・地域	授業や部活動での地域の方とのふれあいを通じて、地域を今まで以上に深く知り専門性の高い内容に興味関心を抱くことで学習意欲を高め、自分が生まれ育った地域に誇りと愛着を持たせる。 【高雄中学校学社融合推進協議会】 高雄中学校学社融合推進協議会は、保護者及び地域住民等の（以下「保護者等」という。）の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組むものとする。	
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織 公民館 たなべる 昭和幼稚園 いずみ保育所 初山歯科 切目薬局 お魚ママさん 深見助産所 紀南県税事務所 田辺市消防 城山台給食センター	
取組（活動内容・ねらい・日時等） 1 学期… 3 年租税教室（紀南県税事務所）、2 年職場体験学習（地域の事業所 3 6 か所） 全学年性学習（深見助産所助産師） 文化部（トールペイント・ペーパークラフト） 2 学期… 3 年薬物乱用防止講座（切目薬局薬剤師） 3 年絵本読み聞かせと保育実習（たなべる・昭和幼稚園・いずみ保育所） 2 年鯨のさばき方（お魚ママさん）、2 年食育講座（城山台給食センター栄養士） 2 年救命救急講習（田辺市消防）、2 年地引き綱体験（ペンション湯川コーディネーター） 1 年防煙教室（初山歯科）、生産学級ブックトーク（たなべる）、全学年避難訓練 吹奏楽部コンサート（A コープ前にて・稲成ふれあい・会津さわやか）			
【学社融合推進協議会】 * 5 / 2 4（木） 第 1 回協議会 ・委嘱状交付 ・本協議会の趣旨説明 ・長、副決定 ・スクールプラン説明 ・本年度の取組 * 9 / 1 6（日） 体育大会 ・保護者・地域住民種目、敬老会参加種目への参加 ・プログラム配布等、公民館からの啓発 * 1 1 / 2（金） 市教委研究指定本発表 ・研究発表、公開授業、研究協議、講演会への参加 ・接待、運営の協力 * 1 1 / 7（水） 学校開放日 ・授業参観 ・教育講演会への参加 ・意見交換会 * 1 1 / 1 5（木） 文化発表会 ・弁論、合唱、演劇、学習発表、展示、 吹奏楽部演奏等の鑑賞 ・意見交換会 * 1 2 / 1 4（金） 第 2 回協議会 ・学校評価 ・年間の成果と課題の総括 ・本会議のあり方、来年度の方向、組織体制等の協議 * 3 / 7（木） 第 6 7 回卒業証書授与式への出席			

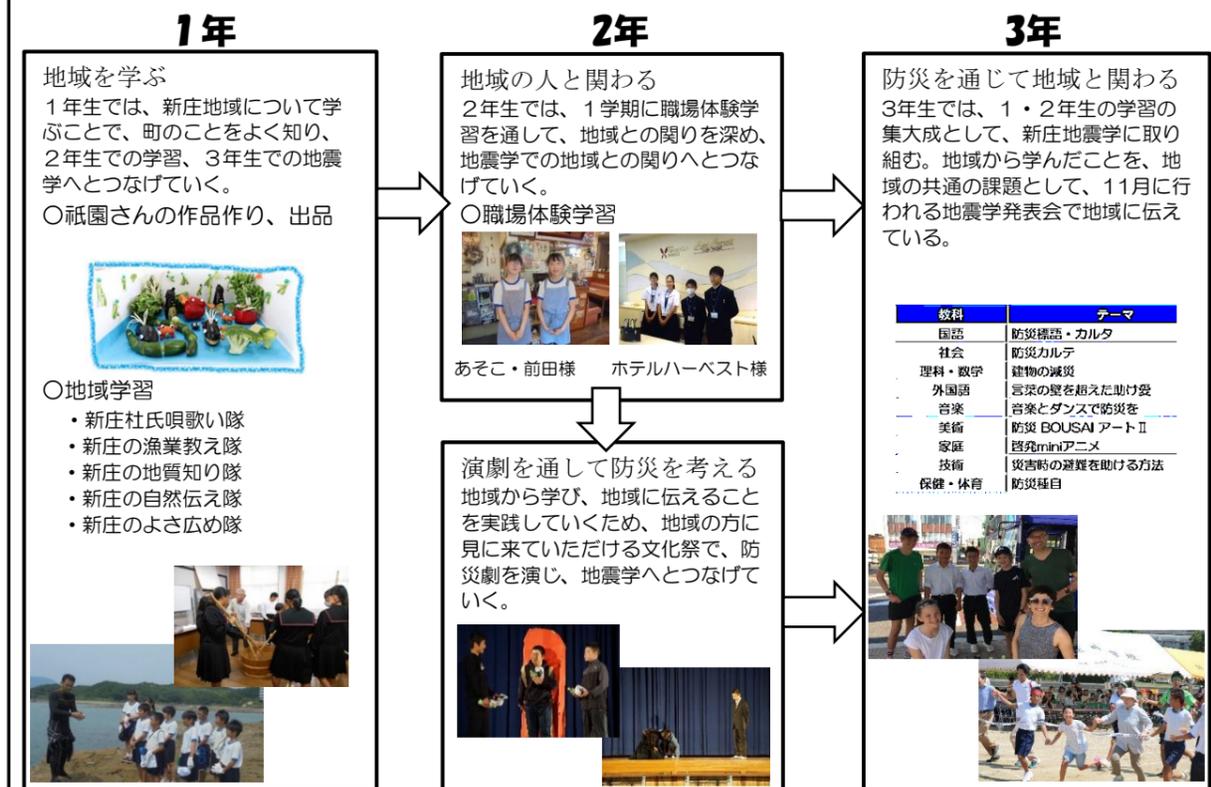
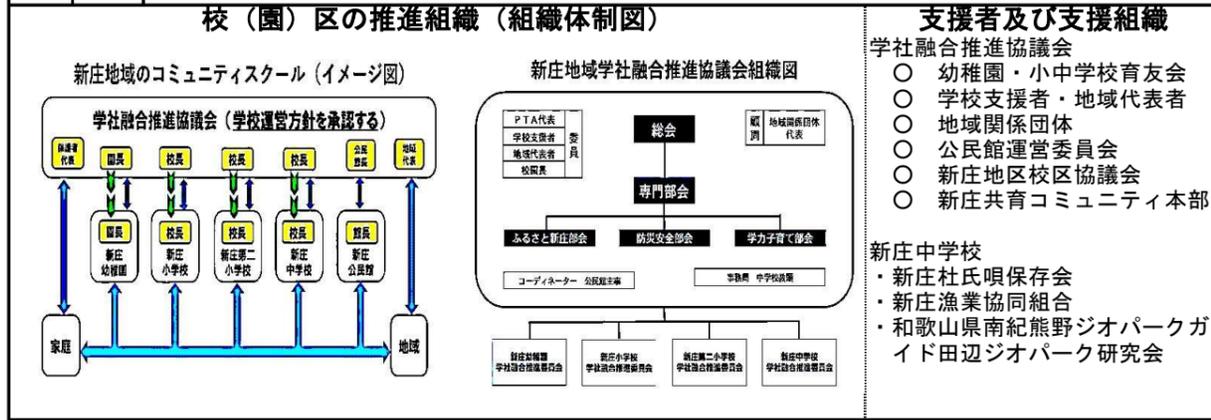
	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に学校や生徒たちの様子を分かってもらえることができた。 ・地域の方との関わりを深め、学校に期待されていること、果たす役割が明確になってきた。殊に防災の面において、地域における中学生の役割が大きいと考えている。 【学社融合推進協議会】 学校行事に参画することで学校や生徒の活動を理解することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな分野のゲストティーチャーを継続的に招いて取組を進めること、新たな人材発掘が難しい。 ・さまざまな取組を進めるとき、6つの公民館、地域、幼保と本校の日程調整に苦慮した。 【学社融合推進協議会】 委員全員が参加できる日程調整が難しい。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の高い専門性、深い知識、熱い思いに触れることで、興味関心がわき学習意欲が高まった。 ・地域の一員としての自覚はもちろんのこと「自分に何ができるのか、何をせねばならないのか」を考えるようになった。 【学社融合推進協議会】 委員（地域住民）との交流や、委員の生徒への励まし等が生徒の活動意欲に繋がっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーや地域とのかかわりの中で生まれてきたつながりを、生徒をパイプ役として家庭と地域との更なる連携に高めることはできないかと考えている。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生が今の自分に何ができるのかを理解し少しずつではあるがつながりが生まれ次代を担い地域を支える人材が育ちつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主性を高め、学校の授業としてではなく地域を支える一員・個人としての関わり、参加の形へと高めていきたい。 【学社融合推進協議会】 学校外の地域での活発な交流や取組までは繋がっていない。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や防災学習を地域、学校とのかかわりの中で行うことで、人と人との結びつきが深まり、自助共助が進んだ。 【学社融合推進協議会】 5つの公民館長が委員として地域と学校を繋ぐ強力なパイプ役になっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりを深めるため、中学生が地域の行事に参加する機会を増やしたり、地域社会の中に参加しやすい居場所を作り、受け入れる態勢を整えたい。 【学社融合推進協議会】 公民館主催の地域行事等へ、学校として、またその地域に住む中学生が参加できる機会を増やしたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 《評価》 <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな取組を通して学校の様子や生徒の様子、作品展示を通して日々の学習態度や成果を地域の方に知ってもらうことができた。 ・地域の中の学校であること、学校や中学生が期待されていることを全職員が意識しながらさまざまな取組を企画立案・実行できた。 ・専門性の高い知識や技術を学べたこと、地域の方とのつながりが生徒の学習意欲を高めた。 《次年度に向けての方向》 <ul style="list-style-type: none"> ・学社融合の必要性、重要性を再確認しながらさまざまな取組を企画立案し、実施する。 ・アンケート評価や、地域や保護者の声を真摯に受け止め、それらを生かしながら今までの取組をさらに進化発展させていきたい。 ・授業や部活動で、新たなゲストティーチャーを招いて高い専門性に触れさせ、生徒の知的好奇心をくすぐることで、自ら学習を深めていく生徒の育成を図りたい。 【学社融合推進協議会】 《評価》協議会や意見交換会で出た意見 <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に参加、参画することで生徒や学校の様子を詳しく知ることができた。 ・落ち着いた授業や体育大会、文化発表会等の行事への取組が充実している。 ・生徒と先生の信頼関係が築かれていると感じる。 ・学校がきれいで環境整備が行き届いている。 ・生徒の学力向上、先生の授業改善が図られている。今後も続けてほしい。 《次年度に向けての方向》 <ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会としてこれらの活動を支えると共に積極的に学校運営に参画していきたい。 ・初年度の組織体制や活動を継続しつつ、推進協議会の活動として持続可能な新しい取組を計画実践していく。 		

学校・園名	田辺市立新庄中学校	公民館名	新庄公民館
-------	-----------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子

新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきました。そして、本年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めています。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取り組みも進めています。

目 標	<p>田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条(目的) 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。</p>
	<p>新庄中学校 ・子供たちの成長を地域ぐるみで見守り、育てていく。 ・学校を核とした子供の地域参画を進め、未来の町づくりに貢献していく。</p>



	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の行事として、また授業として、積極的に地域と関わる意識を持って取り組んでいることが、結果的に地域とつながる機会を増やしている。 ・職員も、職場体験学習などを通して、普段関わることの少ない他職種の方々と関わらせていただき、新たな発見などが生まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関りをもつことで満足するのではなく、その後も関係施設とともに課題を考え、よりよい関わり方、よりよい子供の成長につながる方法などを考えることが必要である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や行事で地域と関わるが多いことを生徒自身が感じ、その結果、地域の方に対して日常的に挨拶ができる態度が育っている。 ・生徒は2年間の中学校生活の中で地域とのつながりを実感しており、3年時の地震学では、生徒から積極的に地域と関わった防災学習ができないか考えられるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校卒業後に、地域との関わりが希薄になってしまっていると感じるので、卒業後も将来にわたって地域とともに学び生活する態度を育てていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して地域との距離を縮めることができた。 ・地域への関心、愛着を高めることができたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な地域との繋がりをさらに深められるように工夫をしていきたい。
地域(公民館)保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に地域の魅力、特色を伝えるとともに、自らも地域に対する想いを再認識できるいい機会となった。 ・地域の方と生徒が顔見知りになることで地域の一体感が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの方に事業に携わってもらえるよう、情報提供や参加しやすい雰囲気づくりに努める。

評価及び次年度に向けての取組の方向

<評価>
例年通り、1年生での地域学、2年生での職場体験・演劇、3年生での新庄地震学を系統立てて取り組むことができた。その中で、今年度より、学年ごとに、「地域を学ぶ」、「地域の人と関わる」、「演劇を通して防災を考える」、「防災を通じて地域と関わる」というように、地域とのかかわり方をテーマに分け、子供たちの発達段階に応じてどのように地域と関わっていくかを分かりやすくした。また、職場体験学習では、昨年度よりも新庄地域の事業所を増やし、より地域に密着した取組になるよう工夫した。地震学では、これまで関わったことのない地域内の介護施設などを訪問させていただき、災害時に不安に感じていることなどを聞かせていただいた。しかし、それらの施設では、新庄地震学の取組を知っていただけておらず、まだまだ多くの関わり方があると感じさせられた。

<次年度に向けて>
今年度行ってきた内容は次年度も引き続き取り組んでいきたい。その中で、今年度新たに関わらせていただいた施設などは、今年度聞いた内容をどう伝え、どう解決していくかを共に考えていく取組などができればよいと考える。地域とともに学び、地域とともに学校を作る。学校から地域へ、地域から学校へ、互いに学社融合に向けた情報・意見・アイデア等を発信・交換していくことで、今後も学社融合を進めていきたいと思っている。

公民館主催夏祭り
中学生ボランティア

公民館主催夏祭り
文化部によるオープニング箏演奏

小学生に向けた
中学校の授業体験

学校・園名	田辺市立衣笠中学校	公民館名	三栖公民館・万呂公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>本校では、1年生で地域の主産業である梅産業の学習、2年生で進路学習(職場体験)、3年生では幼稚園や小学生との交流、全学年を通して防災学習や福祉学習に取り組んでいる。それらの活動に三栖公民館、幼稚園、小学校などの関係機関やJA紀南三栖支所をはじめとした地域事業所、地域住民の方々と連携して取り組んできた。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々や自然との触れ合いを大切に、地域に対する愛着を育む。 ・地域社会の一員としての自覚を持たせ、地域に参画する態度を育む。 ・地域の多くの方々との交流から、多角的な視点と豊かな人間性を育む。 		
<p>校(園)区の推進組織(組織体制図)</p>		<p>支援者及び支援組織</p> <p>JA三栖等地域団体 市内企業 保護者 育友会 地域住民 三栖公民館 万呂公民館 長野公民館 田辺市梅振興課</p>	
<p>取組(活動内容・ねらい・日時等)</p> <p>○梅体験学習(1年) JA紀南三栖支所、田辺市役所梅振興課を中心に、地域の梅農家の方々のご協力のもと梅の収穫から梅干作りまでの一連の仕事と梅を使った調理を体験した。 1学期にJA紀南および市役所の指導で、地元梅産業に関する講座や梅の収穫・選果体験、梅の選果場見学などに取り組んだ。夏休みから2学期にかけては、地元農家10軒で天日干しと選別の1日体験や地元婦人会による梅料理教室を実施した。</p> <p>○職場体験学習(2年) 地域の事業所の協力を得て、職場体験学習を実施した。2年生は、それぞれの事業所で体験活動を実施した。体験に先立って市内企業によるビジネスマナー講習を受講している。</p> <p>○幼中連携(3年) ①月見団子作り…家庭科で、三栖幼稚園の園児と一緒に月見団子を作って交流した。 ②合同避難訓練…南海・東南海地震発生を想定し、隣接する三栖幼稚園の園児を本校3年生が誘導し、中学校の3階へ避難する訓練を実施した。 ③文化発表会…三栖幼稚園の園児が本校の文化発表会に参加し、歌とダンスを披露して中学生の発表を鑑賞した。 ④連風作り…家庭科で、三栖幼稚園の園児と一緒に連風を作って交流した。</p> <p>○防災学習 ①かまどベンチ作成…田辺市左官業組合の和田氏の指導のもと、有志生徒で中庭にかまどベンチを作成した。耐火煉瓦とコンクリートで作るかまどベンチは、災害時の炊き出し等に活用できる。南海・東南海地震や三栖川の氾濫など、地域で想定される災害を見ずえ取り組んだ。 ②防災講演会…元新庄中学校長の井瀬氏を講師に迎え、東日本大震災や過去の南海地震における田辺市の被害の様子等を学習した。生徒が防災を自分のこととして考える機会となった。</p>			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関や地域住民の方々と連携することで、学校単独では難しい多様な活動を生徒に体験させることができた。 ・各事業の内容を少しずつ改善していくことで、取組の目的や連携の意義を確認することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館や幼稚園とは密接に連携した取組ができているが、小学校とのつながりを強めることでより効果的な教育活動を行うことができると考える。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々の方々のふるさとに対する思いや、自分たちの地域を支えている営みに直接ふれることで、自分が暮らす地域の風土や人々への関心が高まるとともに、地域の一員としての自覚が育まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での取組の場面だけでなく、挨拶をする、回覧板を届ける、祭礼や行事に参加する、清掃活動などに参加するなど、日常生活においても積極的に地域に参画できる生徒を増やしたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・梅学習や職場体験などを通じて地域の年長者から指導を受け、幼中連携では年長者として年少者を守り導くという経験を通して、「地域の担い手として自分たちに何ができるのか」を考えるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験や訓練・講話などの活動を通じて育まれた地域の担い手としての気持ちや考えを教科の学習に関連付ける取組や、教科の学習に地域の力を導入する取組も必要だと考える。
地域(公民館)保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動を通じて、改めて地域について学ぶことができた。また、中学校の取組に携わることで、中学生がどのようなことを学び、考えているのかを知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域とが情報を共有し、様々な活動を通じて地域ぐるみでの子供の育成を展開していきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

○評価
 ・本校では、1年生の「梅学習」、2年生の「職場体験」、3年生の「防災学習」「幼中連携」と、核となる取組がある。3年間を通して地域の方々や関係機関と連携しながら生徒の人間性を伸ばし、地域の担い手を育てるしくみができていることが強みである。
 ・「梅体験」や「職場体験」では、生徒が学校から地域に出て、地域の方々から直接様々なことを学んでいる。教員以外の大人から多様な視点で学ぶとともに、自分たちの社会を支える地域の営みにふれる良い機会となっている。
 ・学年ごとに段階を追った取組が定着していることで、生徒は「来年、幼稚園の子たちを誘導するときにはこうしたい」というように見通しと目標意識をもって活動している。

○来年度に向けて
 ・核となる取組を継続しながら、生徒につけたい力に合わせて、協力を得られる地域の力を拡充していくなどの視点で内容の改善を図りたい。
 ・体験や講話に加えて、教科の学習の中で地域教材を活用し、地域の方々とともに学ぶ授業のあり方を模索していきたい。

(かまどベンチ制作・月見団子作り・井瀬氏の防災講演の様子)



学校・園名	田辺市立上秋津中学校	公民館名	上秋津公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>平成28年度から幼稚園・小学校・中学校・公民館と連携した「上秋津地域共育コミュニティ本部事業」の取組を実践している。幼稚園から小学校、中学校に至る11年間の教育活動を目指した、地域とともにある実践活動を目指している。</p> <p>従来から上秋津では、地域で子供たちを育てる取組が進められており、今回のコミュニティはその活動をさらに発展させるため、幼少中の連携強化に重点を置いたものであった。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業体験を中心とした活動を行い、ふるさとを大切に育てる。 ・地域の産業や文化を学習の中に取り入れ、学力の向上を図る。 ・防災、福祉活動を中心とした人を大切にする教育をすすめる。 ・幼・小・中の連携を図る。 		
<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p style="text-align: center;">上秋津地域共育コミュニティ本部 (公民館・上秋津幼稚園・上秋津小学校・上秋津中学校・PTA・町内会・老人会等)</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p style="text-align: center;">役員・コーディネーター・事務局</p> </div> <p style="text-align: center;">※役員＝本部長・副本部長・本部長</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">ふるさとを誇りに思う</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">学力の向上を図る</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">人を大切にする</div> </div>		<p>支援者及び支援組織</p> <p>上秋津町内会 上秋津公民館 JA紀南上秋津 JA青年部 幼稚園PTA 小学校育友会 中学校PTA 民生児童委員 公民館サークル 秋津野ガルテン 介護老人保健施設あきつ 等</p>	
<p>取組（活動内容・ねらい・日時等）</p> <p>「ふるさとを誇りに思う」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆1年農事体験学習（11月2日：保護者、地域の農家での農業体験） ○農作業の体験を通して農業への理解を深め、勤労の喜びや尊さ、厳しさについて学ぶ。 ◆ふるさと学習 ①2年生、3年生高菜の巻き寿司づくり（2月：町内会の協力による郷土料理体験【家庭科】） ○地域の食材を用いることの意義、地域の食文化の継承について考える。 ②2年生語り部活動（11月：文化発表会での発表） ○上秋津地域の文化、経済活動を調べ、発表する。（一部は英語での発表） ◆1年生、2年生合気道体験（6月、11月：外部講師による合気道体験【保健体育科】） ○武道の特性に触れながら礼法やマナーを身につけ、合気道固有の技の習得に取り組む。 <p>「学力の向上を図る」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆小中英語交流授業（6月、11月：中学2年生と小学3年生による英語交流授業） ○小学生に英語で伝える活動を通し、英語の基礎学力を伸ばし、自己有用感を向上させる。 ◆3年生会津川水質調査（11月：外部講師による環境学習【理科】） ○右会津川の水生昆虫を採集し、地域の自然環境を調査する。 ◆1年生職場模擬体験（12月：西宮市のキッザニア甲子園での仕事体験） ○職業と経済活動を模擬体験し、社会の仕組みを学び、進路について考える。 <p>「人を大切にする」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆食育講座・思春期講座（全学年で実施：助産師、栄養教諭を講師にした学習） ○食の自己管理能力を身につける。思春期の心と体の成長を学び、命の大切さを考える。 ◆1年生防災学習（11月：外部講師による地域防災学習） ○明治の大水害、七夕水害、台風12号による紀伊半島大水害など、地域の災害の歴史を学ぶ。 ○地域の危険箇所について考え、災害に対する意識を高める。 ◆3年生避難所運営訓練（11月：中学3年生と幼稚園児によるかまどベンチを使った炊き出し訓練） ○災害時の避難所を想定し、既設のかまどベンチを利用して、幼稚園児と炊き出し訓練を行う。 			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ○地域と学校がこれまで以上に連携を持つことができた。 ○児童生徒の発達段階に沿った学習・指導ができた。 ○授業の活性化・生徒の意欲向上に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●校種間の繋がりある取組を継続する。 ●持続可能な取組を精選する。 ●幼小中連携の実践記録をまとめ、今後に生かす共通理解が重要である。 ●地域教材を引き継ぐ手立てを考える。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土愛を育むことができた。 ○上秋津の良さや発展していく喜びを感じることができた。 ○児童・生徒の興味関心がより深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒たちに、持続可能な地域の体制づくりを意識させる取組を継続発展させる。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ○地域のさまざまな人たちと交流することで、上秋津の良さを再認識することができた。 ○幼稚園や小学校との交流が盛んになり、子供たちの学習意欲が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒数が減少していく中で、現状の取組を精査していき、持続可能な取組を考えていきたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティの指定を受けた事で、幼小中の連携が密になり、今まで以上に内容の濃い取組ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●幼小中の連携を持続させていくため、今後も連携会議等を設け、コーディネーターとしての役割を果たしていきたい。
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向</p> <p>「ふるさとを誇りに思う」</p> <p>農事体験学習は、公民館、青年部、保護者の協力を得て、1年生で事前学習と体験学習を実施し、上秋津地域の現状や課題を考える機会となっている。地域の食材を考える高菜を使っの調理実習は、地域の方から直接、地域の食材や調理について学ぶ時間であり、ふるさとを考える一つの学習となっている。地域の方との交流は、地域の先輩としての助言や意見、感想などを聞くことができ、それだけで大きな成果がある。幼稚園・小学校・中学校が、今までの取組を地域とどう関わり、どう繋いでいくかをしっかりと見極め、計画し実践することが大切であり、そのために、職員が同じ意識で学習内容を把握しておくことが必要である。</p> <p>「学力の向上を図る」</p> <p>自然観察等ができる場所が地域にはあり、人材活用も含め、学校と地域間の交流はできてきた。英語教育を通しての、小学生と中学生の交流を昨年から実施しているが、これを出発点として、英語だけでなく様々な交流ができればと考える。そのためには、教師集団の授業改善に向けた高い意識が重要となる。</p> <p>「人を大切にする」</p> <p>食育講座を講師を招き実施したが、講師が本校の卒業生で生徒たちとの繋がりがあり、食育の学習だけでなく職業に対する考えや意識を高めることができた。地域の協力で中学校に設置した防災かまどを活用し、幼稚園児と中学生合同の防災学習の取組を実施できた。地域と学校との交流だけでなく、幼稚園・小学校・中学校の三者や二者間の交流学習が確立できてきた。</p>		

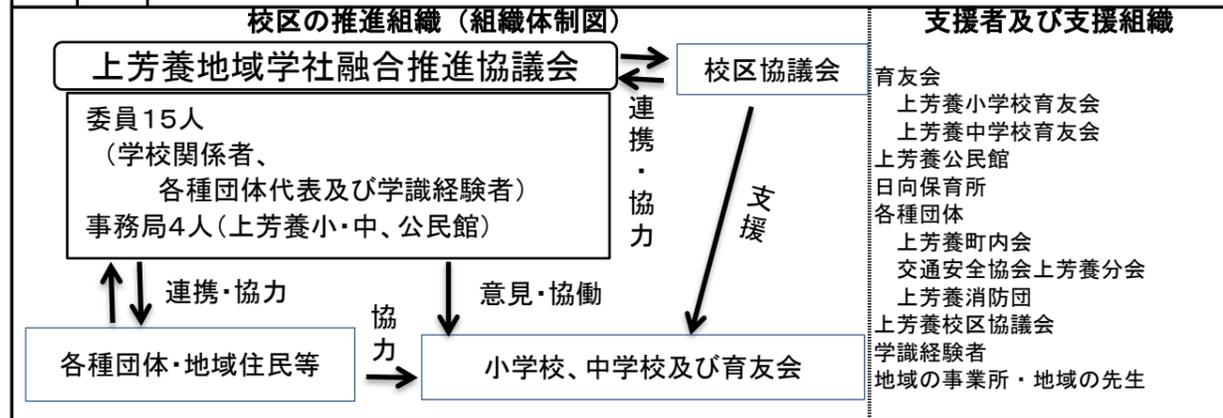
学校・園名	田辺市立秋津川中学校	公民館名	秋津川公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>秋津川中学校では、ほとんどの生徒が保育所から小・中学校と一緒に生活し、生徒同士の間関係がよい。また、保護者も長い年月を一緒に活動しているため、連帯意識が強く、地域の人々も子供たちを見守り育んでいこうとする意識が強い。学社融合の取組から、計画的に子供たちが地域の方々と触れ合うことで、生徒は視野を自分たちから地域へと広げて考えられるようになる。また、一緒に活動することで、地域全体の活性化に貢献している。また、地域の方々も学校行事や子供たちとの活動を通して、コミュニティとしてのまとまりが保持され、各種お祭りや行事等、秋津川地域としての文化の形成・継承が行われている。</p>			
目	学校・園・地域	<p>・地域の方々との交流を通して、秋津川の先人の知恵と文化を受け継ぎ、地域の良さを再確認し、地域や学校を大切にすることを育てる。</p> <p>・地域の方との交流を通して、コミュニケーション能力を高める。</p> <p>・子供たちに、地域の人たちとの交流の中で伝統文化等の様々な知識を教えていただくことで、地域への愛郷心を養う。</p> <p>・普段子供たちと接する機会の少ない保護者以外の人たちに、公民館主催のイベントを通して交流を持っていただくことで、地域の活性化に繋げていく。</p>	
<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p>		<p>支援者及び支援組織</p> <p>秋津川公民館 秋津川町内会 秋津川振興会 秋津川春秋会（老人会） JA紀南秋津川店 JA女性会 秋津川婦人会 秋津川小学校 秋津川保育所</p>	
<p>取組（活動内容・ねらい・日時等）</p> <p>○地域の生徒・児童・子供を守る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月4日（月） 幼・小・中地震災害合同避難訓練 中学生が幼稚園に迎えに行き、その後グラウンドで講話。 ・8月22日（水） 全校登校日：防災教室 秋津川公民館で小中合同講義（地域の方々も参加） 講師：田辺市防災まちづくり課：田中啓行氏「防災に備えて」 ・11月19日（月） 文化発表会 1年生が総合的な学習で取り組んだ防災への取組を保護者や地域の方々に発表。災害時の非常防災袋を実際に作成し、作り方を発表した。 ・12月13日（木） 情報モラル教室 学社融合推進協議会主催で、午後7時より生徒及び保護者、地域の方を対象にスマホやパソコン使用による危険性について講義を受けた。 講師：和歌山IT教育機構：佐々木哲氏「スマホ携帯SNS等によるトラブルについて」 <p>○地域の文化に触れ伝統を守る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月23日（日） 町民運動会 中学生は、小中合同のリレーと、南中ソーランや組体操、また、4人5脚に参加し、地域の方々に参加する一般種目に、自主的に参加したり、出場して下さった地域の方々にも、景品を配る仕事などを手伝った。また、最後に地域の方々や秋津川音頭を踊った。 ・10月7日（日） 敬老会 中学生は全校生徒による炭琴演奏と南中ソーランを披露し、小学校と保育園も地域の高齢者の方々にダンスや歌を披露した。 ・11月18日（日） ふるさとまつり 学校開放週間で、1時間目から、終日授業公開した。保護者以外に地域の方々や祭りに参加した方たちが見に来てくださった。生徒は炭琴演奏と南中ソーランを披露し、クイズ大会やバザー、抽選会に参加し、保護者や地域の方々、卒業生などの多くの参加者たちとともに祭りを楽しんだ。 			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の多くの方々が学校に足を運び、児童や生徒の学習の様子や発表を見て、喜んでいただいた。 ・子供や孫が通っていなくても地元の学校を身近に感じ、秋津川中学校の地域に根ざした教育活動の一端を知ってもらいよい機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館を通して、学校行事や地域行事の予定を全戸に伝えることで、多くの方々に教育活動を知り、支援していただいている。今後は、行事の時以外にも、授業の中で、地域の方々をゲストティーチャーとしてお呼びし、生徒と交流していく機会を積極的に持っていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の学校生活は少人数で過ごしているため、大勢の人を前にして発表するという、貴重な体験を積む良い機会となった。 ・地域の催しへ参加することで、地域の一員としての連帯感や自覚を促すきっかけとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の生徒は少子化のため、保護者や地域から大切にされ過ぎる傾向があり、自立心が育っていない生徒も中にはいる。学校や家庭、地域での自分の役割について考え、責任感を高めるような指導をしていきたい。 ・避難訓練などを含む防災学習では、中学生として自分たちは何ができ、何をすべきかを考えながら行動できる主体的な態度を育てたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・組体操や南中ソーラン、炭琴演奏などの披露を通して、自分たちの取組や地域の特産物を学習の中で継承している姿を多くの来場者に見ていただくことができた。 ・地域の皆さんが、子供たちを楽しませる視点も入れて、一生懸命に行事の準備に取り組む姿を見ることで、ふるさと秋津川の良さを再確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・係や運営の仕事を積極的に取りまわせることができた。今年度のように、少しずつ中学生の役割を増やしていくことでさらに成長させていきたい。 ・これからも地域の行事や活動に積極的に関わって、多くの方々と交流し、人間性や社会性を高めていきたい。
地域（公民館・保護者）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が協力して行事を開催することで、地域の活性化につながり、また地域の伝統を守る後継者育成の一端となっている。 ・少人数ながらも、子供たちがひたむきに行事に参加・協力することで、地域住民も元気と活力を得ることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体の高齢化と少子化が進む中、例年通りの活動を支えていくのは、困難なことも出てきているが、公民館や地区の役員さん方の協力のおかげで様々な取組が継続している。今後はその状況を踏まえたうえで、無理のない運営を心がけていく必要がある。
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向</p> <p><評価>本年度は、生徒と保護者や地域の方々との例年通りの行事に加えて、次の行事に新しく取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同の防災学習を、夏休み中に公民館で保護者や地域の方々にも参加していただいて実施した。地域全体の安全を考え、中学生にもできる防災対策ということで、文化発表会で非常持ち出し袋の作り方について発表するなど、積極的に取り組めた。 ・地域の人々が大勢集まって開催される町民運動会で、地域の消防団の方々が、「放水訓練」を披露し、日々厳しい訓練を積みながら、地域の安全を守っているということを見せる試みが今年初めてなされ、大変好評だった。 ・学社融合推進協議会主催の「情報モラル教室」が開催された。昨今、パソコンやスマートフォンを使う小学生や中学生が増え、それに比例してネットトラブルも増加してきている。秋津川は、田辺市内の大規模校に比べて、生徒自身の携帯電話の所持率は低い、高校生になればほとんどの生徒が使用しているという現状がある。生徒だけでなく、保護者や地域の方々にも、ネット利用上の危険性について知ってもらうことで、地域の子供たちを守っていくという取組は、大変良かった。 <p><次年度に向けての取組の方向>地域行事と学校行事を協力しあいながら継続し、新たな取組も積極的に進めていきたい。</p>		
<p>放水訓練 情報モラル教室 組体操 ふるさとまつり</p>		

学校・園名	田辺市立上芳養中学校	公民館名	上芳養公民館
-------	------------	------	--------

学社融合における学校・地域の様子
 自然豊かな環境の中で、児童生徒は地域や保護者に大切に見守られながら学校生活を送っている。小学校・中学校は、地域のサークルや地域の方々の協力を得たり福祉施設など地域にある施設や事業所の方々と交流を行ったりして教育活動を進めている。地域全体が「地域で上芳養の子どもを育てる」という意識が高く、学校の教育活動には協力的である。
 公民館は子供対象の行事を実施したり住民参加のスポーツ大会、文化祭を開催し地域の交流を図っている。

目 標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の自然や人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていかうとする児童生徒を育成する。 ○地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図る。
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒と地域住民との交流を深めることにより、子供たちの地域理解を深める。 ○学校と地域との連携を密にして子供たちの健全育成を図る。 ○地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで地域の活性化へと繋げる。



取組（活動内容・ねらい・日時等）
 <上芳養地域学社融合推進協議会について>
 5月28日（月）第1回学社融合推進協議会「今年度の活動計画について」
 8月9日（木）第2回学社融合推進協議会
 報告①「上芳養小中学校児童生徒の家庭における情報機器等の使用状況」
 報告②「きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会の報告」
 研修「パソコン・スマートフォン等の消費者トラブルについて」
 講師：県消費者生活相談員

<活動内容>
 農事体験活動…地域の産業である梅産業を体験することにより、働くことの意義や働くことの大変さを学ぶとともに、その体験活動を通して地域愛を育むことを目的として、1年生の活動として行っている。

学習計画
 6月「梅」事前学習…JA出前授業
 農事体験
 ①JA中芳養支所で選果や出荷についての体験学習
 ②地域の梅畑で梅拾いや選果、出荷準備の体験学習

JA出前授業

出荷

梅とり 選果 塩漬け 出荷

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の情報機器の使用頻度や活用方法等をアンケートで把握し、課題を明らかにすることによって、今後家庭や地域との連携方法を考える機会が持てた。 ・農事体験学習により、働くことの大切さや意義について学ばせることができた。また、地域の産業である梅産業を通じて地域愛を育むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果で明らかになった課題を解決するため、学校・家庭・地域が連携して今後どのようにしていくか。 ・体験活動を受け入れてくれる農家の方が少なくなっている。以前は、該当学年で受け入れ農家を確保できていたが、今後は難しくなると考えられるので、全保護者あるいは地域への協力をお願いしていくことが課題。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・農事体験を通じて、地域の産業を体験することにより、働くことの大切さ、意義について学ぶことができた。 ・農事体験によって、地域への愛着を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器やゲーム等の使用頻度が多く家庭学習や生活習慣の乱れが課題となる生徒に対する支援が必要になる。 ・梅とり、選果等体験的な学習への興味関心を高めていくこと。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の産業について、実際の体験活動を通して、学ぶことができた。 ・様々な方々と関わり、交流を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器やゲーム等の使用頻度を少しでも低くできるように、実生活の中で体験、経験することの大切さを学んでほしい。 ・地域の産業に対する学習を通して、地域の方々と積極的に交流し、さらに深い学習を進めていこうという気持ちを育む。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の生徒の様子がよくわかり、地域の方々が学校教育に対する関心をさらに高めることができた。 ・保護者や地域の方々も、生徒たちの働くことに対する前向きな姿勢を見ることができた。 ・地域の方々の生徒たちに対する関心を高めることに繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器等についての取り扱いについて、保護者の方々がさらに深い知識を持つことで、生徒たちを見守っていく必要がある。 ・農事体験を通して、地域と学校がさらに連携し、生徒たちが地域の産業に対する学習を深めていくことができるよう取り組む。

評価及び次年度に向けての取組の方向
 ○今年度は、学校と地域が連携し、生徒の生活をよりよくするための手立てを考えるきっかけとなる研修ができた。今後さらに生徒の家庭や社会生活に目を向け、学校生活とリンクさせ、互いに相乗効果が出るような取組を考えていきたい。

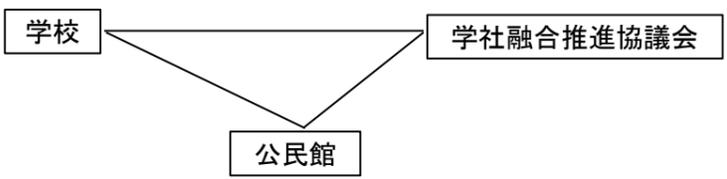
○農事体験学習を通して、生徒たちに働くことの大切さ、意義について学習させることができた。
 ○JAの統合により、中芳養支所の協力を得ることになったが、スムーズに体験活動に取り組むことができた。
 ○これまで通り、小学校・中学校・公民館・地域サークルと連携した取組を継続するとともに、上芳養地域学社融合推進協議会としての活動を計画していきたい。
 ○地域の連携をさらに深め、生徒たちにとって、地域にとって有意義な活動を模索し取り組んでいきたい。

学校・園名	田辺市立中芳養中学校	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 「地域と共にある学校 学校でつながる地域の“わ”」をテーマに、「子供の育成」「文化の伝承」「交流の推進」を3つの柱として取組を進めてきた。この取組の成果を生かし、地域とのつながりを大切にしたい取組を公民館と連携して進めている。			
目 標	学校・園・地域	・子供たちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。 ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。	
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織 ・中芳養公民館 ・中芳養幼稚園 ・中芳養小学校 ・JA紀南芳養谷支所 ・中芳養地区老人会「芳寿会」 ・中芳養町内会 ・中芳養地区消防団	
取組（活動内容・ねらい・日時等）			
梅・勤労体験 6月～8月	「校内梅採り体験」を実施し、採れた梅でジュース作りを体験した。その後、JA中芳養支所の協力を得て事前学習を実施し、梅・勤労体験学習当日は、4つの班に分かれて梅農家で1日体験を行った。夏休みには、事後学習として「JA梅加工場見学」を実施した。		
盆踊り講習会 7月18日（金）	「中芳養夏祭り」に向けて、芳寿会の方々に盆踊りの講習をして頂きました。全校生徒と職員で5曲の踊りを教えて頂きました。「巡礼」「弓引き」等の地域に伝わる踊りもあり、地域文化を伝承する良い機会になりました。		
中芳養夏祭り 8月6日（土）	「芳寿会」の協力を得て、盆踊り講習会を実施したおかげで、夏祭り当日の盆踊りには、多数の中学生が参加できた。また、2年生が中心となって露店を運営した。		
和の心の授業 10月～11月	日本の伝統文化に親しむことを目的とした「和の心の授業」を実施、近隣の方に外部講師を依頼し、1年生は「書道」、2年生は「華道」、3年生は「茶道」をテーマにして取り組み、作品を中芳養祭と合同作品展に出品した。		
中芳養祭 11月12日（日）	学習発表、作品展示、OBによるコンサート、交流タイム等を通して地域の幅広い年齢層の方々と交流を深めた。また、和の心の授業の成果を生かすことが出来た。		
中芳養合同作品展 12月9日（土） 12月10日（日）	中芳養合同作品展で陶芸作品やモザイクアートの作品を展示し、地域の方々と作品を通して相互理解を深めた。		



	成 果	課 題
学校・園	・「敬老会」や「グラウンドゴルフ大会」に参加し、地域の人たちとの交流を深められた。今年は、運営にも関わられた。 ・PTAの活動が活発になり、学校行事への参加者も増えた。 ・幼・小・中・公民館の連携で学社融合の取組の幅が広がった。	・地域の教育力を学校に取り入れるために様々な場面での活用を考える。 ・学校行事の精選を行い、より効率的な取組を作り上げていきたい。 ・今後も幼・小・中・公民館の連携を深め子供を育てる一貫した取組に発展させていきたい。
*子供にとって	・多くの講師を招聘でき、授業を通したふれあいの中でコミュニケーション能力を高めることができた。 ・人前で堂々と発表することが苦手な生徒が多いが、経験数が多くなり、少しずつではあるが自信を持ってきている。	・学校が行う地域との交流行事を通して、日々の生活の中で挨拶や意見を述べることに慣れさせたい。 ・地域の良さを知ることによって愛着を育み、地域の将来について考えられるようにしていきたい。
*子供にとって	・地域の行事に参加するだけでなく、運営にも携わることで、生まれ育った地域に対する愛着が強くなった。 ・地域の産業や文化について、興味・関心を高めることができた。 ・様々な交流を通して地域を知ることができた。	・地域との交流行事を通して学んだことを周りの方々と共有しながら、地域に対する理解をより深めてほしい。 ・様々な行事に積極的に参加していこうという気持ちをさらに育てていきたい。
地域（公民館）	・様々な行事に参加をしている中学生の様子を見て、子供たちの積極的な姿勢を感じることができた。 ・地域の方々は、中学生の元気な姿を見ることで、活力を与えられた。	・さらに多くの地域の方々が、子供たちと関わるができるように取り組んでいきたい。 ・様々な行事や取組における協力の体制が、今後も継続できるように、各種団体の連携を強めていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
・本年度は、学校への協力という形に終わらず、地域の行事にも積極的に参加し、「地域に学び、地域に返す」という、学校と地域との双方向性をもった取り組みとすることができた。		
・芳寿会との交流は、「盆踊り講習会」「Human-chain」の取組を通して継続されている。また、PTAの陶芸教室は、台風の影響で日程変更になる中、多くの保護者が参加してくれ、保護者同士の交流が深まった。学校行事への参加数も増えてきている。		
・「中芳養地区敬老会」「中芳養グラウンドゴルフ大会」に参加し、グラウンドゴルフ大会では、中学生が運営のお手伝いをする事ができ、一歩進んだ取組になった。		
・学校の公式ブログを運用し、行事予定や行事の様子を積極的に公開してきた。このことで学校行事への参加者が増えたと考えられる。まだまだ技術的な問題も抱えているが、続けていきたい。		
・地域の教育力を学校に取り入れるために各教科で活用できる単元や実習等を洗い出し、具体的な取組につなげていけるようにしたい。		
・学校行事等の精選を進め、今後も持続可能で効率的な取組にしていく必要がある。学社融合推進協議会を核として、幼・小・中・公民館の連携を今後も大切にし、相互理解を深めていく。		



学校・園名	田辺市立龍神中学校	公民館名	龍神公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>地域を知り、地域から学ぶ「龍人学」を基本とし、「自然・環境」「歴史・文化」「産業」「福祉」の4つの領域において本校独自の特色ある実践を展開している。具体的には、①学校だより「翔龍」の全戸配布（約1600戸）②体育大会・文化発表会等の学校行事への参加の推進③ボランティア活動の推進④地域行事への積極的な参加⑤職業体験活動の実施⑥ゲストティーチャーの積極的な活用等である。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の中で、子供たちの豊かな人間性、社会性を養う。 ・活動を通して地域の方々との交流を図り、地域の文化や、地域を愛する心情を養う。さらに、地域の教育力を生かした様々な活動に発展させていく。 ・ボランティア活動やリサイクル活動を通して、地域の環境美化・保全の意識を高める。 		
<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p>  <pre> graph TD A[学校] --- B[学社融合推進協議会] C[公民館] --- B </pre>		<p>支援者及び支援組織</p> <p>龍神地域各地区 龍神公民館 龍神中学校PTA 学社融合推進協議会委員 社会福祉協議会 等</p>	
<p>取組(活動内容・ねらい・日時等)</p> <p>一昨年度まで「虎ヶ峰清掃」というボランティア活動を行っていた。昨年度からは現在避難所として利用されている3つの小学校を清掃することにした。地域の方々や区長様方等にご協力いただき、甲斐ノ川小学校、殿原小学校、大熊小学校を清掃することに決定した。</p> <p>日時 平成30年7月18日（水）</p> <p>内容 生徒は徒歩やスクールバスを使って（スクールバスで学校から小学校へ）それぞれ配置した。事前に各小学校ではどのような清掃が必要か、必要な道具はあるのか、どんな道具をもっていくべきかを計画した。朝の8時から11時頃まで各小学校で約25名程度の生徒と教員が実に一斉懸命清掃を行った。終わってからはスクールバスや教員の自動車等を利用して学校に集合した。この活動を地域の方々はとても喜んでくれた。</p>			
			
<p>生徒たちは廃校になった地域の小学校の清掃を行い、地域の歴史と現状を学んだ。そして自分たちが地域に貢献していることを自覚した。また地域のためになったこと、地域の方々からとても感謝されたことにより、大きな充実感を抱いた。</p>			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方に学校の様子や活動をより多く知ってもらうことができ、地域の学校としての意識をより高めることができた。 ・活動に対して大勢の方に協力していただくことができ、学校と地域の関係を密にすることができた。 ・講師（ゲストティーチャー）招聘により幅広い分野の学習をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域の関係をより密にし、地域の教育力をより生かした活動計画を立てていく。（幅広い分野にわたった取組を進めるために） ・地域の方々の協力により、自分たちの教育活動が成り立っていることを生徒に自覚させるとともに、地域の方々への感謝の気持ちを育成する。 ・出来るだけたくさんの体験活動を取り入れたいが活動時間、予算の関係で取捨選択しなければならないこともある。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大勢の方々の協力により、さまざまな活動ができ、より大きな達成感を味わうことができた。 ・環境美化・保全への意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に感謝する心や、これらの取組が貴重な体験であるということを感じてもらいたい。 ・地域の行事や活動に積極的に関わって、より多くの方と交流し社会性を高める。 ・地域の一員であることを自覚し、地域の方への挨拶や交通ルールやマナーを守る態度を向上させる。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある組織や団体がゲストティーチャーとして学校に入ることにより、地域で活躍している方から直接話を聞くことにより子供たちにとっても意義深い学習になっている。 ・地域の方と活動を通して交流を深められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学社融合活動で学んだことや経験を地域や今後の人生の中で生かしていけるよう大切にしてほしい。 ・地域で活躍できる生徒の育成。
・地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々にゲストティーチャーとして学校に来ていただくことにより、学校活動に関する関心が高まり、保護者以外の地域の皆さんにも「地域の学校」として学校活動にご協力いただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・龍神村で唯一の中学校であり校区が広い為、更なる交流の促進が必要。 ・学社融合活動を継続実施していく為には、地域と学校をつなぐ人材の育成が不可欠。

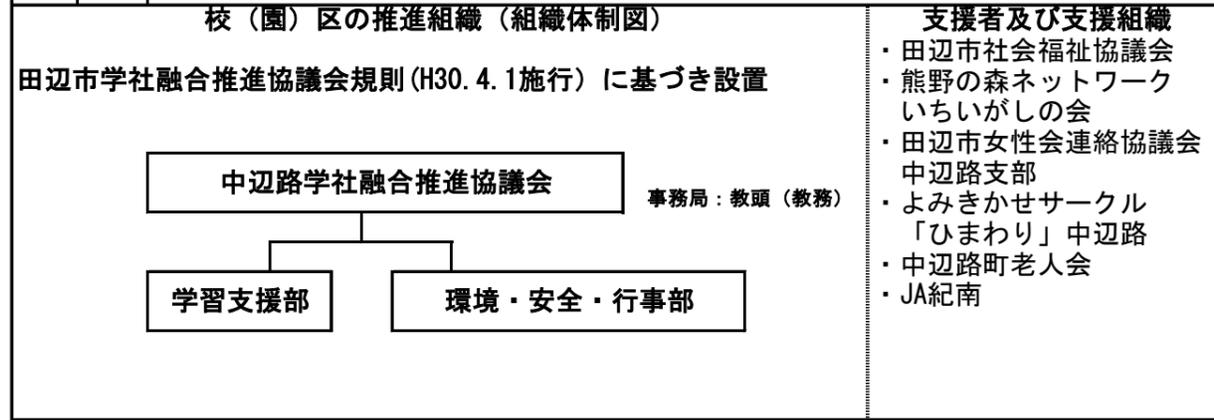
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向</p> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより校区（約1600戸）への配布を、年間を通じて行うことができ、学校での活動を地域に発信することができた。 ・体育祭や文化発表会に、例年以上に保護者だけではなく大勢の地域の方々に参加していただくことができた。 ・村民文化祭の午前中に本校の文化発表会を開催し、多くの方々に見学していただくことが出来た。 ・村民文化祭の舞台発表や美術作品の出品において、大勢の地域の方に鑑賞していただくことができた。 ・祭礼の和太鼓や笛の演奏などに、積極的に参加することができ、決まりを守ることや安全確保もできた。 ・リサイクル活動には、保護者や地域の方々の協力で、たくさんの古紙、古着などの回収をしていただくことができ、その収益が様々な体験活動の原資になっている。 ・虎ヶ峰清掃作業の活動に替わる「地域ボランティア」として廃校の清掃作業を通して、地域の財産をきれいにし、地域に貢献できた達成感を学ぶことができた。 ・外部講師（ゲストティーチャー）の招聘により、幅広い分野の体験や学習をすることができた。また、毎年行っている活動でも外部講師が交替するなど、交流が広がっている。 ・米作り体験事業では、田んぼアート作業にも関わるとともに、農作業の体験を通して、働くことの意義を理解することができた。 <p>取組の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、公民館、各関係団体による組織作りを行う。この方向は益々広がりを見せている。 ・学校と地域の関係をより密にし、地域の教育力をより生かした活動計画を立てていく。（幅広い分野にわたった取組。時間の確保、場所、人材の確保等） ・環境美化・保全活動に対する住民意識を高めていくために、広報活動の工夫をする。 ・年3回のリサイクル活動の継続。（普段から古紙、古着をためておいてもらえるような活動としていく。）又それらをうまく広報活動して啓発する。 ・環境教育を充実させ、自分たちの住む地域に対する愛着を高めるとともに、主体的に活動を進めていけるようにする。
--

学校・園名	田辺市立中辺路中学校	公民館名	中辺路公民館
-------	------------	------	--------

学社融合における学校・地域の様子

世界遺産熊野古道がすぐそばにあり、自然豊かな環境である。少人数ながら、生徒は保護者や地域に温かく見守られながら学校生活を送っている。学校では、地域との交流を深める様々な取り組みを行っており、それらを継続することで、年々活動に協力して下さる方々が増えている。比較的、地域全体が「子供を見守り育てる」という雰囲気を持っており、地域の方が取り組みを提案して下さることもある。女性会や老人会といった地域の中にある組織の方々との交流も積極的に行っている。

目 標	学校・園・地域	子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・困難化しており、教育改革、地方創生等の動向からも、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘される中、学校や地域が抱える課題を解決するとともに、地域を担う人材を育成するため、これまでの「学社融合の取組」を生かして、学校と地域が当事者意識をもって子供の成長を支えていく学校づくりを進める。 ・家庭・地域のもつ教育力を積極的に取り入れたり、地域の施設や環境などを教育活動に生かすことを大切にする。 ・自然や地域の人とのふれあいを大切に、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ・地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていかうとする生徒を育てる。
	校（園）区の推進組織（組織体制図）	支援者及び支援組織 ・田辺市社会福祉協議会 ・熊野の森ネットワークいちいがしの会 ・田辺市女性会連絡協議会 中辺路支部 ・よみきかせサークル「ひまわり」中辺路 ・中辺路町老人会 ・JA紀南



取組(活動内容・ねらい・日時等)

【活動内容】 ※ 上記委員全員で全体会を行い、かつ、部会のいずれかに所属し活動をする。
 ※ 学校職員は、部会のいずれかに属するものとする。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1回全体会議		各専門部会による取組(年2~3回程度開催)							第2回全体会議		
【議案】 (1)会長・副会長選任 ※学校運営方針の説明及び承認 (2)学校、地域の課題の選定 (3)課題を検討する専門委員会の決定		(1) 第1回専門部会 当年度の取組内容や具体的な検討事項などを協議 (2) 数回の専門部会 課題解決に向けた取組を協議・意見交換など (3) 専門部会 1年間の活動の振り返り及び、次年度に向けた協議など							【議案】 (1)学校運営の基本方針に係る取組報告 〈活動状況報告書作成〉 (2)各専門部会からの取組報告 (3)次年度に向けた意見交換 (4)田辺市本部会議からの報告事項の確認		

《学校地域課題の選定》

(例) 子供たちの学力向上に向けて 町民運動会や文化祭の開催に向けて
 携帯電話の取扱いについて 学校行事と地域の行事の連携について
 ふるさと学習の進め方について 防災学習などの研修や子供達の地域貢献活動への促進について

子供の実態から
 地域の声から
 学校からの意見

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流を深めることによって、学校と地域のつながりが深まっている。 ・様々な取組を通して、学校と地域とのつながりを深めていくことにより、地域の方々の学校教育や生徒に対するの関心や理解が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組をするので時間の確保が大変である。計画的に時間を確保していく必要がある。 ・今後も継続させることによって、地域の方々と学校との協力関係を深めていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との関わりによって、社会性やコミュニケーション能力の向上につながっている。 ・地域の伝統をはじめ、様々なことを学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの活動においても生徒が主体的に取り組み、活動時だけでなく地域に対する思いを実行する手立てをしていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生が行っている花作り・花配布の地道な活動が子供たちの自信になり、中辺路地域の住民の誇りや自慢につながっていることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・花ボランティア活動以外にも女性会や老人会などとの積極的な交流を継続していきたい。
・地域(公民館)保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の生徒が花ボランティア活動で育てた花の苗配りは、地域の住民に大好評であり、こうした地域と中学生の交流が地域の環境美化意識を高めることにもつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館として学校で取り組んでいる学習活動に地域全体がもっと関心を持ったり、積極的に参加してもらえよう積極的にサポートしていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

・地域の文化や伝統を知ることで地域の方々に認められ、自尊感情が育まれている。
 ・「花ボランティア」は毎年、継続的に行うことにより年々協力して下さる方々が増えてきた。生徒と同じ作業を行っていただき、生徒と地域の方々の交流を深めることが出来た。
 ・生徒たちは花の苗を配ることで直接地域の方々の声を聞くことが出来て、達成感や地域に貢献している自覚を感じている。
 ・子育てサークルやグラウンドゴルフは生徒とは他世代の方々と交流する良い機会となり、コミュニケーション力の向上につながっている。
 ・今年度のサマーボランティアにも複数の生徒が参加した。地域のために役立とうとする主体的な姿勢が育まれた。
 ・どの取組も毎年継続的に行うことでより深められていくと考える。取組が多い中、しっかりと計画的に行っていく必要がある。



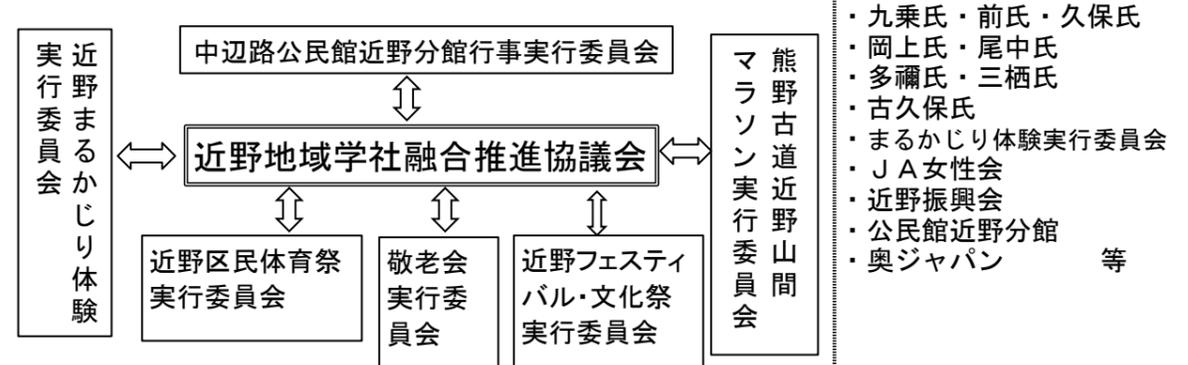
学校・園名	田辺市立近野中学校	公民館名	中辺路公民館近野分館
-------	-----------	------	------------

学社融合における学校・地域の様子

・伝統的に学校と地域の連携が密である。
 ・学校と地域が一体となって取り組む行事として、「近野区民体育祭」(9月)、「近野まるかじり体験」(11月)「近野フェスティバル・文化祭」(11月)、「近野山間マラソン」(3月)などがある。中学校も実行委員会に入り一翼を担っており、生徒・職員ともに主体的に参加している。
 ・総合的な学習の時間に取り組む年間を通しての米作りは、多くの地域の方々の協力のもと行っている。また、収穫したうるち米や餅米は、餅つきなど、地域の各イベントの時に活用している。

目 標	学校・園・地域	学校を含めた地域の教育・文化の振興、児童生徒と地域住民の活力・健康の増進、高齢者福祉の増進等に関わる行事等を通して、教育上の諸課題解決に寄与するための取組を行う。 (学校) ・地域での活動を通して地域を知る。 ・共同作業を通して、協調性を養い、共に助け合うことの大切さを学ぶとともに、地域の住民や伝統・文化を大切に、尊敬する気持ちを育てる。 ・地域の一員として地域のイベントに参加し、地域に対する感謝の気持ちを表すとともに、地域の振興に貢献することで達成感を味わわせ、郷土愛を培う。 (地域) ・児童生徒と地域住民との交流を通して、児童生徒・保護者・地域住民の相互理解を深める。 ・学校と保護者、地域の連携を密にして児童生徒の健全育成を図る。
--------	---------	--

校(園)区の推進組織(組織体制図)



取組(活動内容・ねらい・日時等)

- 4月25日(水) 紹介して頂いた畑で、全校で草餅用のよもぎを摘んだ。
- 5月9日(水) 九乗さんの自宅で地域の方の指導のもと、箱苗作り・もみまき体験をした。
- 5月21日(月)・25日(金) 1年生で箱苗の水やりを行った。
- 6月4日(月) 地域の方の指導のもと、全校でもち米とうるち米の田植えを体験した。
- 6月5日(火) 地域の民宿の方の指導のもと、熊野古道弁当をつくり、地域の史跡で食べた。
- 6月27日(水) 奥ジャパンの協力で、アメリカンファミリーとの交流を行った。
- 10月3日(水) 地域の方の指導のもと、全校で稲刈り体験を行った。
- 11月3日(土) 「近野まるかじり体験」に全校で参加。高田民宿さんに場所をお借りし地域の方々の指導のもと、臼と杵で草餅をつき販売をした。
- 11月25日(日) 「近野フェスティバル・文化祭」で総合的な学習の時間の取組や音楽、ダンスの発表、各教科の作品展示を行った。
- 12月19日(水) 「近野クリーン作戦」と称して、日頃お世話になっている地域に感謝の気持ちで清掃活動を行った。



もみまき箱苗



田植え



稲刈り

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 米作りを箱苗作りから収穫までを行い勤労の尊さを学ばせることができた。 「近野まるかじり体験」で餅つきを行い、日本の食文化の学習をさせることができた。 地域の方との交流が深まり、感謝の気持ちや先人を敬う気持ちが育った。 多くの共同作業に取り組む中で、協調性や思いやりの気持ちが育った。 集団としてのまとまりが育ち、学校行事等でもその力が発揮された。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間が少なくなるなか、米作りの時間を確保するのが難しくなっている。 天候に左右されることが多く、予定通りに実施できないことがある。 生徒数・職員数が少ないなか、今のままでの実施は難しくなってくる。 行事の精選や中身の検討が必要になっている。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 米作りを一通り体験することができた。 地域の方々を人生の先輩として敬うようになり、あいさつ等にあらわれてきた。 地域のイベントや学校行事に主体的に参加できる生徒が増えてきた。 国際交流を通して国際性を身につける契機になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の中で、先輩から後輩へと取組が伝授できていけるようなくみにしたい。 他の行事との関係で、スケジュール的に忙しかったため、もう少しゆとりを持ってできるようにしたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域が抱える様々な課題に気づくとともに、地域の活性化のために自分たちも参加していくことで多くのことを学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統に学び、地域の活動に今後とも継続して関わってほしい。
地域(保護者)・公民館	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の皆さんの協力により、校区内の休耕田を借用して、米作り体験を行った。「区民体育祭」「近野まるかじり体験」「近野フェスティバル・文化祭」などに、地域一体となって取り組んでいる。こうした取組により、地域の方々と生徒たちが交流を深めることができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数が少なくなってきた中、学校と地域住民が連携した体験学習を行って、地域全体で子供を育てる学習を進めていくことが重要となっている。
	<ul style="list-style-type: none"> 米作りを箱苗作り・もみまき・代掻き・田植え・雑草取り・稲刈り・脱穀までの農作業を体験し、日本の米作りの一連の作業を体験する事ができた。餅つき体験をすることで、生産活動の大切さを学び、収穫の喜びを味わうことができた。 地域の方々の協力なくして米作り体験はできない。今後とも地域の中で育つ近野中生として位置づけ、地域から多くのことを学び、また地域に感謝の気持ちを伝える活動を目指したい。 昔ながらの杵と臼で餅つき体験をし、日本の食文化の継承がはかれた。また、「近野まるかじり体験」での餅の販売や「近野フェスティバル・文化祭」の育友会主催のパパママランチの食材として米を提供できたことは、地域への恩返しとなり良かった。これも取組の成果であるといえる。来年度もできる範囲で、これらの取組を継続する方向で計画していきたい。 地域の旅行会社「奥ジャパン」の協力によるアメリカンファミリーとの交流は、今まで積み上げてきた英語語部を発展させ、子供たちのコミュニケーション能力を育てる国際交流を進めていく上でとても有意義であった。英語科の教員の負担も大きい職員で協力しながら来年度も取り組んでいきたい。 	



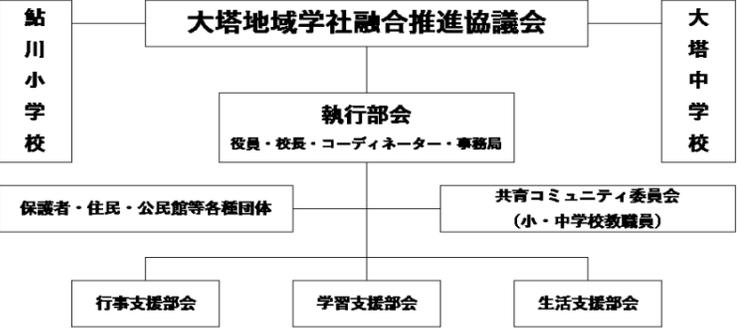
餅つき実演販売後



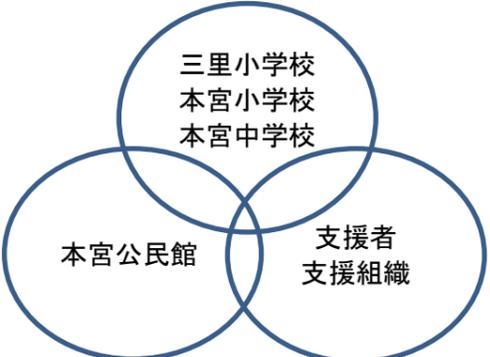
アメリカ交流書道



アメリカ交流折り紙

学校・園名	田辺市立大塔中学校	公民館名	大塔公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>旧大塔村時代より、地域連携教育や小中一貫教育を推進してきた背景もあり、保護者及び地域住民は学校教育に協力的であり、PTA活動や学校行事への参加は積極的である。しかし一方では、共働きや一人親家庭の増加に伴い、平日行われる参観日等の出席率は低い傾向にある。また、昼間はほとんどの成人が旧田辺市など近郊に働きに出るため、大きな災害が発生した時など、地域で活動できる人材が特に不足することも想定できる。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大塔地域において、学校と家庭と地域が連携・協働し、子供たちの成長を支える学校づくりを進める。 ○鮎川小学校と大塔中学校の9年間を見通した学校運営を行う。 ○今まで培ってきた「大塔地域共育コミュニティ」の力を活用し、学校や地域の抱える課題を解決するとともに、これからの大塔地域を担う人材を育成する。 ○学校・家庭・地域それぞれが成長することを目指す。 		
<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p> 		<p>支援者及び支援組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大塔公民館、各分館 ○田辺市自治会連絡協議会大塔支部 ○大塔女性会 ○大塔老人クラブ ○社会教育委員会 ○子供クラブ ○放課後ふれあいスクール ○民生児童委員 ○田辺市保護司会大塔支部 ○社会福祉協議会 ○田辺市消防署大塔分署 ○青少年健全育成市民会議 大塔地区協議会 	
<p>取組(活動内容・ねらい・日時等)</p> <p>行事支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学5年生～中学1年生が対象の「選択交流学习」でGTとして地域人材の活用。6月13日、10月10日に実施。 ・地域イベントでの子供たちの活躍の場づくり（大塔地球元気村への参画）。 ・運動会、体育祭で実施する大塔音頭の振り付けを地域の方より教師が指導を受け、生徒へ伝達講習した。 ・小中合同での清掃作業「大塔リフレッシュ大作戦」（11月7日）への区長を中心に地域の方の協力。 ・地域の方々への学校行事（体育祭、文化発表会、公開授業等）への参加啓発。 <p>生活支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校指導の拡大 宇立地区での取組が他の地区へも広がった。 ・緊急時、委員がぐるりんメールで情報を受け取り、下校指導などの見守り活動を行う。 ・家庭のしつけ 子供たちの見本となるよう大人もあいさつ。 ・防災教育 災害発生時を想定したクロスロード学習（1月10日）に地域の方も参加。 ・防犯カメラの設置の検討。 <p>学習支援部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の運営に図書ボランティアの活用を進める。 ・家庭学習の手引きを活用し、小中で家庭学習の充実を図り学力向上を図る。 ・学校の要望に応じた地域の人材や教育資源の紹介をもらい、授業への協力、参観等を進めた。 			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間の縦のつながりを考えながら連携することができた。選択交流学习ではGTのサポートを務めつつ、リーダーということを意識して活動し、リフレッシュ大作戦では3年生が企画・運営し、小学校、大塔CS、地域と連携して取り組むことができた。また、消防署と連携した訓練、保育園との合同防災訓練の実施により、災害時の対応について体験的に学ぶとともに、社会福祉協議会の協力により、車いす体験、認知症への理解を深める機会を設けられた。そして、大塔地球元気村では実行委員会やボランティアを務め、地域の一員としての役割を担った。さらに、大塔音頭講習会、伝達会を通して、伝統である大塔音頭の正しい踊り方を学び、図書ボランティアさんのサポートにより、図書の整理が進むとともに、大塔CSを中心とした朝のあいさつ運動により、児童生徒の安全が確保されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択交流学习では、児童生徒の減少に伴う講座数の検討が必要である。 ・リフレッシュ大作戦では、児童生徒の減少による清掃地域の検討が必要である。 ・ふるさと大塔を誇りに思っている生徒は多いが、地域の担い手を育てるために、改めてふるさとを見つめ直し、考える「ふるさと学習」等の取組も必要である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・これらの活動は、ふるさとの文化や伝統を地域の中で体験する貴重な機会となっている。地域への関心や地域をよりよくしようという思いが高まり、ふるさとの良さを守り続けたいという思いを育むことができた。 ・地域の方々の苦労や自分たちへの期待、願いについて知ることができ、地域の担い手としての自覚が芽生えた。 ・地域の子供たちのリーダーとしての自覚を持ち、役割を担うことができた。また、それにより、充実感や達成感を味わえる生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を離れても、地域の行事に参加したり、自分たちから何か地域に発言したり、積極的に地域に参画していける生徒の育成が課題である。また、地域の担い手としての自覚を持った生徒が、将来も大塔で暮らしたいと願ったとき、それが実現できる条件が整備されていることが望まれる。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・住民や異年齢の子供たちとの活動を通して、コミュニケーション能力を高めることができ、交流を深めることができた。 ・職場体験学習では、公民館をはじめ地域の様々な事業所を訪れ、働くことの意義や苦勞、喜びを学ぶことができ、自分の進路や将来を考える良い機会となった。 ・防災学習やリフレッシュ大作戦では、地域に暮らす子供たちの代表として、自分たちにできることを考えたり、学んだりすることができた。 ・大塔地球元気村実行委員会への参画も良い経験となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では、毎月、地域の話や行事を掲載した公民館だよりを各教室に掲示している。子供たちには、日頃から自分の住んでいる地域に関心を持ち、機会があれば、地域の行事や活動に積極的に関わってもらいたい。
地域（公民館）保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・学社融合推進事業の中には、地域行事として定着しているものもあり、子供たちと住民の良き交流の場、地域の活性化にもつながっている。 ・子育てを終えた方や普段、学校と接点がない方も、活動に参加することで、学校や子供たちの取組を知ることができた。 ・防災クロスロード学習では、地域住民とともに公民館主事も授業に参加し、子供たちと意見を交わすことで、子供たちの意見や考え方を知ることができた。 ・学校図書館におけるボランティア活動の推進によって、地域住民が中心となり、子供たちが安心できる校内の居場所づくりを進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりスムーズに、効果的に活動を進めるため、学校と地域（公民館）が連携を強くしていかなければならない。 ・防災学習やリフレッシュ大作戦で育まれた子供たちの自信や「地域の一員である」という意識を生かす場を考えていきたい。 ・今後も学社融合推進協議会の取組を、地域へ広報しながら、一人でも多くの理解者や協力者を増やしていきたい。
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向</p> <p>〔評価〕</p> <p>それぞれの活動において、これまでの取組の良さを引き継ぎつつ、改善に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択交流学习では、地域の方を指導者として、中学1年生が小学7年生として小学生のリーダー的な役割を果たすことができ、自己評価、地域の方からの評価ともに高まった。 ・リフレッシュ大作戦は、これからもふるさとの良さを守り続けたいという思いを持って実施することができた。また、中学3年生は、地域の最上級生である小学9年生として、リーダーとしての立場で取り組むことができ、地域の方々にも、中学生の様子を知ってもらう機会となった。 ・大塔地球元気村に企画段階から参加し、企画運営していく苦勞を知るとともに、それに関わることのやりがいを実感することができた。 ・防災学習では、救命救急講習や災害発生時の避難所での支援等、防災行動力について学び、中学生がすべきことは何かということについて考えることができた。 <p>〔来年度に向けて〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大塔地域学社融合推進協議会の取組を引き続き進めながら、日常の学校生活、教科学習、図書館運営、不登校・別室登校対応への地域人材の活用、または小中一貫した9年間のカリキュラムづくりに取り組む等、学校課題の解決に生かせるよう研究していきたい。 		

学校・園名	田辺市立本宮中学校	公民館名	本宮公民館（本宮分館・四村川分館・請川分館・三里分館）
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>共育コミュニティといわれる以前から、本宮地域では地域人材交流を各校において実施し定着していた。平成23年から「音無の里共育コミュニティ事業」として地域を生かした「学社融合」の取り組みを行っており、現在も継続している。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <p>平成30年度に本宮地域学社融合推進協議会が発足したことにより、これまで本宮独自で発生した取組である主な3項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き続いていく。 また、本宮独自で取り組んできた学校支援本部事業の郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの取組を再度見つめなおし、新たに選任された協議会の委員さんからの意見をいただきながら磨きをかけていく。</p>		
<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p> 		<p>支援者及び支援組織</p> <p>育友会 熊野本宮語り部の会 本宮プロバスクラブ 田辺市女性会連絡協議会本宮支部 本宮町自治会連絡協議会 本宮町林業研究グループ</p>	
<p>取組（活動内容・ねらい・日時等）</p> <p>本宮地域学社融合推進協議会（本宮地区コミュニティスクール） 第1回会議 平成30年6月27日 第2回会議 平成31年3月予定</p> <p>今年度から本宮地域学社融合推進協議会が発足し、これまでの取組と今後の方針を協議、会員で共通理解を図った。学社融合推進協議会の活動として町内各校の取り組みを担当者と相談しながら作成し、コミュニティ通信創刊号として町内に全戸配布を行った。</p> <p>また、積極的な学校開放を広く発信し通常の授業参観、外部支援の入った活動を公開することにより子供たちの姿を見守る活動を推進することにした。そのため、11月の学校開放月間に併せて各学校の行事予定を協議会役員に送付するなどして、開かれた学校と地域の連携づくりを図るべく活動を行った。</p> <p>また、学校では本宮教育事務所職員（7月）や図書ボランティア（4月）の紹介式を行い、生徒に学社融合活動を周知する機会を設けた。</p> <p>○熊野古道道普請 世界遺産熊野古道の景観保全を図るべく、本宮中学校、熊野本宮語り部の会、世界遺産センター、本宮プロバスクラブ、田辺市が協力して実施。毎年12月の恒例行事として実施している。</p> <p>○町内の美化推進活動（プランターの配布） 毎年、町内の美化推進活動に積極的に取り組んでおり、今年度も花植え後、町内にプランターを配布した。土作り、花植えに関しても地域の方々のご協力をいただきながら生徒とともに活動を進めている。</p> 			

	成 果	課 題
学校・園	<p>地域にご協力を頂けることで、学校の取組に幅ができ、生徒にとって効果がある。今年度は、花植えに係る土作りで昨年よりも協力してくれる方が増えたことから、学校としての活動が認知されたことと理解している。また、1年生では、総合学習で地域調べを行い、現地調査や地域の方々と接する機会を得て内容のある取組ができた。</p>	<p>既存の取組に満足することなく、より充実した内容を生徒に提供できるよう毎年度、事業の見直しをしていく必要がある。そのためにも踏襲方式でなく、新しい発想や視点が必要である。さらに、事業に取り組むための授業時間の確保について、今年度は教務主任が工夫をこらし対応できたが、担当者の育成が今後の課題である。</p>
*子供にとって	<p>多くの事業において地域の方にご協力を頂けることで、地域の方に出会える機会が増え、見守られている安心感と成長のチャンスにつながっている。</p>	<p>地域の方と触れ合う中で、地域活性を担う次世代の住民であるという意識を持たせたい。</p>
*子供にとって	<p>総合的な学習の一環として職場体験や地域調べなど地域について学び、地域の良さを体感する機会を設け、学んだことを発表できる場を設定している。体感したことを発表できるので、生徒にとっても良い刺激となり元気に発表できている。</p>	<p>各事業を行うにあたり、授業時間との兼ね合いが問題となる。事業の実施については、教師側で精選を行う力量と共通理解が必要である。そのためにも、踏襲にこだわらず事業のまとめを行い、それをもとに次年度の構想を練ることが必要である。</p>
地域・保護者（公民館）	<p>学校で教育事務所職員の紹介式を行えたことから、学校に来校しやすい雰囲気を醸成できた。学校と地域をつなぐために、学校と公民館の双方向の流れを充実させることができた。また事業を行う際には、各種団体に広報活動を行い、地域の方を動員することができた。</p>	<p>協力していただけるボランティアの方の固定化傾向が見られるとともに、高齢化になっていることから、公民館を中心として若い世代で活躍してくれるボランティアの発掘が必要である。</p>
<p>評価及び次年度に向けての取組の方向</p> <p>評価 今年度より、本宮地域学社融合推進協議会（本宮町コミュニティスクール）が設置され協議会を年間計画に従い実施できた。また学社融合担当者会とも連携し、公民館や町内の小学校と連携して細かな情報交流ができ事業を進めることができた。町内では一つの中学校と二つの小学校しかないことから、小中交流会を含め町内職員の交流が図れ、お互いに依頼する際、学校間、学校と教育事務所との垣根が低くなり円滑に活動を進めることができた。</p> <p>職場体験や花植え、道普請などの活動では、地域のボランティアの方のご協力を仰いで実施することができた。ただし、天候面に左右されることもあるので、公民館担当とも連携を図りながら今後も丁寧に進めていきたい。</p> <p>教科学習に係る部分として保健体育科の授業では、熊野本宮合気塾の方にご協力を頂き3年目を迎えた。今年度は、学年ごとに授業を行う方式を取り、合気道導入より3年が経ち3年間の学習プログラムを完成させることができた。講師の方には、担当職員への事前指導から始まり、授業での指導と多くの時間を割いていただいた。また、家庭科では、生徒の作品作りを充実させるためにミシンボランティアの募集を公民館担当を通して行い、多くの方にご協力をいただいて良い学習の機会を設定することができた。</p> <p>また、学社融合推進協議会の活動を町内に周知するために、学校、公民館の取組をまとめた便りを作成し、全戸配布した。</p> <p>次年度に向けての取組の方向 本宮地域では、熊野本宮合気塾の方に始まり、講師の方々が非常に充実しているため事業を良い形で展開できている。ただし、授業時間を考慮した時に意義と成果を常に振り返り、見直しをしていく姿勢は必要である。そのためにも、学社融合推進協議会と学社融合担当者会などで、さらに連携を図りながら「本宮町の児童・生徒のために」を考え、今後も活動を推進していく。</p>		

学校・園名	田辺市立新庄幼稚園	公民館名	新庄公民館
-------	-----------	------	-------

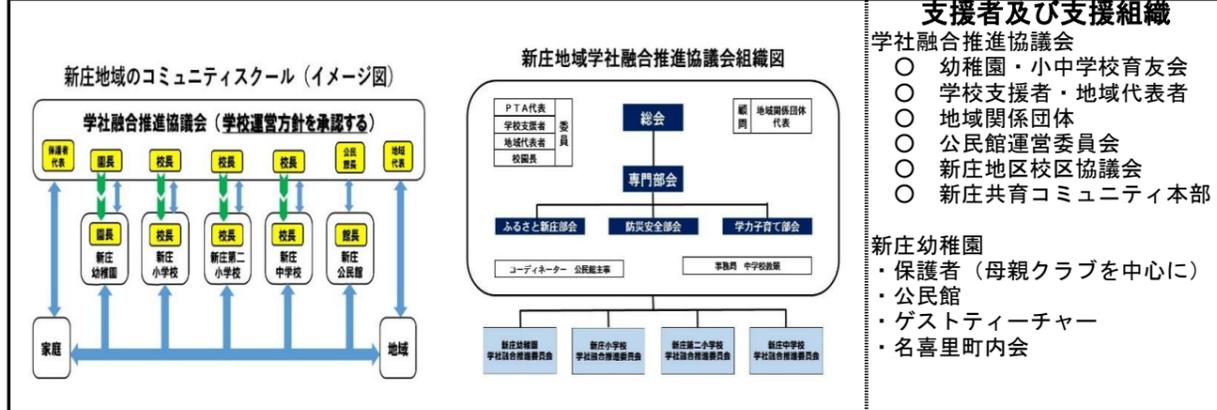
学社融合における学校・地域の様子
 新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきました。そして、本年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めています。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取組も進めています。

目 標

学校・園・地域

田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則
 第2条(目的) 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。

新庄幼稚園
 ○地域とのつながりを大切にし、地域に開かれた園運営(保育の公開や参加型の保育)を展開し、地域の方の幼稚園理解を深める。
 ○地域の人、自然、文化との出会いやふれ合いを大切にし、ふるさと新庄が大好きな子供を育てる。(親世代も巻き込んで)
 ○応答性のある関係づくり、互いにメリットのある活動を大切にし、地域の中の幼稚園子育て支援の核となるよう努める。



取組(活動内容・ねらい・日時等)

幼稚園・小学校・中学校

- 新庄幼稚園 (出会う・ふれる・感じる)
- 新庄小学校 (知る・学ぶ・愛する)
- 新庄第二小学校 (出会う・ふれあい・深めあい)
- 新庄中学校 (学び・関わり・貢献する)

☆幼稚園の観点
 ・出合わせ方の工夫(出合いの時の感動を大切に)
 ・本物にふれる(地域の方の「語り」と「実演」を体験)
 ・保護者と一緒に(親世代を巻き込んで感動の共有を)
 ・生活の一部に(幼稚園の生活の流れの中に地域や文化のふれ合いを意識して)

ねらい
 ・親子で地域の伝統行事にふれ、興味・関心を高め、地域に対する親しみを深める。
 ・身近な材料や夏野菜等を使って試したり工夫したりするおもしろさを味わう。
 ・作品作りを通して親子、保護者・子供同士、地域の方との関わりを楽しむ。

保護者(母親クラブを中心に)
 ○ぎおんさんの夜見世のテーマを考える。
 (子供が好きな絵本『100かいだてのいえ』を基にして、作ってきたい！)
 ○できる人ができる時に、できることをという主体的な取組に
 「作品の背景をこうしよう」「一人一人の部屋を牛乳パックで飾ろう」

06月15日
 ・母親クラブが準備してくれた壁面飾りにタンポで色をつけ、作った自分の顔をはる。

06月28日
 ・公民館主事、ゲストティーチャーと園で作品作りについての打合せ

07月3日・ゲストティーチャーに保護者や園児に「ぎおんさんの夜見世」の由来や制作方法等を話して頂き、お家の方と制作することを楽しみ、感動を共有

07月13日 ぎおんさんの夜見世当日
 ・親子で作品づくり(いろいろな野菜をもちよって)
 ・地域の夜見世に出席
 ・地域の伝統文化のおまつりを家族や地域の方と楽しむ。

	成 果	課 題
学校・園	・地域の伝統行事に親子でふれ、そのおまつりに実際に参加することで園が進めようとしている学社融合の取組や伝統文化の継承の大切さを保護者に理解してもらえた。 ・園の取組を地域にアピールする場、つながりを深める場となった。	・預かりの保育の延長や働くお母さんの増加、地域の方の都合や園の行事もふまえ、日程や内容、取り組み方を考える。 ・園、地域等に関心が薄い保護者の方をどう巻き込んでいくか考える。
*子供にとって	・親子で作品づくりをすることで、同じ経験ができ、感動や達成感を共有できた。 ・自分たちが作った作品が地域のおまつりの中でスポットを浴び、地域のいろいろな人に認めてもらったり、評価してもらえ、充実感や満足感が味わえた。	・園児の自然な生活の流れを大切にし、園児の気持ちが地域や地域の人々へと動き、自分たちの遊び、活動を地域の人と共有したくなる感情へとつなげる保育展開を考える。
*子供にとって	・園児が地域の方と共同で取り組むことで、人と関わる楽しさが分かった。 ・地域の方に感謝されたり褒められたりすることで感動や達成感が味わえた。	・先生方の日々の努力で、園での生活は非常に充実したものになっている。公民館や地域も協力できないことがないか、さらに協議をしていきたい。
地域(公民館)	・地域行事や伝統文化を伝える良い機会になるとともに、園児の純粋な興味や感動が参加者の生きがいや達成感に繋がった。	・取組へ参加しやすい環境や雰囲気づくりに努めたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

○評価

打合せで園の環境にふれ、子供たちの興味関心のあるものから、発想を広げ、会を展開してください。(今年度はザリガニ)

職員
 ・普段からのつながりを意識

ぎおんさんの夜見世の取組
 ・保護者の方を巻き込んで母親クラブのお母さん方を中心に展開

地域の伝統の素晴らしさにふれ、地域への関心を高める。

「そろそろ、ぎおんさんの夜見世やなあ。今年は何にしようかな？」等の声
 ・園理解、園への協力、地域に対する興味関心の高まり
 ・同年齢、異年齢の保護者のつながりの広がり
 ・家庭で今年の経験が来年度へ

・教育委員会が伝統文化継承の為に制作したDVDも活用しながら、地域のゲストティーチャーから話を聞いたり、実演して頂いたりして本物にふれることで、感動を味わった。

○次年度にむけての取組の方向

・普段からの地域の方との応答性のある関わりを職員が心がけ、子供の育ちの為にどういった経験を大切にしていけるか、日々の保育活動や遊びのねらい、内容を研鑽していく。
 ・預かり保育の延長、働くお母さんの増加、地域の方の都合、園の行事もふまえ、日程や内容等を検討していく。
 ・保護者を巻き込み、地域への興味関心を高め、地域との一体感をどうもたせるか、地域の方(家庭も含む)がどのように繋がっているかを感じ、充実感を味わえるか、また発信する方法も検討していきたい。

学校・園名	田辺市立三栖幼稚園	公民館名	三栖公民館
-------	-----------	------	-------

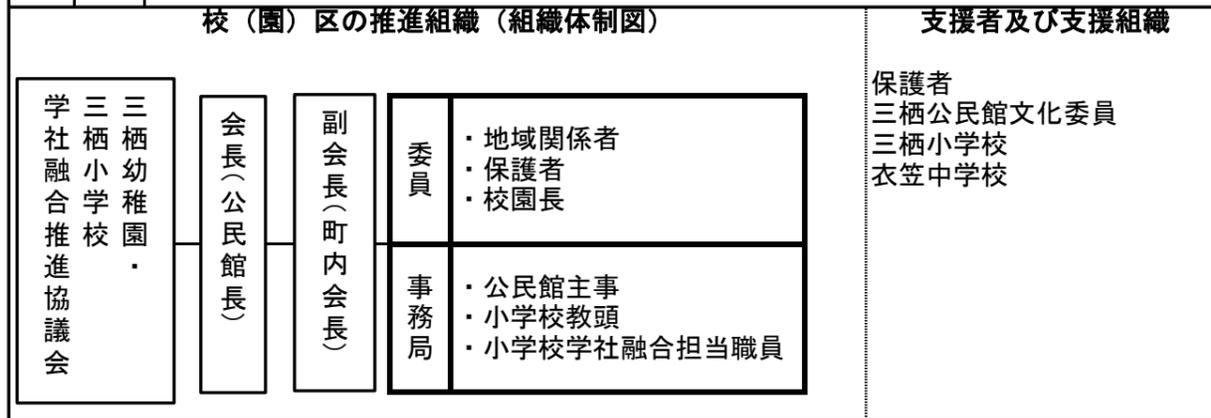
学社融合における学校・地域の様子

三栖地域は元来、梅やみかん、スモモといった栽培が盛んな農村地であったが、近年では地域の様子も年々変わってきて、数年前から新興住宅地やマンション等が増えてきている。また、核家族がほとんどである。

人との関わりを大事にし、園内で育んだ人と関わる力や人を大切に思う心をもとに、地域でも人の優しさや温かさにふれ、「人が好き」「地域が好き」な子供に育ちつつある。

園児数減少に伴い、園運営や行事のあり方も、家庭や地域の協力を得ながら、改善を行っているところである。

目 標	学校・園・地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と触れ合い、人の優しさや温かさに触れ、人と関わる喜びや楽しさを味わう。 ・日常的な温かい関係作りができ、地域に支えられ、地域に根づいた園経営を目指していく。 ・幼稚園との連携を取り地域の方に幼稚園の様子を知ってもらうことで、地域ぐるみで子供を見守っていく意識を高める。
--------	---------	--



取組（活動内容・ねらい・日時等）

- 5月29日 第1回定例会（三栖小学校）
・経営方針・学社融合の取組・園児児童の様子について・協議
- 7月9日 第2回定例会（三栖小学校）
・授業見学・協議・給食試食会
- 11月1日 第3回定例会（三栖幼稚園）
・園の取組・協議・保育参観・給食を子供と一緒に
- 2月(予定) 第4回定例会

- ①園の取組をスライドショーにて、委員の方々に知ってもらい、協議を行う。
- ②健康な身体の育成への取組「元気っ子タイム」の参観。
研究テーマ「夢中になって遊ぶ保育を目指して」の取組、各クラス保育を参観。
- ③委員の方々に、子供たちと給食を一緒に食べてもらい、交流をする。



「イルカショー 見てね」

「劇遊び 見ててね」

「給食 おいしいね」

	成 果	課 題
学校・園	保育を参観し、子供の様子を知ってもらうこと、さらに、園児と一緒に給食を食べて頂くことで、子供たちの日常の姿を様々な視点で見たり、感じたりしてもらうことができた。また、年間の取組をスライドショーで見せて頂き、幼稚園で育てたい力を具体的な子供の姿を通して、理解してもらうことにつながった。	地域の方々に園の教育活動を分かってもらい、園児の実態を把握し、より身近に捉えて頂いたことで、色々な活動や課題等を共有できる体制となっていることが感じられた。今、共有できている課題について解決方法を一緒に模索しながら、充実した教育活動へとつなげていきたい。
*子供にとって	地域でお世話になっている方が、園に来てくれて、自分たちの頑張りや遊びを認めてくれることで、活動が充実したり、自己肯定感を高めることができています。人が来てくれることを非常に喜び、人との関わりが大好きな子供たちに育っている。	自分たちの成長を喜んでくれる人たちに、信頼や愛情・感謝の気持ちを持つなど、地域の人との交流が広がるきっかけとなればと思う。
*子供にとって	地域の方と一緒に給食を食べ、また遊びなども見ってもらうことで交流を深めることができた。保護者以外の地域の方と関わる機会が少ないため、良い経験となった。	子供たちが地域の方との交流を通じ、自分たちも地域の一員であるという意識を身に付けることができるように取り組んでいきたい。
地域（公民館）	幼稚園の取組や現状を知ることができた。子供たちと交流することで地域ぐるみで子供を見守る意識を高めることができた。	地域でできることを考え、子供たちの成長を支援できる体制を構築していきたい。また、地域の方が幼稚園の取組について知る機会を増やしていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

衣笠山頂上でシャボン玉



今年度は、学社融合推進協議会という、新しい組織体制ができたことで、以前の協議委員会よりも様々な方々と意見交換でき、園や学校の実態を把握して頂き、色々な問題を共有することができた。学社融合推進協議会定例会では限られた時間の中で、できるだけ幼稚園のことを理解してもらえるように取組についてスライドショーを行った。委員の方からは、「幼稚園の取組が手に取るようによく分かった」「今、家庭や地域では忘れがちな大切な経験を存分にさせてもらっている」と好評であった。その後の協議も具体的に実態を踏まえ、第2回定例会で出た小学校の課題とも絡めながら話合うことに繋がった。幼稚園では、園児数が減少する等の課題を踏まえた上で、日々の保育を大切に、運動会等の行事の運営方法を見直し、地域や保護者の方々の協力を得ながら、より良い方法を考えてきた。小学校からは、「園児が生活や遊びに、主体的に意欲をもってやろうとする姿は、小学校の授業においても学ぶべき点があると感じた」との意見があった。この会が、幼稚園、小学校という流れの中で課題を考えられる良い機会となっている。学社融合推進協議会での協議や公民館主事さんを通じて地域の方に発信して頂いた事で、幼稚園だけでは課題があり、実現できない部分の協力を得ることができた。一例として、衣笠山登山がある。前回の衣笠山登山で、地域の方々と登山実現に向けて解決の方法を探ってきた土台があったことで、今回の衣笠山登山までに、地域の方が草苺等の準備や、頂上付近の笹を取り除いて、広場として使えるように整備して下さっていた。当日は、園児、保護者、公民館文化委員さん等と一緒に登った。文化委員さんからは、昔は子供同士の遊びや、遠足でも登っていたとの話があり、今回の整備を機にまた、衣笠山に登ってみる機会が増えれば、うれしいとの話があった。また、保護者の方に、衣笠山伝説等を聞いてもらう機会がもてたことを非常に喜んでくださった。園児は、園歌にも歌われている衣笠山がより身近に、より好きになった。保護者も地域の魅力を再発見できた。次回には、今回のルートと別の距離的に短くなる所の整備をして、そこから登ろうという案も頂き、幼稚園の事を思っの温かい関わりがありがたく思う。また、課題解決のため、それぞれの立場でできることはないかという考え方ができている事に頼もしさ、ありがたさを感じる。このように、保護者や地域とのつながりを深める事で、それぞれの課題や願いを共有し、子供にとってより豊かでうるおいのある園生活となるように努めていきたい。

学校・園名	田辺市立上秋津幼稚園	公民館名	上秋津公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>今年度「共育コミュニティ本部事業」の研究発表の年であった。研究の3本柱「ふるさとを誇りに思う」「学力の向上を図る」「人を大切にする」を軸に、昨年までの成果や課題を踏まえ、取組を行ってきた。教育熱心な地域であるので、幼稚園教育にも理解があり、物心両面に協力的で、温かい支援をいただいている。地域とのつながりを深め、子供たちが地域への愛着を感じられるように努めている。</p>			
目 標	<p>学校・園・地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生と一緒に活動することを通して、中学生にあこがれの気持ちを持つ。 ・自分たちで掘ったさつまいもを使った蒸しパンを中学生と一緒に作ることを楽しむ。 ・中学生が薪をくべたり、湯を沸かしたりする様子を見て、かまどベンチの存在を知ったり、幼児なりに防災の意識を持つ。 		
<p>校（園）区の推進組織（組織体制図）</p> <pre> graph TD A[学校教育] --- B[幼稚園] A --- C[小学校] A --- D[中学校] A --- E[生涯学習(社会教育)] E --- F[公民館] F --- G[地域(コーディネーター)] G --- H[地域学校協働本部] I[共育コミュニティ本部事業] --- B I --- C I --- D I --- E </pre>		<p>支援者及び支援組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターを中心に地域の方 ・中学校 ・保護者 	
<p>＜中学生との交流＞</p> <p>7/9.10 中学生 保育実習</p> <p>中学生とさつまいもを使った防災学習交流</p> <p>＜さつまいも栽培＞</p> <p>地域の方の芋畑整地</p> <p>5/9 親子芋苗植え</p> <p>原さんと世話を続ける</p> <p>10/17 親子芋ほり</p> <p>11/19 中学校での幼稚園による事前授業</p> <p>かまどベンチ</p> <p>防災クイズ</p> <p>タンカリレー</p> <p>毎月避難訓練、防災指導（おはしも、イカのおすしなど）</p> <p>防災クイズ用紙作成</p> <p>芋を洗うなどの下準備</p> <p>ペアの関係を活用</p> <p>防災リレー</p> <p>教師間で打合せ</p> <p>コーナ遊び</p> <p>ボール運びリレー</p>			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の教師が事前に中学校に行って幼児の防災意識について伝えることで、中学生に幼児のことを知ってもらうことができ、交流の際の声かけや接し方など考えてもらうことができた。 ・中学生との保育実習で、ペアで活動することで、お互いに親近感が増し、交流後も園外でも声をかけ合う姿へとつながっていった。 ・この活動を参観日とすることによって、保護者にも防災意識が高まり、幼稚園の活動を理解してもらうきっかけとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備については、道具や材料などの用意や運搬が大変であるので、今後継続していくには工夫が必要である。 ・地域の特産物である梅や蜜柑などを取り入れた調理も考えてみたい。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで栽培したさつまいもを使ったり、蒸しパン作りの下ごしらえを行うことによって、自分たちが進めているという意識が高まった。 ・親しみを持っている中学生がかまどベンチを使っている様子を見ることで、幼児なりに防災意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者も地域のことを知らない家庭が増えてきているので、地域の中で様々な方との交流の機会を増やしていきたい。今回の幼稚園と中学生の関わりのように世代間を越えて日常的に交流することで、ひいては、園児にとって防災や避難時の安心につながると考えられる。
* 子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・かまどベンチを利用した防災活動のおかげで、園児たちの防災に対する意識が向上した。 ・中学生との交流が盛んになり、園児たちも交流することを楽しみにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生と園児双方にとってメリットのある活動であるので、継続できるよう支援していきたい。
地域（保護者）	<ul style="list-style-type: none"> ・上秋津の共育コミュニティのテーマである「繋ぐ」を意識した取組ができ、この3年間でより幼小中の連携が深くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小中の連携が今後も継続していけるように、コーディネーターとして役割を果たしていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

- ・保育実習では、ペアを組んで活動することで「自分のお兄ちゃん、お姉ちゃん」という意識が芽生え、園児は安心して甘え、中学生は小さな園児を愛おしそうに表情で優しく接している姿が見られて、とても心温まる交流となっている。交流後も、手紙のやり取りをしたり、クリスマスには手作りのカードをプレゼントしてもらったりとつながりを感じることができた。
- ・親子での芋苗植えと芋ほりは毎年行っており、保護者も楽しみにしてくれている。家庭でも親子間の共通の話題にもなると好評である。
- ・「園児がさつまいもを収穫して下準備をし、蒸しパンの生地は中学生が作る。トッピングは園児が。」と園児と中学生の役割を中学生に知らせ、中学生が把握してから進めていったことで、中学生も園児にどのように接したら良いか、ということが分かりやすかったのではないかと感じた。
- ・かまどベンチ交流では2度目の交流なので、お互いに遠慮することなくスムーズに活動が進められている。園児と中学生の心の距離が縮まることで、園外で出会ったときにも声をかけ合ったりする姿も出てきており嬉しく思っている。これから上秋津地域で育っていく子供たちにとって、このつながりを大切にしていきたいと思っている。
- ・かまどベンチの存在を知ったことで、保護者からも「かまどベンチって初めて聞いたよ」「どんな物なのか見てみたい」との声もあった。園児が防災について知ったり、意識を高めることで、保護者の防災意識も高めていくことを実感できた。
- ・園児数が減少していく中で、地域の方との触れ合える機会は貴重である。これからもつながりを深めながら、継続して取組を進めていきたいと考えている。

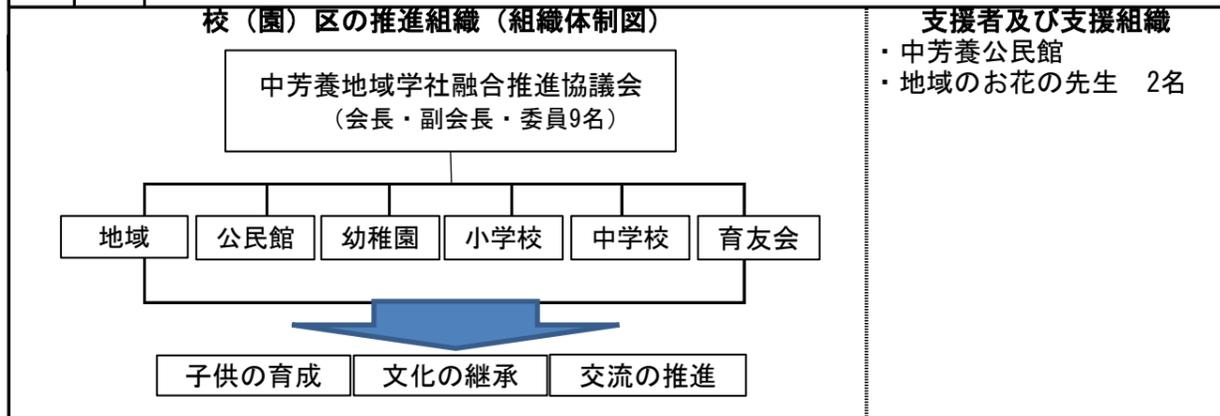


学校・園名	田辺市立中芳養幼稚園	公民館名	中芳養公民館
-------	------------	------	--------

学社融合における学校・地域の様子

「地域とともにある学校 学校でつながる地域の“わ”」をテーマに、「子供の育成」「文化の伝承」「交流の推進」を3つの柱として取組を進めてきた。この取組の成果を生かし、地域とのつながりを大切にした取組を深める中で、地域の方と園児が交流する機会や体験的な活動が充実しつつある。菜園活動の指導や園内活動の援助、地域学習の支援、自然体験活動の場の提供などたくさんの支援と協力を頂いているところである。

目 標	学校・園・地域 ・子供たちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。 ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。
--------	--



取組(活動内容・ねらい・日時等)

☆地域の方の力を頂き、豊かな体験を☆

数年前からの取組で、地域のお花の先生2名を招いてのフラワーアレンジメント教室。今年度は『子供が楽しく、喜んでアレンジメントができるように』をねらいとし、実際に作るものやテーマを立て、取り組んできた。

✿フラワーアレンジメント教室✿

○母の日のプレゼント作り

“お母さんに感謝の気持ちを込めてフラワーアレンジメント作りを楽しもう”

- ・4月末 フラワーアレンジメントの先生との打合せ
- ・5月8日、10日 材料などの準備、お花の運び入れなど
- ・5月11日 母の日のプレゼント作り



○合同作品展のフラワーアレンジメント作り

“お花やいろんな材料を使って自分のフラワーカップケーキやお花飾り作りを楽しもう”
 “みんなでお花や木の実などを使って大きなフラワーケーキ作りを楽しもう”

- ・11月末 作品展に向けての打合せ
- ・12月4日 具体的な作品のテーマや準備物についての打合せ
- ・12月5日、6日 アレンジメントの材料準備、お花の運び入れ
- ・12月7日 フラワーアレンジメント作り



- ①一人一人「フラワーカップケーキ」と「お花飾り」作り
- ②共同で大きな「フラワーケーキ」作り

・12月8日、9日 中芳養合同作品展出品へ
 作品展終了後、撤去のお手伝いや お花の手入れをして頂く。



	成 果	課 題
学校・園	・花の扱い方や生け方など職員では分からないことが沢山あるが、専門的な知識や技術など丁寧に教えて頂いた。 ・幼稚園に何度も足を運んで下さり、先生と園児たちとのかかわりが深まった。また、園の状況なども理解して頂き、園外保育や行事など他の場面でも協力を得ることができた。	・花や材料などの準備で、先生方に負担が大きかったところがあったと思う。打合せの段階でテーマや準備物など、お互いに負担にならないように考えていくべきである。
*子供にとって	・身近な花、初めて見る花や葉っぱなど様々な植物に触れ、感性が豊かになる機会となった。 ・自分なりに工夫をしながらフラワーアレンジメントに取り組み、「お家の人に喜んでもらった、地域の人に見てもらえた。」という満足感につながった。 ・優しく教えてもらったり、楽しくおしゃべりをしたりして、「お花の先生」と言って親しみを持って接するようになった。	・花を切ったり、生けたりする機会がほとんどないので、はさみの使い方や力加減など、難しいところがあった。
*子供にとって	・作品作りなどの体験活動の中で、自分で考え、形に表現することで感性を高めることができ、達成感を味わうことができた。 ・園児たちは地域の方々とともに作業をすることで、豊かな心を育むことができた。	・地域の方々との様々な体験活動を通して、園や家庭における生活の中で、自分で考える力や考えたことを伝える力を少しずつ育んでほしい。
地域（保護者）・公民館	・地域の方々が来園し、園児たちとともに体験活動をする中で、より専門的で詳しい知識を教えることができた。 ・地域の方々は、園児たちの取組や様子を知ることができ、幼稚園の教育に関心を持つ良い機会となった。	・さらに多くの地域の方々が、園児たちと関わることができるように各種団体の連携を強めていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

○今年度は2名の先生で子供たちに優しく丁寧にフラワーアレンジメントを教えていただいた。母の日のプレゼントとしてお家の人にとっても喜んでもらったことや、合同作品展では地域の方から温かい声をかけて頂き、「園児らの作品、素敵やな。可愛らしいわ。」と褒めてもらったことで子供たちは満足感を十分に味わうことができた。

また、保護者の方もお花の先生方に対して感謝の気持ちを抱いたり、「地域の方に協力頂いている、中芳養って温かい地域」という実感が湧いている様子であった。

○お花や材料の準備などでは、ガーベラの茎に挿しやすいように一つ一つに針金を入れるなどの細かい所や、作品展後も綺麗なままでお家に持って帰られるように手入れをして下さったり、いろいろ気遣って頂いた。今後も子供たちがどうしたら楽しく喜んで取り組めるかを先生方と打ち合わせ、準備なども負担にならないようにしていきたい。

○子供の方から「お花を寝かせてみよう。」という言葉で表現したり、こちらがカップケーキのつもりで提示しようとしたが、「シャーベットみたい。」と喜んでる姿を見て、『私も勉強させてもらえたとし、子供の発想ってやっぱり素敵やわ』とおっしゃって下さった。お互いに刺激を受け、お互いに多くの学びがある取組であったと実感した。

今後も子供の豊かな心の育ちにつながる機会を大事にし、地域の幼稚園としてより地域から愛されるよう、温かい関係づくりを深めていきたい。

